

# 日本研究・知的交流事業に必要な経費

## 日中交流センター事業費

### 1. 人物交流事業費

- (1) 受託事業（日中交流センター）
- (2) 中国高校生の招へい事業
- (3) ネットワーク整備事業（派遣・招へい）

### 2. 催し等事業費

- (1) 中国「ふれあいの場」事業（共同設置）
- (2) 中国「ふれあいの場」事業（助成）

### 3. 文化資料事業費

- (1) ネットワーク整備事業（ウェブサイト構築・運営）

### 4. 調査研究費

- (1) ネットワーク整備事業（交流担い手ネットワーク構築）

日中交流センター事業費

1. 人物交流事業費 / (1) 受託事業(日中交流センター)

日中交流の分野で、国際交流基金の業務趣旨に合致する事業を外部から受託し実施する。

合計額 11,474,292 円

	事業名	期間	事業内容
1	コミュニティページ運営	2011.04.01 ~ 2012.03.31	財団法人日中友好会館からの受託により、「21世紀東アジア青少年大交流計画 (JENESYS Programme)」の一環として、同会館が日本に招へいする中国の高校生、中国に派遣する日本の高校生を対象にした、高校生交流のコミュニティ・ページを運営。事業を通して形成された人間関係の持続・発展を目的としたもので、日中交流センターが管理運営する「心連心ウェブサイト」の一部を提供 URL: <a href="http://tanki.chinacenter.jp/">http://tanki.chinacenter.jp/</a>

日中交流センター事業費

1. 人物交流事業費 / (2) 中国高校生の招へい事業

中国の高校生を招へいし、日本の社会と文化を知る機会を提供するとともに、日本の人々にも中国人と直接交流し、中国の文化を知る機会を提供する。

合計額 80,359,191 円

	事業名	人数	期間	事業内容
1	[長期招へい] 中国高校生 (第5期生)	38	2010.08.31 ~ 2011.07.23	中国の高校生に11カ月間の日本滞在の機会を提供。招へい者が日本の社会と文化を知り、同時に招へい者を取り巻く日本の人々も中国人と直接交流する機会を持つことで、「人」と「人」の心のつながりをつくり、日中両国の長期的な関係発展の基礎となる信頼関係を築くことを目的とする。第5期生は、2010年8月31日より2011年7月23日まで日本に滞在
2	[長期招へい] 中国高校生 (第6期生)	32	2011.08.30 ~ 2012.07.21	中国の高校生に11カ月間の日本滞在の機会を提供。招へい者が日本の社会と文化を知り、同時に招へい者を取り巻く日本の人々も中国人と直接交流する機会を持つことで、「人」と「人」の心のつながりをつくり、日中両国の長期的な関係発展の基礎となる信頼関係を築くことを目的とする。第6期生は、2011年8月30日より2012年7月21日まで日本に滞在
3	[長期招へい] 中国高校生 フォロワーアップ	—	2011.04.01 ~ 2012.03.31	中国高校生長期招へい事業に参加した生徒が帰国した後、つながりの維持や卒業生どうしのネットワーク拡大のため、交流会やフォローアップを実施。更に、必要に応じて、特に日本の大学進学時のバックアップなども行う。一例として、過去に中国高校生長期招へい事業に参加した生徒が日本の大学に進学し、日本で生活している様子の動画配信も実施

日中交流センター事業費

1. 人物交流事業費 / (3) ネットワーク整備事業(派遣・招へい)

日本と中国の間での主として青少年交流事業を実施し、将来にわたる交流の担い手としてのネットワーク構築を図る。

合計額 21,131,391 円

	事業名	人数	受入機関	期間	事業内容
1	大学生交流事業(延辺)	7	延辺大学	2011.09.23 ~ 2011.09.25	吉林省延吉市の延辺大学にある、延辺「ふれあいの場」へ日本の学生を派遣する。日本の学生が中心となって企画した交流会を開催し、現地の若者と文化交流を通じて、相互理解を深める。また「ふれあいの場」の知名度向上と活性化を図る
2	大学生交流事業(重慶)	10	重慶師範大学	2012.03.23 ~ 2012.03.26	重慶市の重慶師範大学にある、重慶「ふれあいの場」へ日本の学生を派遣する。日本の学生が中心となって企画した交流会を開催し、現地の若者と文化交流を通じて、相互理解を深める。また「ふれあいの場」の知名度向上と活性化を図る
3	大学生交流事業(西寧)	6	青海民族大学	2011.05.17 ~ 2011.05.23	青海省西寧市の青海民族大学内にある、西寧「ふれあいの場」で開催される日中文化交流事業に、日本の学生を派遣する。※2010年度事業として実施予定であったが、震災の影響で延期したもの
4	大学生交流事業(西寧)	14	青海民族大学	2011.10.27 ~ 2011.10.31	青海省西寧市の青海民族大学にある、西寧「ふれあいの場」へ日本の学生を派遣する。日本の学生が中心となって企画した交流会を開催し、現地の若者と文化交流を通じて、相互理解を深める。また「ふれあいの場」の知名度向上と活性化を図る
5	大学生交流事業(西寧)	6	青海民族大学	2012.03.22 ~ 2012.03.27	青海省西寧市の青海民族大学にある、西寧「ふれあいの場」へ日本の学生を派遣する。日本の学生が中心となって企画した交流会を開催し、現地の若者と文化交流を通じて、相互理解を深める。また「ふれあいの場」の知名度向上と活性化を図る
6	大学生交流事業(南京)	5	金陵図書館	2011.09.02 ~ 2011.09.05	江蘇省南京市の金陵図書館にある、南京「ふれあいの場」へ日本の学生を派遣する。日本の学生が中心となって企画した交流会を開催し、現地の若者と文化交流を通じて、相互理解を深める。また「ふれあいの場」の知名度向上と活性化を図る
7	大学生交流事業(南京)	5	金陵図書館	2012.03.08 ~ 2012.03.13	江蘇省南京市の金陵図書館にある、南京「ふれあいの場」へ日本の学生を派遣する。日本の学生が中心となって企画した交流会を開催し、現地の若者と文化交流を通じて、相互理解を深める。また「ふれあいの場」の知名度向上と活性化を図る
8	大学生交流事業(ハルビン)	8	黒龍江大学	2011.06.14 ~ 2011.06.30	黒龍江省ハルビンの黒龍江大学にある、ハルビン「ふれあいの場」へ日本の学生を派遣する。日本の学生が中心となって企画した交流会を開催し、現地の若者と文化交流を通じて、相互理解を深める。また「ふれあいの場」の知名度向上と活性化を図る
9	大学生交流事業(連雲港)	5	連雲港少年児童図書館	2011.09.07 ~ 2011.09.11	江蘇省連雲港市の連雲港少年児童図書館にある、連雲港「ふれあいの場」へ日本の学生を派遣する。日本の学生が中心となって企画した交流会を開催し、現地の若者と文化交流を通じて、相互理解を深める。また「ふれあいの場」の知名度向上と活性化を図る
10	大学生交流事業(連雲港)	6	連雲港少年児童図書館	2012.03.07 ~ 2012.03.12	江蘇省連雲港市の連雲港少年児童図書館にある、連雲港「ふれあいの場」へ日本の学生を派遣する。日本の学生が中心となって企画した交流会を開催し、現地の若者と文化交流を通じて、相互理解を深める。また「ふれあいの場」の知名度向上と活性化を図る

日中交流センター事業費

	事業名	人数	受入機関	期間	事業内容
11	高校生ふれあい訪問	7	北京日本文化センター 天津外国語学校 長春ふれあいの場	2011.09.18 ~ 2012.09.23	「心連心：中国高校生長期招へい事業」で招へいする中国の生徒の日本での受入高校を対象に、「ふれあいの場」がある都市への訪問交流事業を実施し、日本の高校生たちに直に中国に触れる機会を提供。中国で日本語学習を行っている高校との交流のほか、「ふれあいの場」での交流会を実施し、「ふれあいの場」事業を活性化
12	日中高校教員相互訪問	15（訪日） 13（訪中）	（訪日） 日本語国際センター （訪中） 南京外国語学校 南京工業大学 東北育才学校	2011.11.01 ~ 2012.03.31	「心連心：中国高校生長期招へい事業」の日本側受入校及び中国側出身校の教員が相互に訪問することで、日本側は招へい生の育った環境への理解を、中国側は招へい生の日本での生活状況への理解をそれぞれ深め、同事業の更なる発展と内容改善に資するもの
13	[招へい]ふれあいの場幹部	3	外務省 八橋庵かけはし 京都国際マンガミュージアム	2012.03.20 ~ 2012.03.25	大連ふれあいの場運営に関わる幹部3名を招へいし、日中交流センターと協議を行い、東京及び京都においてふれあいの場運営のために参考となる文化施設を視察

日中交流センター事業費

2. 催し等事業費 / (1) 中国「ふれあいの場」事業(共同設置)

現代日本の最新情報に接する機会が比較的限られる中国の地方都市において、日本情報を発信し、中国の市民、とりわけ青少年層の日本文化や社会に対する関心を喚起する

合計額 23,057,095 円

	事業名	都市	共催・協力機関	期間	事業内容
1	成都ふれあいの場	成都	広島・四川中日友好会館	2011.04.01 ~ 2012.03.31	現代日本の最新情報に接する機会が少ない中国の地方都市において、日本情報発信の拠点となる「ふれあいの場(中国語表記: 中日交流之窓)」を四川省成都市の広島・四川中日友好会館内に設置し、中国の一般市民、とりわけ青少年層の日本文化や社会に対する関心を喚起。「ふれあいの場」では、日本の書籍、漫画や雑誌の閲覧、音楽の視聴ができる他、日中文化交流イベントを開催
2	長春ふれあいの場	長春	長春図書館	2011.04.01 ~ 2012.03.31	現代日本の最新情報に接する機会が少ない中国の地方都市において、日本情報発信の拠点となる「ふれあいの場(中国語表記: 中日交流之窓)」を吉林省長春市の長春図書館内に設置し、中国の一般市民、とりわけ青少年層の日本文化や社会に対する関心を喚起。「ふれあいの場」では、日本の書籍、漫画や雑誌の閲覧、音楽の視聴ができる他、日中文化交流イベントを開催
3	南京ふれあいの場	南京	金陵図書館	2011.04.01 ~ 2012.03.31	現代日本の最新情報に接する機会が少ない中国の地方都市において、日本情報発信の拠点となる「ふれあいの場(中国語表記: 中日交流之窓)」を江蘇省南京市の金陵図書館内に設置し、中国の一般市民、とりわけ青少年層の日本文化や社会に対する関心を喚起。「ふれあいの場」では、日本の書籍、漫画や雑誌の閲覧、音楽の視聴ができる他、日中文化交流イベントを開催
4	Girls Be Sparkling (ファッション・メイクイベント)	大連 長春	大連中日友好協会 長春図書館	2011.10.26 ~ 2011.10.31	日本の現代ファッションを日本文化として「ふれあいの場」を通じて中国に発信。日本で活躍するヘアメイクアーティスト、ファッションリーダーが講師となり、最新ファッション・メイクテクニックを伝え、交流することで、相互理解を深化
5	ふれあいの場巡回公演事業	成都 西寧 青島 北京	広島・四川中日友好会館 青海民族大学 北京外国語大学 北京日本文化センター	2011.10.22 ~ 2011.10.31	日本文化と接する機会が限られた中国の地方都市にて、日中の音楽を通じた交流を図り、日本への親近感・関心を高めることを目的とした事業。日本でも活躍中の中国人歌手aminと、中国でも「桜」で有名な河口恭吾を招へい
6	「ちひろとトットちゃん」展		杭州図書館	2012.03.17 ~ 2012.03.31	日本文化と接する機会が少ない中国の地方都市にて、いわさきちひろの絵画と『窓際のトットちゃん』の展示を通じた交流を図り、日本への親近感・関心を高めてもらう。また、ふれあいの場の知名度向上と活性化を図る

日中交流センター事業費

2. 催し等事業費 / (2) 中国「ふれあいの場」事業(助成)

現代日本の最新情報に接する機会が比較的限られる中国の地方都市において、日本情報を発信し、中国の市民、とりわけ青少年層の日本文化や社会に対する関心を喚起する

合計額 6,571,802 円

	助成対象者・機関	都市	期間	事業内容
1	黒龍江大学東語学院	ハルビン	2011.04.01 ~ 2012.03.31	現代日本の最新情報に接する機会をより多くの一般市民に提供するため、黒龍江省ハルビンの黒龍江大学東語学院に対して主としてコンテンツ(漫画・雑誌・音楽CD等)の提供や日中文化交流イベントの開催等に関する経費支援を行うことにより、中国の一般市民、とりわけ青少年層の日本文化や社会に対する関心を喚起する。書籍、雑誌の閲覧のほか、日中学生交流会、マンガ講座等のイベントに989名が参加
2	延辺大学日本学研究所	延辺	2011.04.01 ~ 2012.03.31	現代日本の最新情報に接する機会をより多くの一般市民に提供するため、吉林省延辺市の延辺大学日本学研究所に対して主としてコンテンツ(漫画・雑誌・音楽CD等)の提供や日中文化交流イベントの開催等に関する経費支援を行うことにより、中国の一般市民、とりわけ青少年層の日本文化や社会に対する関心を喚起する。書籍、雑誌の閲覧のほか、「日本事情シリーズ」講演会、カラオケ大会等のイベントに2,641名が参加
3	大連中日文化交流協会	大連	2011.04.01 ~ 2012.03.31	現代日本の最新情報に接する機会をより多くの一般市民に提供するため、遼寧省大連市の大連中日文化交流協会に対して主としてコンテンツ(漫画・雑誌・音楽CD等)の提供や日中文化交流イベントの開催等に関する経費支援を行うことにより、中国の一般市民、とりわけ青少年層の日本文化や社会に対する関心を喚起する。書籍、雑誌の閲覧のほか、ファッション・メイクイベント等に1,668名が参加
4	連雲港少年児童図書館	連雲港	2011.04.01 ~ 2012.03.31	現代日本の最新情報に接する機会をより多くの一般市民に提供するため、江蘇省連雲港市の連雲港少年児童図書館に対して主としてコンテンツ(漫画・雑誌・音楽CD等)の提供や日中文化交流イベントの開催等に関する経費支援を行うことにより、中国の一般市民、とりわけ青少年層の日本文化や社会に対する関心を喚起する。書籍、雑誌の閲覧のほか、寿司作り、アフレコ大会等のイベントに2,767名が参加
5	青海民族大学	西寧	2011.04.01 ~ 2012.03.31	現代日本の最新情報に接する機会をより多くの一般市民に提供するため、青海省西寧市の青海民族大学に対して主としてコンテンツ(漫画・雑誌・音楽CD等)の提供や日中文化交流イベントの開催等に関する経費支援を行うことにより、中国の一般市民、とりわけ青少年層の日本文化や社会に対する関心を喚起する。書籍、雑誌の閲覧のほか、日本語コーナー、料理イベント等のイベントに10,774名が参加
6	杭州図書館	杭州	2011.11.28 ~ 2012.03.31	現代日本の最新情報に接する機会をより多くの一般市民に提供するため、浙江省杭州市の杭州図書館に対して主としてコンテンツ(漫画・雑誌・音楽CD等)の提供や日中文化交流イベントの開催等に関する経費支援を行うことにより、中国の一般市民、とりわけ青少年層の日本文化や社会に対する関心を喚起(2012年3月に開館)
7	重慶師範大学	重慶	2011.04.01 ~ 2012.03.31	現代日本の最新情報に接する機会をより多くの一般市民に提供するため、重慶市の重慶師範大学に対して主としてコンテンツ(漫画・雑誌・音楽CD等)の提供や日中文化交流イベントの開催等に関する経費支援を行うことにより、中国の一般市民、とりわけ青少年層の日本文化や社会に対する関心を喚起する。書籍、雑誌の閲覧のほか、日本語コーナー、和服の着付け等のイベントに4,482名が参加
8	中山大学	広州	2011.04.01 ~ 2012.03.31	現代日本の最新情報に接する機会をより多くの一般市民に提供するため、広東省広州市の中山大学外国語学院に対して主としてコンテンツ(漫画・雑誌・音楽CD等)の提供や日中文化交流イベントの開催等に関する経費支援を行うことにより、中国の一般市民、とりわけ青少年層の日本文化や社会に対する関心を喚起する。書籍、雑誌の閲覧のほか、日本語コーナー、日本学論壇等のイベントに1,327名が参加

日中交流センター事業費

3. 文化資料事業費 / (1) ネットワーク整備事業(ウェブサイト構築・運営)

将来にわたり日中間のかけ橋となり得る人々のネットワークを構築し、日中交流の基盤強化を図る。

合計額 24,108,904 円

	事業名	期間	事業内容
1	「心連心ウェブサイト」のサイト運営	2011.04.01 ~ 2012.03.31	日中間の交流事業を通じて生まれた友情の輪をつなぎ、広げていくために、「心連心ウェブサイト」を運営。閲覧者による書き込み機能が充実した「コミュニティ・サイト」として機能し、閲覧者は閲覧のほか、意見・感想を書き込むことで、他の閲覧者と交流が可能。日本語と中国語の同時翻訳機能を搭載
2	「心連心ウェブサイト」のコンテンツ管理	2011.04.01 ~ 2012.03.31	日本と中国の若い世代の間で人気の高い、映像、音楽、ファッション、グルメ等の最新情報、日本と中国の現役大学生による大学紹介、アニメを通じた日本文化紹介等の情報を発信
3	「心連心ウェブサイト」のリニューアル	2012.01.01 ~ 2012.03.31	日中間の交流事業を通じて生まれた友情の輪をつなぎ、広げていくために、インターネット上で、「心連心ウェブサイト」を運営。このサイトのリニューアルを実施

4. 調査研究費 / (1) ネットワーク整備事業(交流担い手ネットワーク構築)

日中交流促進にかかる環境整備 (中国での日本文化紹介ラジオ番組など)

合計額 1,250,000 円

	事業名	期間	事業内容
1	ラジオ番組制作・放送事業	2010.07.01 ~ 2011.06.30	日本の「流行音楽」と「流行情報」を中国語で紹介するラジオ番組を制作し、日本の現代文化に関する情報が少ない中国国内各地域の主要FMラジオ局に無償もしくは低額で提供し、放送を実現。更に、番組において、国際交流基金日中交流センターが実施する事業の告知・広報を行い、センターの他事業と連動させることで、中国国内でのセンター事業の一層の浸透を図る



# 日本研究・知的交流事業に必要な経費

## 米州交流事業費

### 1. 日本研究事業費

- (1) 日本研究ネットワーク強化（主催）〔米州〕
- (2) 日本研究ネットワーク強化（助成）〔米州〕
- (3) 日本研究機関支援〔米州〕

### 2. 人物交流事業費

- (1) 日本研究フェローシップ（学者・研究者 長期）〔米州〕
- (2) 日本研究フェローシップ（論文執筆）〔米州〕
- (3) 日本研究フェローシップ（学者・研究者 短期）〔米州〕

### 3. 催し等事業費

- (1) 知的交流会議（主催）〔米州〕
- (2) 知的交流会議（助成）〔米州〕
- (3) 人材育成グラント〔米州〕

米州交流事業費

1. 日本研究事業費 / (1) 日本研究ネットワーク強化(主催)[米州]

学問分野を超えた日本研究者・研究機関相互の連携と協力を推し進め、各国・地域における中核的な知日層とわが国の長期的な関係を維持発展させるため、海外の日本関連学会や元日本人留学生の組織化・活動を支援する。

合計額 7,712,902 円

	事業名	対象国	共催機関	期間	事業内容
1	北米日本研究調査	カナダ 米国	ハワイ大学	2011. 04. 01 ~ 2012. 03. 31	北米における日本研究の実態を把握するため日本研究調査を実施

米州交流事業費

1. 日本研究事業費 / (2) 日本研究ネットワーク強化(助成)[米州]

国境・学問分野を越えた日本研究者・研究機関間の連携、相互協力を推し進めるべく、学会の横断的な組織化を支援する。

合計額 8,883,693 円

	助成対象機関	対象国	期間	事業内容
1	カナダ日本研究学会	カナダ	2011.04.01 ~ 2012.03.31	カナダにおける唯一の日本研究学会であるカナダ日本研究学会の第24回年次大会を幹事校セントメリーズ大学において実施。テーマは、日加間の経済的、商業的、文化的結びつき、日本の文化的、環境的、歴史的、経済的な発展、及び政治的関係等
2	トロント大学図書館	カナダ	2011.04.01 ~ 2012.03.31	北米等の大学図書館等で日本研究を専門としている若手司書を対象としたトレーニング・ワークショップ。大学院司書課程で学べない日本研究に特化したカタログ、レファレンス、図書館システム、書籍購入、アーカイブ等を短期間で研修し、次世代の司書育成と併せネットワーク構築を図る
3	ブラジル日本研究学会(ABEJ)	ブラジル	2011.05.01 ~ 2013.03.31	ブラジル日本研究学会(Brazilian Association on Japanese Studies: ABEJ)が同国内外からの参加を得て行うシンポジウム。テーマは「ラテンアメリカにおける日本研究—動向、展望および共同研究の可能性」。ラテンアメリカ・アジア・アフリカ学会(ALADAA)や南米アジア協会(アルゼンチン)との関係により、日本研究者間の情報交換、ネットワーク化を図る

1. 日本研究事業費 / (3) 日本研究機関支援 [米州]

各国において日本研究の中核的役割を担うべき単一・少数の機関に対し、日本研究事業の拡充・発展に必要な様々な支援を、包括的、集中的且つ中長期的に行い、該当国の日本研究基盤となる拠点機関の整備を進める。

合計額 63,051,149 円

	対象機関	対象国	期間	事業内容
1	ウォータールー大学	カナダ	2011.04.01 ~ 2012.03.31	The Center for Japanese Studies, Symposium on Japanese Studies in Canada (邦題：日本研究センター「カナダにおける日本研究」シンポジウム)
2	コロンビア大学中世日本研究所	米国	2011.05.01 ~ 2012.03.31	コロンビア大学中世日本研究所と同大学音楽学部が共同で実施する日本古典音楽研究とパフォーマンスプロジェクト1年目。雅楽・邦楽クラスの設置、日本での夏季集中トレーニングなどを通して、3カ年にわたりコースの充実を図る
3	ウエスタンミシガン大学	米国	2011.05.01 ~ 2012.04.30	教員ポスト拡充(中世日本文化)と地域アウトリーチプログラム・コーディネーター拡充(日本文化)及び関連セミナー・ワークショップを実施する3カ年事業の1年目。新規教員の雇用、中西部地域でのアウトリーチ活動、近代日本文化に関するワークショップなどを実施。大学内外での広範な日本文化理解を促進
4	デューク大学	米国	2011.07.01 ~ 2012.06.30	ノースカロライナ州の、デューク大学(ダーラム市)、ノースカロライナ大学UNC(チャペルヒル市)、ノースカロライナ州立大NCSU(州都ラーリー)の3地域の主要3大学において、共同で行う日本研究センター事業3カ年構想の1年目。日本研究フォーラム(月例セミナー)、スタディ・グループ支援事業、教員・院生の研究・出版支援、図書拡充支援、ウェブ開発・拡充などを実施
5	バージニア大学	米国	2011.07.01 ~ 2012.06.30	歴史、メディア研究、人類学の3分野で教員ポストを拡充し、日本と世界の比較・関係に関する研究を深化させる5カ年事業の4年目。平成23年度は、歴史学の淳教授の給与を助成

米州交流事業費

	対象機関	対象国	期間	事業内容
6	イリノイ大学	米国	2011. 08. 01 ~ 2012. 07. 31	中西部地域の大学に所属する様々な分野の教員を対象とした日本研究セミナーの2年目。域内の大学が持ち回りでホストとなり、年5回、2名の専門家により歴史・文学・宗教・政治などをテーマとしたセミナーを実施
7	アリゾナ州立大学	米国	2011. 09. 01 ~ 2012. 08. 31	年度毎に設定するテーマに沿って、複合的日本研究拡充を目指す3カ年事業の1年目。平成23年度は「アジア・日本の文学、翻訳、出版」をテーマにセミナー・ワークショップ、アリゾナ州立大学美術館・地域美術館の美術展示、図書拡充、学生・一般向け映画上映事業などを実施
8	ワシントン大学	米国	2011. 09. 01 ~ 2012. 08. 31	人文分野(建築、芸術史、歴史、演劇、宗教学等)の日本研究促進を図る3カ年事業の2年目。平成23年度は客員講師を招へいし、周辺大学との連携、北西岸の大学における出張講義・セミナー等を実施
9	カリフォルニア州立大学サンタバーバラ校	米国	2011. 09. 20 ~ 2012. 08. 31	カリフォルニア州立大学サンタバーバラ校の日本研究の中でも日本近代史分野の拡充を図る3カ年事業の2年目。平成23年度は同分野の教員ポスト新設、夏期講座、客員教授招へい、大学院生向け奨学金の給付等を実施
10	シンシナティ大学	米国	2011. 12. 01 ~ 2012. 07. 31	シンシナティ大学アジア研究プログラム拡充計画の一環として、日本文学担当の助教授クラスのポストを新設し、国際交流基金による3年間の支援終了後のポスト定着までを目指す3カ年事業の1年目。平成23年度は新設ポストに着任する教員の採用活動を実施
11	ファーマン大学	米国	2011. 12. 01 ~ 2012. 07. 31	ファーマン大学アジア研究学部に日本語教員ポストを新設する3カ年事業の1年目。併せて日本文化(ポップカルチャー、美術等)クラス拡充、訪日研修の拡充(学期開始前の短期間)、日本研究会議・シンポジウム、コース開発、などを実施
12	ミシガン州立大学連合日本センター	米国	2012. 01. 01 ~ 2012. 12. 31	日本の文化と環境への理解に関する教育プログラムの創設をめざす3カ年事業の1年目。客員講師招へい(日本の文化と環境)、学生訪日スカラシップ(日本語学習を含む)、インターンシップ支援などを実施
13	エル・コレヒオ・デ・メヒコ	メキシコ	2011. 04. 01 ~ 2012. 03. 31	大学院の研究課程におけるメキシコ革命の影響を受けた日本人芸術家をテーマとする公開集中学術セミナー(リサーチ研究会議助成)「北川民治と佐野碩 革命期メキシコの日本人芸術家」の実施、日本研究図書資料拡充にあたっての日本人図書館情報学専門家(那須雅熙 聖徳大学教授)の派遣、和書及び洋書の拡充
14	メキシコ工科大学(ITAM)	メキシコ	2011. 08. 05 ~ 2011. 09. 30	「日本研究コース(通称:吉田茂日本研究講座)」において、日本の政治・外交政策等に関する短期集中講義を行うため、David Potter(南山大学教授)を客員教授として派遣
15	サンパウロ大学	ブラジル	2011. 04. 01 ~ 2012. 03. 31	日本民族学により日本文化の特質を解釈・分析する講座を修士課程学生向けに行うため、安室知(神奈川大学教授)を客員教授として派遣。また、図書拡充助成として、歴史学、民俗学、人類学分野の日本研究専門書を拡充。更に、日本文化研究所付鈴木悌一図書館の蔵書をデータベース化

米州交流事業費

2. 人物交流事業費 / (1) 日本研究フェローシップ(学者・研究者 長期) [米州]

諸外国の優れた日本研究者に日本で研究・調査活動を行う機会を提供する。

合計額 59,705,293 円

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ
1	KNIGHT, Nancy Jane	トロント大学 特任教授	カナダ	早稲田大学	2010.11.22 ~ 2011.04.14	アジアにおける高等教育のリージョナライゼーションー日本の役割
2	MOLCHANOV, Mikhail A.	セント・トーマス大学 准教授	カナダ	青山学院大学E. S. S	2012.01.16 ~ 2012.06.16	ユーラシアの地域主義と日本の東アジア地域における指導的役割の比較・研究
3	PICARD, Martin	マギル大学 研究者	カナダ	和光大学	2012.03.13 ~ 2013.03.12	日本のビデオゲームの文化
4	QIN, Xiaoli	カナダ・ロイヤルオンタリオ博物館 共同研究員	カナダ	独立行政法人 奈良文化財研究所	2010.07.16 ~ 2011.07.15	カナダ・ロイヤルオンタリオ博物館所蔵の八木遺跡出土遺物に関する研究
5	ROCKWELL, Geoffrey Martin	アルバータ大学 教授	カナダ	立命館大学	2011.10.02 ~ 2011.12.21	日本のビデオゲーム文化と学習目的に拡張されたリアリティゲーム
6	BATES, Peter	ディキンソン大学 助教授	米国	立命館大学	2010.08.16 ~ 2011.07.15	地震の文化：関東大震災と大正時代の日本
7	BENDER, Shawn	ディキンソン大学 助教授	米国	東京大学	2010.08.20 ~ 2011.07.17	テクノユートピアが現実になる：ロボット工学と日本の高齢化社会マネージメント
8	BODIFORD, William Marvin	カリフォルニア大学ロサンゼルス校 教授	米国	東洋大学	2011.02.01 ~ 2011.06.22	徳川時代の知的生活における仏教徒の印刷物及び書籍
9	BOROVOY, Amy	プリンストン大学 准教授	米国	国際基督教大学	2011.08.13 ~ 2012.05.12	君をサポートする！日本における社会医学を通じた行動改革
10	CONLAN, Thomas	ボードイン大学 教授	米国	金沢大学	2011.08.02 ~ 2012.08.01	大内氏と日本の幻影時代(1400~1551)
11	COOK, Lewis	ニューヨーク市立大学クイーンズ校 准教授	米国	国立国文学研究資料館	2012.01.18 ~ 2012.09.17	古今和歌集：古代・近代詩歌の研究
12	KANEKO, Maki	カンザス大学 准教授	米国	東京文化財研究所	2011.07.08 ~ 2012.07.06	国家サービスとしての芸術：戦時中の日本美術(1930~1970)
13	MAEDA, Tamaki	ブリティッシュ・コロンビア大学 講師	米国	東京藝術大学	2010.09.06 ~ 2011.09.05	1910~1930年代の日中芸術交流
14	MANABE, Noriko	プリンストン大学 准教授	米国	東京藝術大学	2012.02.01 ~ 2012.09.01	日本におけるミュージカルサブカルチャー：ロック、ヒップホップ、レゲエ、エレクトロニックダンスミュージックの場面メイキング

米州交流事業費

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ
15	McKELWAY, Matthew Philip	コロンビア大学 准教授	米国	学習院大学	2010.09.16 ~ 2011.08.31	絵のゆらぎ：扇絵の社会的文化的動向
16	METZLER, Mark	テキサス大学オー スティン校 准教授	米国	京都大学	2011.08.16 ~ 2012.08.14	ポストモダンデフレーション：なぜ21世紀のキャピタリズムは違 うのか？
17	OSHIMA, Ken	ワシントン大学 准教授	米国	東京大学	2011.09.03 ~ 2012.09.02	メタボリック東京(1960~2010)
18	PROUGH, Jennifer	バルパライソ大学 助教授	米国	関西学院大学	2012.01.10 ~ 2012.08.02	都再訪：京都観光産業における歴史と遺産
19	SANGO, Asuka	カールトン大学 助教授	米国	東京大学	2010.07.13 ~ 2011.07.12	後光：日本仏教儀礼における力と知識
20	SCOTT, Christopher	マカレスター大学 准教授	米国	日本大学	2011.09.01 ~ 2012.08.31	日本を越えた日本文学：「日本語文学」の地政学
21	ROMAN ZAVALA, Alfredo	エル・コレヒオ・ デ・メヒコ 教授	メキシコ	東京大学	2011.07.30 ~ 2012.01.29	日本ODAの50年—ラテンアメリカの経験
22	HIRATA, Helena Sumiko	フランス国立科学 研究センター リ サーチディレク ター	ブラジル	一橋大学	2011.03.01 ~ 2011.06.30	介護に関する理論と実践—フランス、ブラジル及び日本における 高齢者介護労働者の比較研究
23	KUSANO, Darci Yasuco	サンパウロ大学 准教授	ブラジル	立教大学	2010.09.27 ~ 2011.09.26	寺山修司の世界
24	QUINTERO, Edonodio	ロス・アンデス大 学 教授	ベネズエラ	東京大学	2011.09.01 ~ 2012.06.30	20世紀の主要日本人作家の伝記

米州交流事業費

2. 人物交流事業費 / (2) 日本研究フェローシップ(論文執筆) [米州]

人文・社会学の研究者で博士論文作成のため来日する必要がある者を招へいする。

合計額 102,738,759 円

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ
1	BECK, Jodie Nicole	マギル大学博士課程	カナダ	日本大学	2010.09.02 ~ 2011.11.01	闘う文学：フェミニストによる日本語のSF
2	BETH, Suzanne	モントリオール大学博士課程	カナダ	名古屋大学	2011.06.05 ~ 2011.12.04	異文化映画研究における方法論
3	FUJIWARA, Gideon	ブリティッシュ・コロンビア大学 博士課程	カナダ	弘前大学	2010.07.10 ~ 2011.07.09	19世紀日本における神霊とアイデンティティー—平田国学と津軽グループ
4	IVANOVA, Gergana Entcheva	ブリティッシュ・コロンビア大学 博士課程	カナダ	上智大学	2010.06.01 ~ 2011.07.31	日本近世・近代における平安女性像の考察—受容と創造の観点から—
5	LEE, Victoria	プリンストン大学 博士課程	カナダ	北里研究所	2010.09.01 ~ 2011.08.31	1890~1930年日本の微生物学と産業における科学研究
6	PHAN, Cam Van Thi	ブリティッシュ・コロンビア大学 博士課程	カナダ	京都大学	2012.02.07 ~ 2013.02.06	悔恨の儀式：前近代中国におけるテキストとしての伝統から宗教的实践へ
7	ARCH, Jakobina	ハーバード大学 博士課程	米国	大阪市立大学	2011.07.02 ~ 2012.07.01	現代日本初頭期における捕鯨の環境的歴史
8	BRIGHTWELL, Erin	プリンストン大学 博士課程	米国	立教大学	2012.03.12 ~ 2012.09.11	鎌倉時代における「中国」
9	BUENO, Alex	プリンストン大学 博士課程	米国	東京大学	2010.09.23 ~ 2011.09.22	デジタル時代の東京：団地、アニメと都市空間
10	CARTER, Caleb	カリフォルニア大学ロサンゼルス校 博士課程	米国	慶應義塾大学	2011.08.23 ~ 2012.08.22	近代日本における修験道の変質：戸隠山をケーススタディとして
11	CLERICI, Nathen	ブリティッシュ・コロンビア大学 博士課程	米国	北海道大学	2010.09.20 ~ 2011.09.19	「純」でも「大衆」でもない：現代日本文学におけるサブカルチャーのインパクト
12	COOK, Ryan Marshall	エール大学 博士課程	米国	早稲田大学	2010.09.30 ~ 2011.09.29	日本における映画と映画愛好家：戦後から現代に至るまでの芸術と政策
13	CRUZ, Aileen	カリフォルニア大学バークレー校 博士課程	米国	早稲田大学	2011.10.01 ~ 2012.06.30	暴力の回路：文学と日本の帝国モダニティの主題 (1913~1933)

米州交流事業費

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ
14	DILLON, Michael	南カリフォルニア大学 博士課程	米国	一橋大学	2011.09.09 ~ 2012.07.08	デッドゾーン：現代映画における生死に対する支配力と流動性
15	FEENEY, William	シカゴ大学 博士課程	米国	上智大学	2012.02.27 ~ 2013.02.26	「傷つくまで笑う」：日本のコメディにおける暴力のやりとり
16	FRYDMAN, Joshua	エール大学 博士課程	米国	奈良女子大学	2011.08.22 ~ 2012.08.21	歌木簡：銘に見る日本の初期詩歌の研究
17	GOVELLA, Kristi Elaine	カリフォルニア大学バークレー校 博士課程	米国	東京大学	2010.09.30 ~ 2011.09.29	浸透力のある政策決定：多数国間連携と日本における環境分野の協力
18	GUEST, Jeniffer	コロンビア大学 博士課程	米国	早稲田大学	2010.08.26 ~ 2011.08.25	漢文教育と近代以前の日本文学文化の基礎(900~1250)
19	HEDBERG, William Christopher	ハーバード大学 博士課程	米国	東京大学	2011.01.11 ~ 2011.03.15	徳川時代の日本における白話文学の翻訳と受容
20	HEMMANN, Kathryn	ペンシルバニア大学 博士課程	米国	大阪大学	2012.01.01 ~ 2012.04.30	処女と魔女：現代日本文学における文体と女性の主観性の形成
21	HILL, Megan	ミシガン大学 博士課程	米国	東京大学	2011.09.16 ~ 2012.09.15	アーバンオーラルエージェンシー：東京浅草混合音の社会的効果
22	HOLLOWAY, David	ワシントン大学 博士課程	米国	立正大学	2011.08.19 ~ 2012.07.18	美を超えて：金原ひとみ、川上未映子、長谷川順子そして現代日本文学における文体
23	HUMPHREY, David	カリフォルニア大学バークレー校 博士課程	米国	東京大学	2011.09.30 ~ 2012.09.29	コミック：日本のコメディ、感情とテクノロジー
24	ICREVERZI, Kimberly	カリフォルニア大学アーバイン校 博士課程	米国	明治学院大学	2010.09.15 ~ 2011.09.14	佐藤政権時代(1964~1972)の政治的映画の行き詰まり：「本当の女性」問題
25	INGRAM, Evan	ハーバード大学 博士課程	米国	筑波大学	2012.01.31 ~ 2013.01.30	重源と東大寺再建
26	LAZARUS, Ashton	エール大学 博士課程	米国	東京大学	2011.08.31 ~ 2012.08.30	美的芸術、作品の威光：田楽・今様・猿楽におけるテキスト、イメージとパフォーマンス
27	LEBARON VON BAEYER, Sarah	エール大学 博士課程	米国	早稲田大学	2011.06.27 ~ 2012.02.28	トランスナショナルワールドと民族的な生活：日本とブラジルにおける、また二国間の日系移民
28	MAYO, Christopher Michael	プリンストン大学 博士課程	米国	関西大学	2010.08.30 ~ 2011.08.29	絆：戦国時代の太友氏による贈与と商品取引
29	MITCHELL, Matthew	デューク大学 博士課程	米国	大阪市立大学	2012.01.01 ~ 2012.12.31	近代宗教サイトの調査と信濃地方善光寺にみるそれらの領土



米州交流事業費

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ
30	MORISHIMA, Yuki	ピッツバーグ大学 博士課程	米国	東京大学	2010.09.03 ~ 2011.06.02	天皇の肖像：政治的儀式的慣習
31	NELSON, Linsay Rebecca	南カリフォルニア 大学 博士課程	米国	筑波大学	2010.08.20 ~ 2011.07.19	日本文学及び映画におけるモンスターチルドレン
32	NUFFER, Laura	ペンシルバニア大 学 博士課程	米国	慶應義塾大学	2011.09.18 ~ 2012.05.17	動物の魅力：中世日本文学における異類婚姻譚
33	RIO, Aaron Michael	コロンビア大学 博 士課程	米国	東京大学	2010.08.01 ~ 2011.07.31	中世日本の禅画における漢詩と神聖な像
34	RITTER, Gabriel	カリフォルニア大 学ロサンゼルス校 博士課程	米国	東京国立近代美術 館	2011.09.06 ~ 2012.09.05	北脇昇と日本のシュールレアリズム (1930~1951)
35	SAEKI, Eiko	ラトガース大学 博 士課程	米国	早稲田大学	2010.09.09 ~ 2011.09.08	曖昧な生命の境界：西洋医学と日本の地方の知識の結合
36	SAILE, Florian	カリフォルニア大 学パークレー校 博 士課程	米国	龍谷大学	2010.09.01 ~ 2011.08.31	成仏の可能性に関する議論—中世の法相論議における「五姓各別」の解釈の展開の研究
37	SAUNDERS, Rachel	ハーバード大学 博士課程	米国	東京大学	2011.10.03 ~ 2012.09.30	天国に触れる：家父長の肖像、奇跡的な起源と鎌倉期巻物の魔術的詩学
38	SCHIEDER, Chelsea Szendi	コロンビア大学 博 士課程	米国	早稲田大学	2010.09.04 ~ 2011.09.03	女性殉教者、革命派と魔性の女達：日本の新左翼におけるジェンダー、コミュニティ、暴力
39	SCHRAMM, Katharine	インディアナ大学 ブルーミントン校 博士課程	米国	琉球大学	2012.03.09 ~ 2013.01.08	宮古島のパーントゥ：沖縄における儀式、アイデンティティ、遺産
40	STILERMAN, Ariel Gustavo	コロンビア大学 博士課程	米国	早稲田大学	2011.09.13 ~ 2012.09.12	日本古典文学における散文—詩のダイナミクス
41	TAKAI, Shiho	コロンビア大学 博 士課程	米国	早稲田大学	2010.09.26 ~ 2011.09.25	社会的垣根を越えて：江戸時代の人気舞台における犯罪と女性及び法
42	THOMPSON, Luke	コロンビア大学 博 士課程	米国	佛教大学	2011.09.28 ~ 2012.09.27	釈迦牟尼の中世改革と歴史上の日本仏教徒説法の出現
43	TILTON, Ellen Cystal Boling	エール大学 博士課 程	米国	早稲田大学	2010.08.05 ~ 2011.08.04	4人の戦後日本女性作家作品における家族と文学形式
44	VARNER, Melinda	カンザス大学 博士課程	米国	福岡大学	2011.09.07 ~ 2012.06.06	近代の将軍の茶道の社会政治的な特徴

## 米州交流事業費

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ
45	VEKASI, Kristin E	ウィスコンシン大学マディソン校 博士課程	米国	東京大学	2010.09.02 ~ 2011.09.01	お役所仕事、米ドル紙幣：日中関係における政治紛争と経済論理
46	WOOLLEY, Charles	コロンビア大学 博士課程	米国	早稲田大学	2011.09.11 ~ 2012.09.10	異国情緒を書く：18~20世紀の日本文学における他の場所と物語の空間
47	YI, Christina	コロンビア大学 博士課程	米国	早稲田大学	2010.09.19 ~ 2011.09.18	強制的なコラボレーション：1930年代から80年代にかけての韓国人作家による日本語文学作品制作と受容
48	STERNSDORFF CISTERNA, Nicolas	ハーバード大学 博士課程	チリ	上智大学	2011.09.01 ~ 2012.09.30	国のテスト：現代日本における食の政治とナショナリズム
49	KIKUCHI, Wataru	サンパウロ大学 博士課程	ブラジル	神奈川大学	2011.07.11 ~ 2011.11.30	現代日本社会の上下関係
50	SILVA, Victor Hugo Martins Kebbe	サン・カルロス連邦 大学 博士課程	ブラジル	静岡大学	2010.06.01 ~ 2011.05.31	出稼ぎ労働者の親族関係

米州交流事業費

2. 人物交流事業費 / (3) 日本研究フェローシップ(学者・研究者 短期) [米州]

諸外国の優れた日本研究者に日本で研究・調査活動を行う機会を提供する。

合計額 14,197,264 円

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ
1	MANICOM, James	ウォータールー大学 ポストドクトラル・フェロー	カナダ	海洋政策研究財団	2011.06.04 ~ 2011.08.01	問題海域に橋をかける—中国、日本、そして、21世紀の東アジアにおける海洋秩序
2	SORNIN, Alexis Stephane	カナダ建築センター研究所 所長	カナダ		2011.09.16 ~ 2011.10.13	近現代日本建築に関するカナダ建築センター図書館コレクション
3	HIRAYAMA, Mikiko	シンシナティ大学 准教授	米国		2011.06.09 ~ 2011.07.02	ニューレアリズム：戦時中の日本美術批評
4	HOCKLEY, Allen	ダートマス大学 准教授	米国		2011.11.07 ~ 2011.12.11	明治期におけるビジュアルライジングヒストリー
5	KERN, Adam	ウィスコンシン大学マディソン校 准教授	米国		2011.06.11 ~ 2011.08.08	国文学研究資料館での「ペンギンブック 俳句」に関する研究
6	MCGEE, Dylan	名古屋大学 准教授	米国	名古屋大学	2011.07.22 ~ 2011.09.08	近代日本における異書体表記と読者受容の重要性
7	LOVE, Bridget	オクラホマ大学 講師	米国		2011.06.17 ~ 2011.07.17	持続不可能な発展：日本の地方部における人口減少、高齢化、再生
8	ROSS, Kerry	デポール大学 准教授	米国		2012.01.10 ~ 2012.02.27	カメラの民主化：20世紀初頭日本における消費と写真手法
9	SCHALOW, Paul	ラトガース大学 教授	米国		2011.06.24 ~ 2011.08.21	藤原頼長『台記』を通じた平安文学におけるジェンダーとジャンルを探求
10	SHERIF, Ann	オバリン大学 教授	米国		2011.06.02 ~ 2011.07.01	活字への回帰：被災後の出版と文学—1945年から
11	SOTOZAKI, Hiroko	ウェスタンイリノイ大学 准教授	米国		2011.06.17 ~ 2011.07.23	ひらがなは漢字習得技術を予見できるか？
12	ZWICKER, Jonathan	ミシガン大学 准教授	米国		2011.06.30 ~ 2011.08.19	印刷時代における動画：スクラップブックと日本映画初期アーカイブ
13	MORALES MATSUBARA, Leiko	サンパウロ大学 准教授	メキシコ	上智大学	2011.10.31 ~ 2011.12.28	在日ブラジル人と帰国生のバイリンガリズム：日本語とポルトガル語に関する言語能力、言語意識、言語態度
14	NAMEKATA, Marcia Hitomi	パラナ連邦総合大学 教授	メキシコ	東京外国語大学	2012.01.09 ~ 2012.02.22	『心中天網島』：近松門左衛門の著作は最初から現在まで

## 米州交流事業費

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ
15	TANAKA, Michiko	コレヒオ・デ・メ ヒコ 教授	メキシコ	早稲田大学	2011.06.21 ~ 2011.08.06	日本における北側民次の活動と作品の所在
16	PEINADO, Javier	ハベリアナ大学 准教授	コロンビア	京都女子大学	2011.09.17 ~ 2011.10.16	ヴィジュアル民族誌比較：日本とコロンビアにおいて技術媒体が 都市全体に及ぼす影響
17	OKANO, Michiko	サンパウロカト リック大学 研究員	ブラジル		2011.02.07 ~ 2011.03.10	多文化共生の街—日本における中国、韓国及びブラジル移民の街

米州交流事業費

3. 催し等事業費 / (1) 知的交流会議(主催) [米州]

日本と諸外国の相互理解の促進とより緊密な関係の構築、世界の知的交流の推進を目的とした、国際的な知的共同事業（国際会議、セミナー、ワークショップ等）を開催する。

合計額 4,710,820 円

	事業名	対象国	共催・協力機関	期間	事業内容
1	メキシコ日本研究セミナー	メキシコ	メキシコ国立自治大学映像センター	2012.03.09 ~ 2012.03.14	東日本大震災後1年のメモリアル事業。被災者への鎮魂、被災地での救援活動と地域復興、自然災害と建築についてのパネルディスカッションと東日本大震災映像の上映会を実施
2	復興のためにアートは何ができるか	ブラジル		2012.03.01 ~ 2012.03.31	宮城県石巻市で仮設住宅壁画プロジェクトに関わったグラフィティ・アーティストのTiti Freakによる講演会と、事業開発戦略室が作成した東日本大震災映像の上映会を実施

3. 催し等事業費 / (2) 知的交流会議(助成) [米州]

日本と諸外国の相互理解の促進とより緊密な関係の構築、世界の知的交流の推進を目的とした、国際的な知的共同事業（国際会議等）に対し、経費の一部を助成する。

合計額 27,297,856 円

	事業名	対象国	助成対象機関	期間	事業内容
1	「現代日本の文化・社会へのアクセス」2012	東アジア地域区分困難 大洋州地域区分困難 米国 欧州地域区分困難	国際文化会館	2011.04.01 ~ 2012.03.31	海外の日本情報専門家や若手日本研究者が国境や職業の枠を超えて結びつき、多様な面での相乗効果を得られる国際相互理解を通して人的ネットワークを構築することを目的に、現代日本情報の探索、収集技術に関するワークショップを開催
2	Mangaとグローバル文化	アジア地域区分困難 オーストラリア 米国 欧州地域区分困難	鶴見大学	2012.03.15 ~ 2013.03.31	漫画というメディアが言語や習慣の壁を越えて世界各国の文化に受け入れられ、日本文化理解の促進につながった事実注目し、カナダ、米国、英国、オーストラリア、日本の5カ国の専門家が集うシンポジウムを実施
3	人間の安全保障と自然災害	大洋州地域区分困難 欧州地域区分困難	早稲田大学	2012.02.20 ~ 2012.02.22	東北の震災、また他国の過去の災害を例にとり、自然災害は人間の安全保障の観点において組み込むことが可能か否かを考える国際会議。自然科学・社会科学の専門家、国連関係機関、市民社会団体などの多様な人材を招へいして実施

米州交流事業費

	事業名	対象国	助成対象機関	期間	事業内容
4	愛すべき敗者たち：平家、その行為と記憶	カナダ	アルバータ大学	2011.05.01 ~ 2012.03.31	源平合戦の敗者でありながら、日本の文学・文化の世界で愛されている平家に焦点を当て、歴史、文学、文化など多様な分野の日本研究者を招へいた国際会議を開催
5	グローバリゼーション時代における日本の教育：新たなコンテキストの中の継続的な課題	カナダ	ブリティッシュ・コロンビア大学	2011.04.26 ~ 2011.10.01	カナダ、米国、オーストラリア、日本から14名の教育、人類学、政治学、社会学等の多様な分野の研究者が論文を持ち寄り、日本の教育改革を社会や経済の変動の文脈の中で捉え議論する国際シンポジウムを実施。成果は、2013年に書籍『Japanese Education in an Era of Globalization』として出版
6	ブリティッシュ・コロンビアが学ぶべきこと	カナダ	ブリティッシュ・コロンビア大学	2012.03.15 ~ 2012.03.17	環太平洋地域で起こりうる自然災害について研究する、日本・カナダの学術団体と政策実施者との相互理解を深めるためのプロジェクト。カナダの専門家による被災地視察、日本側専門家とのネットワーキングと情報収集を経て、カナダでワークショップを実施。東日本大震災復興支援事業
7	3.11：課題、研究とその教授法	米国 欧州地域区分困難	上智大学比較文化研究所	2012.03.15 ~ 2013.03.31	2日間にわたる会議を実施し、多様な専門性を持つ参加者が東日本大震災のどのような側面を如何に教えるかについてシラバスを持ち寄り発表。更に、分野別のパネルで議論。報告書の作成と併せて、カリキュラムや教材のデータベース化とウェブ公開も実施
8	震災復興特別シンポジウム「災害復興・平和構築と市民の力」	米国	日本NPO学会	2012.03.17	世界各地で発生した大災害の事例を元に、災害後の市民の行動に共通する力の所在と可能性について議論する国際シンポジウム。研究者、ジャーナリスト、実務家等、様々な立場の専門家が参加
9	日米欧のユーラシア境界研究・連携プロジェクト	米国 欧州地域区分困難	ユーラシア研究・日米交流委員会	2011.05.01 ~ 2012.03.30	米国と日本の境界研究者が中東欧の研究者と協力し、ワルシャワで「ユーラシアにおけるボーダー(境界)と平和構築：日米欧の経験と協力」のテーマで議論を実施
10	ベンチャー・フィランソロピー・モデルの普及啓発事業	米国 英国	AVPNジャパン	2011.11.17 ~ 2012.03.31	ベンチャー・フィランソロピーのコンセプトと運営モデルを紹介するセミナーとワークショップを開催。講演会には100名、ワークショップには30名の研究者、NPO/NGO関係者などが参加
11	セミナー「日本の防潮林」	ホンジュラス	北海道森林ボランティア協会	2012.02.01 ~ 2012.02.14	防潮林の機能や限界、また植林活動の重要性についての理解を深める目的で、東日本大震災の事例を踏まえ、日本の防潮林についてのセミナーを実施
12	出稼ぎ第2世代から見えるトランスナショナルな日系アイデンティティを検証する	ブラジル	浜松学院大学地域共創センター	2011.04.01 ~ 2012.03.31	サンパウロにて、親の出稼ぎなどにより国際移動を繰り返す子供のアイデンティティの変容に関するエスノグラフィ記録映画を上映。更に、デカセギの意義とデカセギが家族にもたらす影響についての国際シンポジウムを実施。約200名が一般来場
13	第2回日本・ペルー学長会議	ペルー	東海大学	2011.04.01 ~ 2012.03.31	「人間の安全保障とグローバル社会における大学の役割」をメインテーマとし、日本・ペルー両国の19大学・研究機関の学長・代表者を招へいし、実施する国際会議

米州交流事業費

	事業名	対象国	助成対象機関	期間	事業内容
14	京都インターナショナルコンテンツポラリーテキスタイルアートセンター オリリズム実行委員会	米州地域区分困難 欧州地域区分困難	オリリズム実行委員会	2012.03.15 ~ 2013.03.31	世界で活躍する織物作家12名が集まり、作品を発表するとともに、様々な交流の場となるシンポジウムを開催
15	日本と海外の文化交流の今後	欧州地域区分困難	国際児童青少年演劇フェスティバル大阪実行委員会	2011.04.01 ~ 2012.03.31	児童・青少年を対象とした演劇フェスティバルの期間中、国内外からパネリストを招へいして「文化交流の今後」をテーマとした国際シンポジウムを実施
16	2011国際環境教育フォーラム	ブラジル	日伯文化協会	2011.04.01 ~ 2012.03.31	「日本の里山文化とブラジル大西洋沿岸森林の再生」をテーマとした国際会議。学生や環境問題に関わるNPO関係者等が多数参加

米州交流事業費

3. 催し等事業費 / (3) 人材育成 Grant [米州]

日本と海外の市民青少年の相互理解を促進するため、日本の団体が実施または参加する事業に対し、旅費の一部を助成する。

合計額 3,882,600 円

	事業名	対象国	助成対象機関	期間	事業内容
1	日本カナダ学術連携フォーラム	カナダ	立命館大学	2012.02.21 ~ 2012.02.27	「日本カナダ学術コンソーシアム」に所属する日加両国大学から各15名の学生が集い、「震災後の日加協力と相互理解」をテーマに講義やグループワークを実施。最終日にはグループでの成果発表も実施
2	ステラリーダーシップフォーラム 2011	米国	ステラ・ジャパン	2011.08.15 ~ 2011.08.23	米国スタンフォード大学で開催される9日間の合宿型フォーラムを実施。科学技術に関する国際問題に関心のある日・米・中・仏の大学に籍を置く学生45名が参加し、リーダーシップ・プログラム、分科会、グループ・プロジェクトなどを実施。「環境の持続可能性」をテーマに、分科会ではエネルギー、生物多様性、水資源の3点に着目
3	第63回日米学生会議	米国	日米学生会議	2011.07.28 ~ 2011.08.21	社会問題解決の糸口を探ると共に、学生会議の意義を再考することを目的に、日米両国の学生71名が1カ月間日本各地を視察し、政治・経済・文化などの分野にわたり、専門家も交えて討論を行う事業。本年は震災の分科会が新たに設けられ、最終的には日米両首脳への震災に関する提言書も作成
4	日米青少年親善文化交流と意見交換	米国	特定非営利活動法人横浜旭ベースボールクラブ	2011.08.03 ~ 2011.08.06	日本の青少年の国際感覚を養うため、米国サンディエゴ市の中学生24名を神奈川県横浜市に招待して親善文化交流と意見交換をする事業。日本側からは132名が参加、食文化や教育制度、野球制度の違いについて討論会を実施
5	日本現代ファイバーアートに関するシンポジウム	米国	国際テキスタイルネットワークジャパン	2011.06.04 ~ 2011.12.18	日本現代ファイバーアートの展覧会を開催し、併せて、連携したシンポジウムをニューヨークで開催。世界で評価されている日本のファイバーアートの仕事と人材を通して、日米両国の文化交流を深めると共に、若手作家も参画させることで今後のファイバーアート分野を担う若い世代を支援



# 日本研究・知的交流事業に必要な経費

## アジア・大洋州交流事業費

### 1. 日本研究事業費

- (1) 日本研究ネットワーク強化（主催）〔アジア・大洋州〕
- (2) 北京日本学研究センター派遣（北京外国語大学）
- (3) 北京日本学研究センター派遣（北京大学）
- (4) 北京日本学研究センター招へい（北京外国語大学）
- (5) 北京日本学研究センター招へい（北京大学）
- (6) 北京日本学研究センター研究支援（北京外国語大学）
- (7) 北京日本学研究センター研究支援（北京大学）
- (8) 日本研究機関支援〔アジア・大洋州〕
- (9) 日本研究ネットワーク強化（助成）〔アジア・大洋州〕

### 2. 人物交流事業費

- (1) 受託事業（アセアン）
- (2) 日本研究フェローシップ（学者・研究者 長期）〔アジア・大洋州〕
- (3) 日本研究フェローシップ（論文執筆者）〔アジア・大洋州〕
- (4) 日本研究フェローシップ（学者・研究者 短期）〔アジア・大洋州〕
- (5) 日本研究フェローシップ（高砂熱学工業）
- (6) 知的リーダー交流（招へい）〔アジア・大洋州〕

### 3. 催し等事業費

- (1) 知的交流会議（助成）〔アジア・大洋州〕
- (2) 知的交流会議（企画参画助成）〔アジア・大洋州〕
- (3) 知的交流会議（主催）〔アジア・大洋州〕
- (4) 人材育成グラント〔アジア・大洋州〕

アジア・大洋州交流事業費

1. 日本研究事業費 / (1) 日本研究ネットワーク強化(主催)[アジア・大洋州]

学問分野を超えた日本研究者・研究機関相互の連携と協力を推し進め、各国・地域における中核的な知日層とわが国の長期的な関係を維持発展させるため、海外の日本関連学会や元日本人留学生の組織化・活動を支援する。

合計額 12,578,828 円

	事業名	開催国	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
1	韓国における日本研究調査	韓国	—	—	世宗研究所	2012.02.10 ~ 2012.03.31	各国・各地域における日本研究の動向を把握し、支援ニーズを見極めるために一定期間ごとに実施している「海外日本研究機関調査」の韓国版。平成22年度に世宗研究所への業務委託により実施したデータ収集の次段階として、既存データの修正、新規データの収集及びそれら集計データに基づき現状分析を含む報告書の執筆方針を策定するための各分野専門家とのワークショップの実施
2	第2回東アジア日本研究フォーラム&公開シンポジウム	日本	宮城郡松島町  仙台市	松島センチュリーホテル会議場  仙台国際センター会議場	財団法人仙台国際交流協会	2011.12.08 ~ 2011.12.10	東アジア地域における日本研究の更なる推進と研究者間のネットワーク強化を目的として、2011年12月8日、9日の両日、日本、韓国、中国及び台湾の研究者計26名を宮城県松島町に集めて、非公開の集中フォーラムを実施するとともに、一行が東日本大震災の被災地を視察。12月10日には仙台市内で一般公開シンポジウム「東アジアは東日本大震災をどう論じたか—東北復興へのメッセージ」を開催し、復興へのエールを発信
3	北京日本学研究センター「東日本大震災シリーズ講演会」	中国	北京	北京日本学研究センター		2011.12.09 ~ 2011.12.11	東日本大震災後の日本の状況についての正確な情報を発信するため、北京日本学研究センターに藤本隆宏(東京大学教授)を派遣し、一般市民にも公開する講演会を実施。震災の日本及び世界的なサプライチェーンへの影響・状況等について報告と展望を交えて最新の分析を紹介するとともに、パネラー等中国人研究者とも交流
4	ガバナンスと市民社会に関するセミナー(北京)	中国	北京	中国共産党中央編訳局	中国共産党中央編訳局比較政治・経済研究センター	2012.03.22 ~ 2012.03.24	日本から派遣する専門家による講演及び現地研究者等との意見交換を通じ、日本の政治・ガバナンスの制度や市民社会についての理解促進、及び参加者間のネットワークの構築を目的とし、「ガバナンスと市民社会」をテーマとしたセミナーを開催

アジア・大洋州交流事業費

	事業名	開催国	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
5	日本研究巡回セミナー	ベトナム	ハノイ  フエ  ホーチミン	ベトナム国家大学 附属人文社会科学 大学  フエ外国語大学  ホーチミン市人文 社会科学大学	フエ外国語大学  ベトナム国家人文 社会科学センター 日本研究センター  ホーチミン人文社 会科学大学	2012. 02. 26 ～ 2012. 03. 02	ハノイ、フエ、ホーチミンのベトナム3都市に 原武史(明治学院大学教授)を派遣し、「鉄道 と日本の近代」というテーマで鉄道の視点か ら見る日本の政治思想史等について講演
6	巡回セミナー「震 災復興と人々のつ ながり」	オーストラリア	シドニー  メルボルン	Blake Dawson シドニーオフィス  Blake Dawson メルボルンオフィ ス		2012. 02. 23 ～ 2012. 02. 24	「人々のつながり」の側面から東日本大震災 の復興を考えるセミナーをシドニーとメルボ ルンで開催。日本からは赤澤清孝(特定非営利 活動法人ユースビジョン法人代表)が、豪州か らはレスキュー隊チームリーダー、JENESYS次 世代リーダープログラム「防災と人々のつな がり」に参加した元消防士、日本研究者等が 参加
7	日本研究セミナー	米国	ホノルル	ホノルル・コンベ ンションセンター	国立公文書館 アジア歴史資料 センター	2011. 03. 31 ～ 2011. 04. 03	米国アジア研究学会(The Association for Asian Studies, 略称AAS)の70周年記念総会に て国立公文書館アジア歴史資料センターが実 施するパネルセッションに日本人の日本近・ 現代史研究者3名を講師として派遣

アジア・大洋州交流事業費

1. 日本研究事業費 / (2) 北京日本学研究センター派遣(北京外国語大学)

北京外国語大学で実施される現代日本研究講座に対し、専門家、行政官等有識者を派遣する。

合計額 23,649,256 円

	氏名	現職	期間	事業内容
1	笠原 清志	立教大学教授	2011.04.01 ~ 2012.03.31	北京日本学研究センターの教育・研究活動及び運営方針の策定・実施にかかる助言を基金及びセンターに与えるとともに「日中文化比較」の講義を担当
2	畔上 和子	北京日本学研究センター日本側事務主任	2011.04.01 ~ 2012.03.31	日本側主任教授、派遣教授を補佐するとともに、北京日本学研究センター内の日本側事務局の運営事務を担当
3	巖 安生	北京外国語大学教授	2011.04.01 ~ 2011.06.30 2011.08.31 ~ 2013.03.31	北京日本学研究センターにおいて、「日中文化比較」の講義の一部を担当
4	荒山 裕行	名古屋大学経済学部 助教授	2011.04.17 ~ 2011.05.11	北京日本学研究センターにおいて、経済コースの講義・学生指導を担当
5	斎藤 倫明	東北大学日本語学講座 教授	2011.04.24 ~ 2011.05.14	北京日本学研究センターにおいて、日本語学コースの講義・学生指導を担当
6	久保田 美子	国際交流基金日本語国際センター 専任講師	2011.05.06 ~ 2011.05.31	北京日本学研究センターにおいて、日本語教育学コースの講義・学生指導を担当
7	曾根原 理	東北大学学術資源研究公開センター 助教授	2011.06.01 ~ 2011.06.30	北京日本学研究センターにおいて、日本文化コースの講義・学生指導を担当
8	宮崎 里司	早稲田大学日本語教育研究センター 教授	2011.08.26 ~ 2011.09.14	北京日本学研究センターにおいて、日本語教育コースの講義・学生指導を担当
9	藤本 隆宏	東京大学大学院経済学研究科 教授	2011.10.10 ~ 2011.10.12	北京日本学研究センターにおいて、東日本大震災をテーマにシリーズで講演会を行う
10	高橋 郁夫	慶應義塾大学商学部 教授	2011.10.10 ~ 2011.11.03	北京日本学研究センターにおいて、日本経済コースの講義・学生指導を担当
11	小島 康敬	国際基督教大学教養学部 教授	2011.10.11 ~ 2011.11.09	北京日本学研究センターにおいて、日本文化コースの講義・学生指導を担当
12	大橋 毅彦	関西学院大学 教授	2011.12.09 ~ 2011.12.31	北京日本学研究センターにおいて、日本文学コースの講義・学生指導を担当
13	庵 功雄	一橋大学 准教授	2012.03.07 ~ 2012.03.29	北京日本学研究センターにおいて、日本語教育コースの講義・学生指導を担当

アジア・大洋州交流事業費

1. 日本研究事業費 / (3) 北京日本学研究中心センター派遣(北京大学)

北京大学で実施される現代日本研究講座に対し、専門家、行政官等有識者を派遣する。

合計額 3,937,310 円

	氏名	現職	期間	事業内容
1	角南 篤	政策研究大学院大学 准教授	2011.04.01 ~ 2012.03.31	日本側主任教授として、北京大学現代日本研究センターの教育・研究活動及び運営方針の策定・実施に関する助言を与えるとともに、同センター博士第6期生に対する「日本型イノベーションシステムの進化とグリーンイノベーション政策」科目での講義を実施
2	大場 淳	広島大学高等教育研究開発センター 准教授	2011.04.20 ~ 2011.04.23	北京大学現代日本研究センター博士第6期生に対する「日本の教育政策：制度と運用」科目での講義
3	岡崎 健二	政策研究大学院大学 教授	2011.11.07 ~ 2011.11.10	北京大学現代日本研究センター博士第7期生に対する「災害リスクマネジメント」科目での講義
4	小松 正之	政策研究大学院大学 教授	2011.12.13 ~ 2011.12.16	北京大学現代日本研究センター博士第7期生に対する「日本の水産業政策・水産業」科目での講義
5	吉野 直行	慶應義塾大学経済学部 教授	2011.12.28 ~ 2011.12.31	北京大学現代日本研究センター博士第7期生に対する「金融論」科目での講義
6	道下 徳成	政策研究大学院大学 准教授	2012.03.01 ~ 2012.03.03	北京大学現代日本研究センター博士第6期生に対する「日本の外交・安全保障政策」科目での講義
7	鈴木 賢	北海道大学法学研究科 教授	2012.03.02 ~ 2012.03.07	北京大学現代日本研究センター博士第7期生に対する「日本の法制度」科目での講義
8	染野 憲治	環境省中国環境情報分析官	2012.03.07 ~ 2012.03.10	北京大学現代日本研究センター博士第7期生に対する「日本の環境政策」科目での講義
9	吉川 洋	東京大学大学院経済学研究科 教授	2012.03.12 ~ 2012.03.14	北京大学現代日本研究センター博士第7期生に対する「現代日本経済」科目での講義
10	堀江 正弘	政策研究大学院大学 教授	2012.03.13 ~ 2012.03.16	北京大学現代日本研究センター博士第7期生に対する「日本における国・地方関係と地方自治」科目の講義
11	中島 秀人	東京工業大学大学院社会理工学研究科 教授	2012.03.19 ~ 2012.03.22	北京大学現代日本研究センター博士第7期生に対する「日本の技術社会」科目の講義
12	首藤 明和	兵庫教育大学大学院学校教育研究科 准教授	2012.03.27 ~ 2012.03.30	北京大学現代日本研究センター博士第7期生に対する「現代日本の社会文化・社会教育学」科目の講義

アジア・大洋州交流事業費

1. 日本研究事業費 / (4) 北京日本学研究センター招へい(北京外国語大学)

北京外国語大学で実施される北京日本学研究センター事業に関し、日本研究者の招へいを行う。

合計額 50,624,519 円

	事業名	氏名	現職	人数	受入機関	期間	事業内容
1	フェローシップ(博士10期)	岳 遠坤	日本語教師	1	首都大学東京 人文科学研究科	2011.04.01 ~ 2012.03.31	北京日本学研究センターの博士課程の学生に対し、博士論文執筆のための訪日研究フェローシップを供与
2	フェローシップ(博士10期)	曾 艶	博士課程学生	1	早稲田大学 日本語教育研究科	2011.04.01 ~ 2012.03.31	北京日本学研究センターの博士課程の学生に対し、博士論文執筆のための訪日研究フェローシップを供与
3	フェローシップ(博士11期)	傅 玉娟	博士課程学生	1	国際日本文化研究センター	2011.12.01 ~ 2013.04.30	北京日本学研究センターの博士課程の学生に対し、博士論文執筆のための訪日研究フェローシップを供与
4	フェローシップ(博士11期)	陳 燕青	博士課程	1	神戸市外国語大学	2012.01.31 ~ 2013.03.31	北京日本学研究センターの博士課程の学生に対し、博士論文執筆のための訪日研究フェローシップを供与
5	訪日研究(修士25期生)招へい	張 婧 他	北京日本学研究センター修士課程学生	20		2011.04.04 ~ 2011.08.02	北京日本学研究センターの修士課程学生に訪日研究の機会を提供。日本各地の大学・研究機関等の教授・研究者が受入教官となり、修士論文の草稿作成・資料収集を指導
6	訪日研究(修士26期生)招へい	張 希西 他	北京日本学研究センター修士課程学生	20		2012.03.28 ~ 2012.08.01	北京日本学研究センターの修士課程学生に訪日研究の機会を提供。日本各地の大学・研究機関等の教授・研究者が受入教官となり、修士論文の草稿作成・資料収集を指導

アジア・大洋州交流事業費

1. 日本研究事業費 / (5) 北京日本学研究中心招へい(北京大学)

北京大学で実施される現代日本研究センター事業に関し、日本研究者の招へいを行う。

合計額 7,680,265 円

	事業名	人数	期間	事業内容
1	訪日研修(博士第6期)	23	2011.07.13 ~ 2011.07.27	北京大学現代日本研究センターの講座受講生(第6期博士課程20名、その他随員3名)に対して、北京で受けた講義の定着を目的に訪日研修を実施

アジア・大洋州交流事業費

1. 日本研究事業費 / (6) 北京日本学研究中心研究支援(北京外国語大学)

北京外国語大学北京日本学研究中心の日本研究者育成を支援する。

合計額 10,955,106 円

	事業名	期間	事業内容
1	現地経費(教育・研究)	2011.04.01 ~ 2012.03.31	北京日本学研究中心が実施する紀要『日本学研究』ほか日本研究図書の出版、研究プロジェクト及び同センター教授による地方講演にかかる経費等の支援
2	教材等購送	2011.04.01 ~ 2012.03.31	北京日本学研究中心に対し講義用教材、図書館資料を購送
3	文献複写	2011.04.01 ~ 2012.03.31	北京日本学研究中心図書資料館が日本国内の図書館に対して文献複写依頼を行う経費を支援
4	図書館システム	2011.04.01 ~ 2012.03.31	北京日本学研究中心図書資料館で使用中の図書館情報システムにかかるソフトウェア保守費を支援

1. 日本研究事業費 / (7) 北京日本学研究中心研究支援(北京大学)

北京大学現代日本研究センターの日本研究者育成を支援する。

合計額 417,136 円

	事業名	期間	事業内容
1	教材等購送	2011.04.01 ~ 2012.03.31	北京大学現代日本研究センターに対し講義用教材、図書館資料を購送



アジア・大洋州交流事業費

1. 日本研究事業費 / (8) 日本研究機関支援 [アジア・大洋州]

各国において日本研究の中核的役割を担うべき単一・少数の機関に対し、日本研究事業の拡充・発展に必要な様々な支援を、包括的、集中的且つ中長期的に行い、該当国の日本研究基盤となる拠点機関の整備を進める。

合計額 103,914,926 円

	対象機関	対象国・地域	期間	事業内容
1	翰林大学校	韓国	2011.04.01 ~ 2012.03.31	1935年から1945年の植民地時代の貴重な資料である『朝日新聞外地版』の目録の編纂・出版を支援
2	国民大学校	韓国	2011.04.01 ~ 2012.03.31	日本の韓国研究機関と韓国の日本研究機関の代表者によるそれぞれの研究状況と課題、そして、共同研究の課題を探る会議を支援。更に、2010年開催の国際学術大会「朴正熙時代における日韓関係の再照明」の記録の出版を支援するとともに、日本研究図書を購送
3	高麗大学校	韓国	2011.04.01 ~ 2012.03.31	日本近世文学会2011年度秋季大会の高麗大学校での開催と植民地期日本語文学に関する叢書・資料集10巻の編集・出版を支援。日本研究図書を購送
4	ソウル大学校	韓国	2011.04.01 ~ 2012.03.31	日韓の若手研究者によるワークショップ、日本から招へいた専門家のセミナー、学生の日本研修、大学院生の日本における資料調査の実施を支援するとともに、日本研究図書及び雑誌の購送を実施
5	全南大学校	韓国	2011.04.01 ~ 2012.03.31	翻訳をキーワードに、異文化交流の視点から日韓の文化理解を目指すシンポジウムの実施とこれまで開催した第1回～第5回の国際シンポジウムの成果の出版を支援するとともに、日本研究図書の購送を実施
6	四川外国語学院	中国	2011.04.01 ~ 2012.03.31	国際会議「地域研究としての日本学～学際的な視点から～」への助成に加え、2件の出版助成と日本研究図書購送を実施
7	浙江工商大学	中国	2011.04.01 ~ 2012.03.31	清末の日中交流に関する呂順長の浙江工商大学提出博士論文及び「中日戦略信頼と戦略合作」と題した2010年開催のシンポジウムの報告論文集出版を支援するとともに、「東アジアの漢籍研究－奈良を中心として－」と題したシンポジウムの開催を支援。また、専門家によるセミナー「日本歴史文化高級講習班」の開催を支援
8	中国社会科学院研究生院	中国	2011.04.01 ~ 2012.03.31	研究生院で日本での研究を行った周傑の日本の選挙制度に関する博士論文、徐金鳳の九鬼周造に関する博士論文をもとにした書籍の出版を支援
9	東北師範大学	中国	2011.04.01 ~ 2012.03.31	解学詩（吉林省社会科学院教授）、西村成雄（放送大学教授）、河東哲夫（早稲田大学教授）による集中講義の実施を支援。さらに、院生による訪日研修、学術誌『外国問題研究』及び『「偽満」歴史文化と現代中日関係[上下巻]』の出版を支援
10	東北大学	中国	2011.04.01 ~ 2012.03.31	野崎勉（鹿児島大学教授）招へいによる集中講義や中国人研究者による来日調査研究に対する支援を行うとともに日本研究図書の購送を実施
11	南開大学	中国	2011.04.01 ~ 2012.03.31	堀江正弘（政策研究大学院大学教授）、野島陽子（東大教授）による集中講義の実施を支援。更に、グローバル化における日本社会安定メカニズムに関する国際会議の開催、研究誌『南開日本研究』及び『東アジアモデルと地域発展－世界金融危機下の再思考－』の出版、大学院生による訪日研修の実施を支援するとともに、日本研究図書を購送
12	復旦大学	中国	2011.04.01 ~ 2012.03.31	瀧井一博（国際日本文化研究センター准教授）による集中講義及び国際シンポジウム「環境問題と持続可能な経済発展」への助成、日本研究図書の購送及び2件の出版助成を実施
13	遼寧大学	中国	2011.04.01 ~ 2012.03.31	日中の研究者による21世紀の日中関係に関するシンポジウムの開催を支援

アジア・大洋州交流事業費

	対象機関	対象国・地域	期間	事業内容
14	渡辺健基金図書寄贈	中国	2011.04.01 ~ 2012.03.31	元外務省職員故渡辺健の遺族より託された寄付金の運用益を活用し、中国天津社会科学院に対して日本研究関連図書を寄贈
15	国立政治大学	台湾	2011.04.01 ~ 2012.03.31	日本からの派遣教授による日本の政治・経済に関する講義の実施を支援。国立政治大学教授、研究員が来日し、研究活動及び日本の研究機関との連携に関する調査・打ち合わせを実施。2010年度に開催した日・台の研究者によるシンポジウムの成果の出版や日・米・香港の若手研究者と台湾の若手研究者の合同研究セミナーの開催を支援。更に、日本研究に関する学会誌、研究誌などの購送を実施
16	国立政治大学(H22年度)	台湾	2011.04.01 ~ 2011.06.30	平成22年度事業として実施した図書944タイトルの購送に関し、2011年3月31日までに集荷・納品できなかった12タイトルの書籍購入経費及び左記点数を含む全944タイトルにかかる送料
17	インドネシア大学	インドネシア	2011.04.01 ~ 2012.03.31	大学院スタッフ経費、学生スカラシップの供与等、大学院の運営に関する支援を行うとともに、日本社会・日本外交に関して派遣教授が集中講義を実施。更に、日本の学術機関との共催によるシンポジウムの実施を支援
18	シンガポール国立大学	シンガポール	2011.04.01 ~ 2012.03.31	現代の東南アジア諸国における日本文化の役割について講義を実施するために専門家を招へいするほか、同テーマによる研究会議やワークショップの実施、大学院生による研究を支援
19	タマサート大学教養学部日本学科	タイ	2011.04.01 ~ 2012.03.31	修士課程の学生10名を対象とする約2週間の訪日研修事業と日本研究科の学生を対象とした講義の講師謝金を助成のほか、図書を寄贈
20	タマサート大学東アジア研究所	タイ	2011.04.01 ~ 2012.03.31	国際会議「アジアにおける持続可能な社会に向けた地域協力」を助成のほか、日本研究ジャーナル発行経費を支援
21	チュラロンコン大学	タイ	2011.04.01 ~ 2012.03.31	修士課程の学生に対して講義を行うための日本人専門家派遣経費と、修士課程の学生4名を対象とした約2週間の訪日研修の経費を支援
22	アテネオ・デ・マニラ大学	フィリピン	2011.04.01 ~ 2012.03.31	国際会議「マイグレーションと多文化共生の可能性を探る」への助成と、図書の寄贈を実施
23	デ・ラ・サール大学	フィリピン	2011.04.01 ~ 2012.03.31	国際会議「東・東南アジアにおける共同体の構築」への助成と、図書の寄贈を実施
24	ハノイ国家大学	ベトナム	2011.04.01 ~ 2012.03.31	研究発表会議「日本学集中講座」への助成に加え、出版助成及び日本研究図書の購送を実施
25	ホーチミン市国家大学人文社会科学大学日本研究センター・日本学科	ベトナム	2011.04.01 ~ 2012.03.31	中山富広（広島大学教授）、白石昌也（早稲田大学教授）による集中講義の実施への助成、及びシンポジウム「日本とベトナムの『文明開化』の比較研究」への助成を実施
26	ホーチミン市国家大学人文社会科学大学文学言語学部	ベトナム	2011.04.01 ~ 2012.03.31	国際会議「日本文学とベトナム文学 ―東アジアの視点から―」への助成を実施
27	マラヤ大学	マレーシア	2011.04.01 ~ 2012.03.31	加藤剛（龍谷大学教授）による集中講義の実施を支援するとともに、日本の企業文化及び日本の童話に関するシンポジウムの開催を支援
28	ジャワハルラル・ネルー大学	インド	2011.04.01 ~ 2012.03.31	日本人専門家による集中講義の実施を支援するとともに日本研究図書の購送を実施

アジア・大洋州交流事業費

	対象機関	対象国・地域	期間	事業内容
29	デリー大学	インド	2011.04.01 ～ 2012.03.31	日本研究図書の購送を実施
30	オーストラリア国立大学	オーストラリア	2011.04.01 ～ 2012.03.31	豪州及びアジア大洋州地域の日本研究大学院生約20名を対象に実施する3日間のサマースクールを実施。大学院生による研究発表・討議、海外の研究者による講演会、海外の研究者による講演会、ANU及び国立図書館・国立公文書館等の研究者によるパブリックレクチャー等を開催
31	オークランド大学	ニュージーランド	2011.04.01 ～ 2012.03.31	教授1名、ポストドクター研究員1名の採用にあたっての経費、アジア太平洋地域共同体の文脈における日本・ニュージーランド関係に関するシンポジウムの開催及びその報告書の出版経費に対する支援を実施。また、日本研究図書の購送、情報提供HPへの支援を実施

アジア・大洋州交流事業費

1. 日本研究事業費 / (9) 日本研究ネットワーク強化(助成) [アジア・大洋州]

国境・学問分野を超えた日本研究者・研究機関間の連携、相互協力を推し進めるべく、学会の横断的な組織化を支援する。

合計額 28,154,771 円

	助成対象機関	対象国	期間	事業内容
1	日本語文学会	韓国	2011.04.01 ~ 2011.07.02	韓国における主要な日本研究学会が共催し、事務局持ち回り方式で実施される韓国日本学連合会国際学術大会。今回が9回目の開催
2	タイ国日本研究ネットワーク	タイ	2011.04.01 ~ 2012.03.31	タイの主要大学の若手・中堅の日本研究者が中心となり2007年5月に設立された全国的ネットワークが実施するオール・タイ体制の日本研究事業。2011年は、総会開催(学会併催、2011年10月)、JSN実行委員会(年3回)、2012年総会発表者の論文募集と選定、JSNジャーナルの発行を実施
3	タイ国元日本留学生協会	タイ	2011.04.01 ~ 2012.03.31	ASEAN各国の元日本留学生同士の交流を目的として設立されたASCOJA(ASEAN元日本留学生評議会)に加盟するタイの元日本留学生会の活動を支援
4	インドネシア元日本留学生協会	インドネシア	2011.04.01 ~ 2012.03.31	ASEAN各国の元日本留学生同士の交流を目的として設立されたASCOJA(ASEAN元日本留学生評議会)に加盟するインドネシアの元日本留学生会の活動を支援
5	インドネシア日本研究学会	インドネシア	2011.10.01 ~ 2011.10.31	1990年に設立された同学会は、インドネシアにおける唯一の日本研究学会であり、国際シンポジウムの開催や地方でのパブリック・レクチャー実施、ウェブサイト運営、ジャーナル発行にかかる活動経費の一部を支援
6	カンボジア元日本留学生同窓会	カンボジア	2011.04.01 ~ 2012.03.31	ASEAN各国の元日本留学生同士の交流を目的として設立されたASCOJA(ASEAN元日本留学生評議会)に加盟するカンボジアの元日本留学生会の活動を支援
7	シンガポール元日本大学卒業生協会	シンガポール	2011.04.01 ~ 2012.03.31	ASEAN各国の元日本留学生同士の交流を目的として設立されたASCOJA(ASEAN元日本留学生評議会)に加盟するシンガポールの元日本留学生会の活動を支援
8	元日本留学生フィリピン連盟	フィリピン	2011.04.01 ~ 2012.03.31	ASEAN各国の元日本留学生同士の交流を目的として設立されたASCOJA(ASEAN元日本留学生評議会)に加盟するフィリピンの元日本留学生会の活動を支援
9	ベトナム元日本留学生会	ベトナム	2011.04.01 ~ 2012.03.31	ASEAN各国の元日本留学生同士の交流を目的として設立されたASCOJA(ASEAN元日本留学生評議会)に加盟するベトナムの元日本留学生会の活動を支援
10	東方政策留学生同窓会	マレーシア	2011.04.01 ~ 2012.03.31	ASEAN各国の元日本留学生同士の交流を目的として設立されたASCOJA(ASEAN元日本留学生評議会)に加盟するマレーシアの元日本留学生会の活動を支援。マレーシアの「東方政策」により日本で留学した後、帰国した元留学生が組織する同窓会の活動を支援
11	マレーシア元留日学生協会	マレーシア	2011.04.01 ~ 2012.03.31	ASEAN各国の元日本留学生同士の交流を目的として設立されたASCOJA(ASEAN元日本留学生評議会)に加盟するマレーシアの元日本留学生会の活動を支援
12	マレーシア日本研究協会	マレーシア	2012.02.21 ~ 2012.02.23	東南アジア各国の日本研究学会が一堂に会し、研究者に発表の機会を設けネットワークの構築、強化を行う。また、外部から基調講演者として、アジアについて多くの評論を発表している小倉和夫(国際交流基金理事長)を招へい
13	ミャンマー元日本留学生協会	ミャンマー	2011.04.01 ~ 2012.03.31	ASEAN各国の元日本留学生同士の交流を目的として設立されたASCOJA(ASEAN元日本留学生評議会)に加盟するミャンマーの元日本留学生会の活動を支援

アジア・大洋州交流事業費

	助成対象機関	対象国	期間	事業内容
14	マードック大学	オーストラリア	2011.06.29 ～ 2011.07.02	豪州、ニュージーランド、東南アジアの日本研究者を対象に、研究能力の開発と知的ネットワーク形成を目的として、19世紀後半の日本語文献を読む2日間の集中ワークショップをシドニー日本文化センターにて実施。2010年に続いて2回目の開催
15	メルボルン大学	オーストラリア	2011.07.04 ～ 2011.07.07	オーストラリアで唯一の分野横断的な日本研究者の学会であるオーストラリア日本研究学会(JSAA)の第17回総会開催経費に対する助成。総会には数百名規模の参加者が国内外から参加。セッションの一つとして「Tohoku Earthquake and Tsunami Roundtable」を実施

2. 人物交流事業費 / (1) 受託事業(アセアン)

日本研究・知的交流分野での国際交流基金の業務趣旨に合致する事業を外部から受託し実施する。

合計額 56,537,659 円

	事業名	氏名	現職	所属国	期間	事業内容
1	JENESYS Programme 東アジア大学院生 日本研究特別招へいプログラム(4年次)	Adiasri Putri Purbantina  Hapsari, Eky Kusuma  Rachmawati, Ratih  Kokheng, Lim  Tay, Wei Leong  Mesupnikom, Nirinthon  Sumonpun, Varin  Hosmillo, Bernidick Bryan Punzalan  Lan, Nguyen Kim  Thao, Luu Bich  Kho, Derek Lip Teck  Lee, Lian Kim  Mohamad, Siti Nurazah Binti	インドネシア大学 大学院日本地域研 究科 大学院生  パジャジャラン 大学 大学院生  ガジャマダ大学政 治社会学部 大学 院生  王立法律経済大学 講師  シンガポール国立 大学 リサーチア シスタント  タマサート大学 大学院 大学院生  タマサート大学 大学院 大学院生  アテネオ・デ・マニ ラ大学 大学院生  ハノイ貿易大学 講師  ベトナム国家大学 講師  マレーシアサバ 大学 大学院生  マレーシア科学 大学 大学院生  マラヤ大学 大学院生	インドネシア  インドネシア  インドネシア  カンボジア  シンガポール  タイ  タイ  フィリピン  ベトナム  ベトナム  マレーシア  マレーシア  マレーシア	2011.07.20 ~ 2011.08.31	アジア・大洋州地域で日本研究(東アジア研究を含む)を専攻中の、今後の活躍が期待される大学院生に対し、日本の大学院・研究機関等で研究・調査活動を行う機会を提供  【21世紀東アジア青少年大交流計画(JENESYS Programme)】

アジア・大洋州交流事業費

	事業名	氏名	現職	所属国	期間	事業内容
		Htet Htet Aung	ヤンゴン大学 大学院生	ミャンマー		
		Thida Kyaw	ヤンゴン大学 大学院生	ミャンマー		
		Vongphachanh, Lindara	ラオス国立大学 講師	ラオス		
		Dutta, Gaurav	デリー大学 大学院生	インド		
		Zou, Mangson Kamlialal	ジャワハルラル・ネ ルー大学 大学院 生	インド		
		Lim, Jason Teang Huy	シドニー大学 大学院生	オーストラリア		
2	JENESYS Programme 次世代リーダーブ ログラム(K-エネ ルギー)	Li, Pengfei	中国社会科学院工 業経済研究所 工 業資源と環境研究 室副主任	中国	2011.05.16 ~ 2011.05.27	東アジアコミュニティの異なる国々の若者が一堂に会し、寝食を共にしながら、文化的背景などの差異を乗り越えて、地域に共通の課題について話し合い、思索する訪日研修を実施し、その成果をグループ発表。グループKのテーマは「エネルギー安全保障：東アジアにおける地域協力の進展」
		Harahap, Aswin Rizal	PT KOMPAS Media Nusantara 記者	インドネシア		【21世紀東アジア青少年大交流計画(JENESYS Programme)】
		Muhammad Arifuddin	インドネシアエネ ルギー鉱業資源省 課長	インドネシア		
		Sophy, Yim	カンボジア資源エ ネルギー省 職員	カンボジア		
		Tng, Mei Ling	シンガポール環境 庁 エンジニア	シンガポール		
		Harnnarong, Faikham	EARTH プログラム オフィサー	タイ		
		Pridasawas, Wimolsiri	キング・モンクット 工科大学 化学工 学科講師	タイ		
		Virgino, John Prado	チーム・エナジー 法律顧問	フィリピン		

アジア・大洋州交流事業費

事業名	氏名	現職	所属国	期間	事業内容
	Dang, Thi Ngoc Huyen	Biogas Program for the Animal Husbandry Sector 促進部門長	ベトナム		
	Le, Cam Van	ベトナム石油エネルギー会社 職員	ベトナム		
	Nguyen, Quang Thanh	NGO Live & Learn for the Environment and Community 気候変動教育オフィサー	ベトナム		
	Hamzah, Nuraniza binti	マレーシアエネルギー林業水資源省 補佐事務官	マレーシア		
	Thu, Kyaw Min	ミャンマーエネルギー省 エネルギー計画局 オフィサー	ミャンマー		
	Phithsamay, Manopaphath	ラオス鉱工業エネルギー省 電気局 電力計画課職員	ラオス		
	Chhabra, Akshay	Ministry of Power エネルギー効率局 技師	インド		
	Mahajan, Deepti	エネルギー・リソース研究所 リサーチャー兼地域担当職	インド		
	Jorgensen, Diane Clare	Geoscience Australia 地質学者	オーストラリア		
	Vivoda, Vlado	グリフィス大学 アジア研究所 リサーチフェロー	オーストラリア		
	Hyndman, Hollie Jane	ニュージーランド 経済開発省 エネルギー環境グループ 政策分析官	ニュージーランド		



アジア・大洋州交流事業費

	事業名	氏名	現職	所属国	期間	事業内容
3	JENESYS Programme 次世代リーダーブ ログラム(L-防災)	Park, Seongjin	韓国消防安全協会 主任	韓国	2011.11.27 ~ 2011.12.09	東アジアコミュニティの異なる国々の若者が一堂に会し、寝食を共にしながら、文化的背景などの差異を乗り越えて、地域に共通の課題について話し合い、思索する訪日研修を実施し、その成果をグループ発表。グループLのテーマは「防災と人々のつながり：災害に強い社会の構築を目指して」  【21世紀東アジア青少年大交流計画(JENESYS Programme)】
		Wang, Yuelong	北京地震局 副処長	中国		
		Harianto, Tommy	インドネシア国家 防災庁 予防局職員	インドネシア		
		Kusworo, Yuli	アルコム・ジョグ ジャ プログラム・ コーディネーター	インドネシア		
		Revindo, Mohamad Dian	インドネシア大学 経済学部経済社会 研究所 研究員/ 講師	インドネシア		
		Kimhong, Prak	カンボジア防災対 策委員会 第一副 長官補佐	カンボジア		
		Intatheap, Lamphai	英字紙『バンコク ポスト』ジャーナ リスト	タイ		
		Kunavichayanont, Vipavee	NPO災害デザイン 創立者	タイ		
		Jamoralin, Christie Suyin Ceres Gajo	市民災害対応セン ター フィールド・ オペレーション部 門長	フィリピン		
		Rodil, Amillah Sescon	総合環境計画コン サルタント事務所 プランニング・ アソシエイト	フィリピン		
		Matali, Mohamad Adib	ブルネイ国家防災 管理センター 特別官	ブルネイ		
		Nordin, Mohamad Syazwan Bin	ブルネイ国家防災 管理センター 特別官	ブルネイ		

アジア・大洋州交流事業費

事業名	氏名	現職	所属国	期間	事業内容
	Dang, My Hanh	ケア・インターナショナルベトナム事務局 気候変動担当	ベトナム		
	Nguyen, Thanh Toan	プラン・インターナショナルベトナム事務局 気候変動専門員	ベトナム		
	Mathan, Anisha Rachel	NGOマアシー・マレーシア プログラムオフィサー	マレーシア		
	Mustafa, Mahathir Bin	マレーシア国家安全会議 区安全補佐官	マレーシア		
	Ei Ei Su Mon	ミャンマー運輸省 気象水門局 管理者補佐	ミャンマー		
	Sandar Tun	ミャンマー運輸省 気象水門局 管理者補佐	ミャンマー		
	Sithisack Xayta	国連世界食料計画 ロジスティクス補佐官	ラオス		
	Bhaswati Thakurta	コルカタ大学 ウーマンズ・スタディー・リサーチセンター 大学院生 (博士課程)	インド		
	Andrew Joseph Mcnamara	オーストラリア ニューサウス ウェールズ州消防救急署 消防救急署員 都心部捜索救命指導官	オーストラリア		
	Cameron John Tarbotton	ニューサウス ウェールズ大学 オーストラリア・太平洋津波研究センター 博士候補	オーストラリア		

アジア・大洋州交流事業費

	事業名	氏名	現職	所属国	期間	事業内容
		Godycki, Alicia Louise	オーストラリアビクトリア州救急サービス 地域社会教育チームリーダー	オーストラリア		
		Deirdre Brid Nagle	ビショップアクションファンデーション 上級計画管理者	ニュージーランド		
4	JENESYS Programme 次世代リーダープログラム(M-エネルギー)	KIM Hyo Jae	仁川国際空港施設 処 マネジャー	韓国	2012.03.05 ~ 2012.03.16	<p>東アジアコミュニティの異なる国々の若者が一堂に会し、寝食を共にしながら、文化的背景などの差異を乗り越えて、地域に共通の課題について話し合い、思索する訪日研修を実施し、その成果をグループ発表。グループMのテーマは「エネルギー安全保障：持続可能なエネルギーシステムの構築を目指して」</p> <p>【21世紀東アジア青少年大交流計画(JENESYS Programme)】</p>
		ZHANG Xing	中国国家能源局発展規制司 職員	中国		
		Budi SANTOSA	アングラン・レカダヤ・ソーシャル・インドネシア株式会社 事業開発マネージャー	インドネシア		
		Nanang Triagung EDI HERMAWAN	インドネシア原子力規制庁 放射能設備・放射性物質規制局職員	インドネシア		
		KIN Sothea	カンボジア産業省エネルギー開発局 事務官	カンボジア		
		San SOPHAL	カンボジア産業省エネルギー総局 事務官	カンボジア		
		Vathana MOY	カンボジア環境省 気候変動局主任	カンボジア		
		Muhammad Suhaimi Bin ISMAIL	シンガポールエネルギー市場監督庁 エネルギー計画開発局産業開発課アナリスト	シンガポール		
		Kanlaya NAKLUNGKA	健康公共政策財団 研究員	タイ		

アジア・大洋州交流事業費

事業名	氏名	現職	所属国	期間	事業内容
	Pakorn LERTSATIENCHAI	チュラロンコン大 学社会調査研究所 研究員	タイ		
	Eduardo Dela Rosa MAGDALUYO Jr.	フィリピン大学 鉱物・金属・物質 工学部助手	フィリピン		
	Kamama Duma EDZLA	ミンダナオにおけ る独立型再生可能 エネルギー連合 学校電力供給及び 事業教育スペシャ リスト	フィリピン		
	Mohammed Emir Fadzley Bin ROSELEY	サラワク州知事局 部長補佐	マレーシア		
	NG Yeen Seen	アジア戦略リー ダーシップ研究所 上級副代表	マレーシア		
	Wint Thiri SWE	ミャンマーエネル ギー省エネルギー 計画局職員	ミャンマー		
	Sonevilay KHOUNTHAM	ビエンチャン県パ ンビエン郡エネル ギー鉱業課 次長	ラオス		
	Vannasack SATTAKOUN	チャンパサック県 エネルギー鉱業局 技師	ラオス		
	Vagish SHARMA	印米科学技術 フォーラム プロ グラムオフィサー	インド		
	Jennifer Sharyn BECKMAN	資源・エネルギー・ 観光省 オースト ラリアエネルギー 安全保障課アシス タントマネジャー	オーストラリア		
	Rikki Dominique WEBER	地球科学局 地球 科学者	オーストラリア		

アジア・大洋州交流事業費

事業名	氏名	現職	所属国	期間	事業内容
	Valerie Marie-Pierre SAGE	オーストラリア連邦科学産業研究機構 リサーチプロジェクトリーダー	オーストラリア		
	Tania Joy HOOD	エネルギー効率・保全庁 地方政府アドバイザー	ニュージーランド		
	Timothy Charles TAYLOR	エネルギー効率・保全庁 復興プログラムマネジャー	ニュージーランド		
5 【2010年度事業】 JENESYS Programme 次世代リーダープログラム(J-防災)	Jeon, Inseung	韓国消防防災庁 気候変化対応課洪水防御担当	韓国	2011.04.01 ~ 2012.03.31	「防災と人々のつながり：災害に強い社会の構築を目指して」をテーマに実施した訪日研修(2010年度)の報告書を作成  【21世紀東アジア青少年大交流計画(JENESYS Programme)】
	Ageung, Ivan Valentina	インドネシア防災協会 防災に関する法律と政策 マネージャー	インドネシア		
	Huot, Huy	ミンチェイ行政区 役所 総務財務局 チーフ	カンボジア		
	Leong, Chua Swee	シンガポール人民協会 青年運動グループ第2副議長	シンガポール		
	Supitax, Kanokphun	RRAFA財団 プログラムオフィサー	タイ		
	Medina, Ilagan Karol Anne	フィリピン調査報道センター (PCIJ) 調査チーム長	フィリピン		
	Villanueva, Charmaine Quintua	フィリピン科学技術省 科学調査分析官	フィリピン		
	Ampuan Haji Razid, Ampuan Noorirawati	ブルネイ・テンブロン地区行政事務所 総合統括行政官	ブルネイ		
	Hassan, Mohd Sarif bin	マレーシア国家安全会議 補佐事務官	マレーシア		

アジア・大洋州交流事業費

事業名	氏名	現職	所属国	期間	事業内容
	Tun, Zaw Lin	ミャンマー社会福祉救済復興省救済復興局 課長補佐	ミャンマー		
	Win, Aye Nandar	ミャンマー社会福祉救済復興省救済復興局 職長	ミャンマー		
	Xaiyasarn, Ketsana	ラオス水資源環境庁水資源局テクニカルオフィサー	ラオス		
	Vyas, Nikhilkumar Rameshchandra	クルタ (CRUTA) 財団 コーディネーター	インド		
	FITZGERALD, Kate	オーストラリア司法省 アシスタント・ディレクター	オーストラリア		
	Schell, Patrick Joseph	オーストラリア・ニューサウスウェールズ州地方消防局調査企画官	オーストラリア		
	Wilson, Thomas McDonald	カンタベリー大学 災害管理講師	ニュージーランド		
6	【2012年度事業】 JENESYS Programme 東アジア大学院生 日本研究特別招へいプログラム(5年次)	Hanif Eka Cahyono インドネシア大学 大学院日本地域研究科 大学院生  Helen Susanti インドネシア大学 大学院日本地域研究科 大学院生  Karina Utami Dewi ガジャマダ大学政治社会学部 大学院生  RAY SAREN カンボジア王立経済法科大学 日本法教育センター事務員  Sittihep Eaksittipong チェンマイ大学 講師  Barriga Maria Cynthia Batistiana アテネオ・デ・マニラ大学 大学院生	インドネシア  インドネシア  インドネシア  カンボジア  タイ  フィリピン	2011.04.01 ~ 2012.03.31	アジア・大洋州地域で日本研究(東アジア研究を含む)を専攻中の、今後の活躍が期待される大学院生に対し、日本の大学院・研究機関等で研究・調査活動を行う機会を提供するに際し、参加者の招へい準備を実施  【21世紀東アジア青少年大交流計画(JENESYS Programme)】

アジア・大洋州交流事業費

事業名	氏名	現職	所属国	期間	事業内容
	Frerrera Rose Anne Ricafrente	デ・ラ・サール 大学 大学院生	フィリピン		
	Bui Hong Hanh	ベトナム国家大学 付属人文・社会科学 学大学 講師	ベトナム		
	Tran Bach Hieu	ベトナム国家大学 付属人文・社会科学 学大学 講師	ベトナム		
	Baizura Hanim Binti Halim	マラヤ大学人文社 会学部東アジア学 科 大学院生	マレーシア		
	Khairunnisa Binti Ahmad Hamidi	マラヤ大学人文社 会学部東アジア学 科 大学院生	マレーシア		
	Wong Yii Siing	マレーシアサバ大 学 大学院生	マレーシア		
	Kyawt Yuper Aung	ヤンゴン大学 大 大学院生	ミャンマー		
	Myo Myo Thu	ヤンゴン大学 大 大学院生	ミャンマー		
	Boutsakhone Keorodom	ラオス国立大学 講師	ラオス		
	Mangboi Kipgen	ネルー大学 大学院生	インド		
	Pravhat Lama	ネルー大学 大学院生	インド		
	Shweta Kumari Sinha	デリー大学 大学院生	インド		
	Hana Habara Gleeson	シドニー大学 大学院生	オーストラリア		
	Luke James Meehan	オーストラリア国 立大学 博士課程 研究生	オーストラリア		

アジア・大洋州交流事業費

2. 人物交流事業費 / (2) 日本研究フェローシップ(学者・研究者 長期) [アジア・大洋州]

諸外国の優れた日本研究者に日本で研究・調査活動を行う機会を提供する。

合計額 235,911,679 円

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ
1	AHN, Jiwon	キーン大学 准教授	韓国	テンプル大学	2012.01.15 ~ 2012.06.14	トランスナショナル時代の映画：現代日本映画と韓国映画の比較研究
2	CHO, Jai Kook	延世大学校 教授	韓国	同志社大学	2011.05.11 ~ 2012.03.10	日本と韓国におけるキリスト教の受容に関する比較研究
3	CHOE, Songeun	徳成女子大学校 教授	韓国	奈良県立橿原考古学研究所	2011.05.11 ~ 2011.11.10	白鳳期塑像と百濟7世紀塑造仏像の比較研究 —製作及び彫刻技法を中心に
4	CHOI, Woondo	東北亜歴史財団 研究委員	韓国	長崎大学	2011.09.03 ~ 2012.09.02	日本の外交政策における自律性の評価：地域政策を中心に
5	CHUN, Chaesung	ソウル大学校外交学科教授	韓国	慶応義塾大学法学部	2010.09.01 ~ 2011.08.30	北東アジアの国際関係の理論化と日韓関係
6	CHUNG, Jeong-Sook	韓国文化観光研究院 研究委員	韓国	大阪市立大学大学院法学研究科	2011.05.10 ~ 2011.08.23	高齢層の創意的文化政策研究：日本事例
7	HWANG, So Yeon	江原大学校 教授	韓国	天理大学	2011.08.16 ~ 2012.08.15	十七世紀日本の知的社会における朝鮮人儒者と朝鮮の出版物
8	IM, Heon Chan	仁済大学校 教授	韓国	広島大学	2012.02.19 ~ 2013.02.18	日韓両言語における統語構造の対応関係—日本語教育の立場から—
9	JANG, Gyung-ryul	ソウル大学校人文大学英文科 教授	韓国	東京大学	2011.06.15 ~ 2012.03.14	時調と俳句比較研究
10	JUNG, Byeong-Ho	高麗大学校日語日文学科 副教授	韓国	立命館大学文学部	2011.02.26 ~ 2012.02.25	近代初期（1890～1920）韓国における日本語文学の形成過程研究—韓国居留日本人社会の日本語新聞・雑誌を通して
11	KANG, Kun-Hyung	国立済州大学校政治外交学科 教授	韓国	慶應義塾大学法学部	2010.08.30 ~ 2011.08.10	日本鳩山政権の対外政策と米日関係
12	KANG, Tae Woong	光云大学日文学科 助教授	韓国	東京大学総合文化研究科	2011.03.14 ~ 2012.03.13	東アジアの中の日本映画
13	KIM, Jaesuk	慶北大学校 教授	韓国	静岡大学人文学部	2011.08.21 ~ 2012.08.20	小山内薫の演劇観が韓国の現代劇形成に及ぼした影響に関する研究
14	KIM, Ki-Jung	延世大学校 教授	韓国	慶應義塾大学法学部政治学科	2010.09.20 ~ 2011.05.19	韓日文化的対話の東北アジア地域秩序形成における意味
15	KWON, Young Joo	ソウル市立大学校 教授	韓国	京都大学	2012.01.15 ~ 2013.01.14	町内会と地方自治



アジア・大洋州交流事業費

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ
16	LEE, Seungjoo	韓国中央大学校政治外交学科 副教授	韓国	慶應義塾大学法学部	2011.02.01 ~ 2012.01.31	断片化した東アジア地域主義の国内的起源 日本と韓国の比較研究
17	NOH, Suk Jae	翰林大学校 教授	韓国	一橋大学	2011.09.15 ~ 2012.03.04	東アジア3か国間における相互作用について
18	PARK, Cheun Soo	慶北大学校人文大学考古人類学科 教授	韓国	大阪大学大学院文学研究科	2011.03.01 ~ 2012.02.29	考古学から見た新羅と倭の関係への新たな照明
19	PARK, Yu-ha	世宗大学校教授	韓国	早稲田大学	2011.08.01 ~ 2012.09.02	引揚げ文学研究 — 朝鮮旧満州地域を中心に
20	SONG, Jae Hoon	又石大学校 教授	韓国	慶應義塾大学総合政策学部	2011.05.10 ~ 2012.02.29	日韓両国における企業文化の比較研究 — 葛藤(Conflict)管理の観点を中心に —
21	YOO, Chul-In	済州大学校教授	韓国	東北大学大学院教育学研究学科	2010.08.31 ~ 2011.08.31	日本の東北地方における日本人の外国人配偶者
22	CAI, Dunda	同済大学外国語学院日本学研究所所長/教授	中国	東京大学大学院	2011.09.01 ~ 2012.08.31	関野貞の中国建築・藝術踏査に関する研究
23	DU, Ying	黒龍江省社会科学院 副研究員/副主任	中国	北海道大学大学院文学研究科	2010.09.27 ~ 2011.09.26	黒龍江省における残留日本人孤児と養父母関係問題研究について — 帰国後の肉親関係を中心に
24	GUO, Mei Song	西南政法大学 副教授	中国	京都大学	2010.09.22 ~ 2011.09.21	人事訴訟手続における比較研究
25	JIANG, Bin	江西師範大学 副教授	中国	大阪芸術大学大学院芸術文化研究科	2011.09.01 ~ 2012.08.31	日本仁俠映画研究
26	JIN, Mingquan	重慶師範大学文学与新聞学院 教授	中国	明星大学	2012.03.04 ~ 2013.03.03	日本文論史要一現代部分
27	JIN, Xianghai	延辺大学人文社会科学学院 教授	中国	大阪産業大学	2010.09.01 ~ 2011.08.30	中朝経済関係の進展に対する日本の政策研究
28	JING, Zhizhong	東北師範大学日本研究所日本経済研究室 助教授	中国	日本大学	2010.07.04 ~ 2011.07.03	日本のエネルギー戦略と中日合作
29	LAI, Zhengwei	福建師範大学社会歴史学院 教授	中国	琉球大学法文学部	2011.10.05 ~ 2012.10.04	閩人三十六姓と琉球に関する研究
30	LEE, Pui-Tak	香港大学日本研究部 専任研究員/名誉助教授	中国	東京大学	2011.07.05 ~ 2011.10.04	大恐慌における横浜正金銀行の海外支店活動—香港・上海・大連・ボンペイ・シンガポール・ニューヨークを中心に

アジア・大洋州交流事業費

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ
31	LI, Hongxi	延辺大学 准教授	中国	名城大学	2011.06.28 ~ 2012.04.27	日本の豆満江流域開発と国際関係1904~45年
32	LI, Jicang	南京師範大学六朝歴史文化研究中心 副主任	中国	龍谷大学文学部	2010.08.31 ~ 2011.08.31	近代日本における中国史研究-宮崎市定を中心に
33	LI, Jing	広東海洋大学外国語学院 日本語学科主任/教授	中国	東北大学大学院文学研究科	2011.02.23 ~ 2011.08.22	現代日本における農家と社会-秋保町馬場村の調査を中心に
34	LIU, Chang	吉林大学 講師	中国	早稲田大学大学院法務研究科	2012.03.04 ~ 2013.03.03	日本における食品安全規制の研究
35	Liu, Jianping	中国伝媒大学 副教授	中国	中央大学法学部	2011.11.21 ~ 2012.11.20	戦後日本の対中外交研究
36	MEI, Linhai	暨南大学日本経済センター 教授	中国	兵庫県立大学	2012.03.13 ~ 2013.03.12	広東省工業企業の社会エコ効率の評価-日本企業の経験に関する研究
37	QUAN, Zhenan	中国延辺大学 副教授	中国	公立大学法人福井県立大学	2011.07.20 ~ 2012.07.19	図們江地域開発と日中協力に関する研究
38	SONG, Zhiyong	南開大学日本研究センター 副院長/教授	中国	早稲田大学大学院アジア太平洋研究科	2011.10.05 ~ 2012.10.04	近代日本外交官の中国体験と中国認識に関する研究
39	TAN, Jianchuan	西南大学 所長/研究員/准教授	中国	政策研究大学院大学	2011.10.01 ~ 2012.09.30	近代日本の政治文化：江戸末期の往来物及び近代小学校の教科書における指導者像の考察
40	TAYLOR, William Keevil (Bill)	香港城市大学 副教授	中国	東京大学社会科学部 研究科	2012.01.01 ~ 2012.12.31	日本における中国の直接投資：学習及び適応
41	WANG, Chuanshi	山東大学経済学院 教授	中国	東北大学大学院経済学研究科	2011.08.01 ~ 2012.07.31	日中の食品安全とグリーンイノベーション政策
42	WANG, Jian	中国社会科学院近代史研究所台湾史研究室 主任研究員	中国	慶應義塾大学法学部	2011.07.20 ~ 2012.02.19	戦後初期台湾経済の復興と日台経済関係(1950~70年代)
43	WANG, Leina	同済大学環境科学与工程学院 博士/講師	中国	横浜国立大学国際社会科学部 研究科	2011.10.24 ~ 2012.10.23	日中公害史における水俣病に関する比較研究
44	WANG, Ping	中国社会科学院 教授	中国	早稲田大学	2011.09.06 ~ 2012.08.05	中日米の戦略の衝突と融合の過程での日本の外交安全保障政策決定の分析
45	WANG, Yeyang	中国社会科学院近代史研究所 教授	中国	京都大学	2011.09.20 ~ 2012.09.19	東アジア共同体と民族主義問題

アジア・大洋州交流事業費

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ
46	WANG, Yi Ming	華南師範大学 助教授	中国	東京大学	2010.09.30 ~ 2011.09.29	平安朝密教文献整理研究
47	WU, Donggao	延辺大學法学院 教授	中国	創価大学	2011.07.03 ~ 2012.07.02	日本の行政相談制度の特色及び中国への示唆
48	WU, Huaizhong	中国社会科学院日本 研究所 准教授/ 副室長	中国	慶應義塾大学	2011.10.09 ~ 2012.08.08	21世紀における日本の安全保障政策—日中・アジアの新安保秩序 構築との関連を兼ねて
49	WANG, Pengfei	南京航空航天大学 准教授	中国	東京農業大学生物 産業学部	2011.10.12 ~ 2012.10.11	清末日本科学書籍の翻訳と中国現代化への影響
50	YANG, Wei	四川外語学院日本 学研究所 所長	中国	法政大学国際日本 学研究所	2011.02.16 ~ 2012.02.15	多文化間アイデンティティの課題と可能性：国境を越えた詩友— 黄瀛、草野心平、宮沢賢治などを例に—
51	YIN, Xiaoliang	南開大学日本研究 院 教師	中国	早稲田大学商学学 術研究院	2011.01.15 ~ 2011.07.14	日本における省エネルギー政策及び中国への示唆
52	YU, Daiqin	中国国家話劇院 芸術委員会 委員	中国	劇団青年座  舞台芸術財団	2011.08.26 ~ 2012.03.25	『日中演劇交流史』の資料収集及び執筆
53	ZHANG, Zhihui	上海大学文學院歴 史系 専任講師	中国	大阪市立大学大学 院法学研究科	2012.03.10 ~ 2013.03.09	西園寺公望の中国意識に関する研究
54	BATSAIKHAN, Ookhnoi	モンゴル科学アカ デミー国際研究所 ロシア研究部/部 長	モンゴル	東京外国語大学ア ジア・アフリカ言語 文化研究所	2012.01.09 ~ 2013.01.08	1910年代の日露協約とモンゴル
55	CHULUUN, Dashdavaa	国家安全保障審議 会 肅清被害者名誉 回復委員会 政治肅 清研究センター センター長	モンゴル	東北大学北東アジ ア研究センター	2011.08.30 ~ 2012.06.30	モンゴルにおける日本抑留者（1945～1947）
56	SITUMORANG, Hamzon	北スマトラ大学文 学部 教授	インドネシア	東北大学	2011.06.21 ~ 2011.09.18	日本の信仰とその様式の研究
57	KATAGIRI, Kanokwan, Laohaburanakit	チュラロンコン大 学 准教授	タイ	一橋大学	2011.10.15 ~ 2012.10.14	非母語話者にとって難しい日本語コミュニケーションの実態研究
58	LEENABANCHONG, Chawin	タマサート大学 准教授	タイ	大阪大学大学院国 際公共政策研究科	2011.06.16 ~ 2012.05.15	評論：世界的危機と日本
59	NAGAI, Hiroko	アテネオ・デ・マニ ラ大学 学科長	フィリピン	静岡県立大学国際 関係学部	2011.07.01 ~ 2012.03.31	地城市民による防災コミュニティの設計及び実践とフィリピンへ の適用の可能性に関する研究

アジア・大洋州交流事業費

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ
60	UMALI, Amparo Adelina III, Cordial	フィリピン大学 ディリマン校 准教授	フィリピン	静岡文化芸術大学	2012.03.01 ~ 2012.10.31	能楽と淡路島人形浄瑠璃—これらの伝統芸能を保護する為の学界と地方自治体の取り組み
61	LE, Tam Thi Thanh	ホーチミン市国家 大学人文社会科学 大学言語学部 講師	ベトナム	東京外国語大学	2010.09.10 ~ 2011.09.09	禅の俳句とベトナムの古典詩への影響
62	TRAN THI, Hoang Mai	ベトナム社会科学 院北東アジア研究 所日本研究セン ター／情報図書館 センター所長	ベトナム	国際日本文化研究 センター	2011.06.15 ~ 2012.03.14	日本の図書館におけるデジタル化環境下の書誌コントロール—ベトナム図書館への教訓
63	VU, Doan Lien Khe	ホーチミン市国家 大学 常勤講師	ベトナム	早稲田大学社会科 学総合学術院	2012.02.17 ~ 2012.09.16	16世紀における日本—ベトナムの関係・文化と貿易
64	MYAT, Thin Thin	ピー大学 講師	ミャンマー	京都大学	2011.06.16 ~ 2012.04.15	ミャンマーと日本における持続可能な農業的实践
65	SOE, Shwe	認定NPO法人「難民 を助ける会」プロ ジェクト・アシス タント	ミャンマー	東北大学大学院	2010.08.02 ~ 2011.06.01	環境評価と心理的健康に関する楽観性と悲観性の関係についての環境心理学的研究
66	TUN, Aung	ヤンゴン経済大学 教授	ミャンマー	名古屋大学	2011.06.16 ~ 2011.09.15	日本の製造会社従業員のモチベーションとパフォーマンス
67	HIRISAWA, Prabhakar	ジャワハルラル・ ネルー大学 助教 授	インド	早稲田大学	2011.08.01 ~ 2012.07.31	日印関係の軌跡(2001~2010)
68	DISSANAYAKE, Kumudinei	コロombo大学 上 級講師	スリランカ	明治大学	2012.03.01 ~ 2012.12.31	非伝統的キャリアモデル：人材戦略と組織改革への影響
69	ESHAM, Mohamed	サバラガムワ・ス リランカ大学 上 級講師/学部長	スリランカ	鳥取大学	2011.03.11 ~ 2012.03.10	日本の農協とスリランカの農民企業の比較
70	KUMARASINGHE, Kulatilaka	ケラニア大学 シニアプロフェッ サー	スリランカ	崇城大学	2011.06.30 ~ 2012.04.29	日本の「能」における仏教の影響：現代スリランカ芸能における仏教概念の発展との関連
71	MELEGODA, Nayani	コロombo大学 教授/学部長	スリランカ	広島大学	2011.12.01 ~ 2012.11.30	アフガニスタン：持続的平和構築のための選択

アジア・大洋州交流事業費

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ
72	RATNAYAKE, Mudiyanseleage Patrick Ferdinands	ケラニア大学 上級講師	スリランカ	日本大学芸術学部	2010.07.31 ~ 2011.06.30	現代映画に反映される文化的価値と革新：日本とスリランカ映画の比較
73	THAPA, Ganga Bahadur	トリブバン大学 教授	ネパール	東京大学法学部研究室	2011.01.11 ~ 2012.01.10	公の監視のもとに：日本における議会の透明性
74	TULADHAR, Nirmal Man	トリブバン大学 非常勤教授	ネパール	京都大学	2011.08.01 ~ 2012.07.31	日本における仏教経験
75	MALIK, Ahmad Rashid	イスラマバード政策研究所 客員研究員	パキスタン	尚美学園大学	2010.05.14 ~ 2011.03.18	恒久的自由作戦—海運断絶作戦：日本、米国と関連地域との関係
76	HASSAN A. K. M, Yusuf	ジャハングルナガル大学 准教授	バングラデシュ	沖縄県立芸術大学	2011.08.12 ~ 2012.08.11	日本とバングラデシュとの語り物の比較研究：語り手の立場を中心に
77	AVENELL, Simon Andrew	シンガポール国立大学 准教授／副学科長	オーストラリア	国際基督教大学	2011.12.01 ~ 2012.07.31	グリーンジャパン：現代日本における環境主義の源流と展開
78	SUTER, Rebecca Marcella	シドニー大学 講師	オーストラリア	慶應義塾大学	2011.07.16 ~ 2012.07.15	近代日本文学と大衆文化におけるキリスト教の「創造的」誤読
79	WILKINS, Thomas Stow	シドニー大学 准教授	オーストラリア	東京大学	2012.03.01 ~ 2013.02.28	日本の同盟関係の未来
80	EALEY, Mark Christopher	翻訳家	ニュージーランド	T&CT Office	2011.10.01 ~ 2011.12.31	「戦禍を掘る」という長期連載記事の英訳と英文解釈

アジア・大洋州交流事業費

2. 人物交流事業費 / (3) 日本研究フェローシップ(論文執筆者) [アジア・大洋州]

人文・社会学の研究者で博士論文作成のため来日する必要があるものを招へいする。

合計額 84,175,847 円

	氏名	現職	所属国・地域	受入機関	期間	研究テーマ
1	CHOI, Jamyung	ペンシルバニア大学史学科 博士課程	韓国	東京大学	2010.08.01 ~ 2011.07.31	東京帝国大学と近代日本中間階級社会の成立
2	CHUNG, Shin Young	ソウル大学師範大学共同課程 博士課程	韓国	東京藝術大学	2011.09.01 ~ 2012.10.31	1990年代以降の日本現代美術におけるサブカルチャーの影響と時代的背景について
3	HONG, Sookyeong	コーネル大学 博士課程	韓国	東京外国語大学	2011.08.15 ~ 2012.08.14	帝国日本の農村再編成と満州移民
4	JUNG, Won Sik	北京大学大学院 博士課程	韓国	岡崎研究所	2012.03.01 ~ 2013.02.28	国際関係学的な観点(政治外交と国際安全保障)から見た東アジアの海洋紛争研究(日本と中国の事例を中心に)
5	KIM, Ami	ニューヨーク大学 博士課程	韓国	慶應義塾大学	2011.01.15 ~ 2012.08.14	日本現代視覚文化と「可愛さ」の美学
6	KIM, Hee-kyoung	ソウル大学校 博士課程	韓国	東京大学	2010.06.06 ~ 2011.06.05	現代日本の地域社会における老年の社会文化構成に関する研究：長野県佐久市を中心に
7	LEE, Sangbaik	UCバークレー 博士課程	韓国	東京大学	2010.08.01 ~ 2011.07.31	資源依存と日本政治経済：20世紀の石炭・石油産業の事例を通じて
8	PARK, Hyun Hee	シカゴ大学 博士課程	韓国	明治学院大学文学部	2011.10.01 ~ 2012.09.30	帝国の銀幕の中の涙：戦時下日本のプロパガンダ映画における孤児、女性、メロドラマ
9	PARK, Kyungmin	ミシガン州立大学 博士課程	韓国	大阪大学大学院人間科学研究科	2011.07.01 ~ 2012.06.30	グローバル化時代の日本における「多文化共生社会」、そして地域社会の統合と社会的ネットワーク
10	SEOK, Hyang	東西大学校日本語学科 非常勤講師	韓国	立命館大学文学部	2010.05.10 ~ 2011.05.09	現代日本社会の変容と「ジェンダー・バックラッシュ」についての考察
11	YUN, Miran	仁荷大学校 博士課程	韓国	東京大学大学院	2011.06.01 ~ 2012.02.29	張赫宙の日本語の創作の多層性研究
12	AI, Jing	復旦大学国際関係公共政策学院 博士課程	中国	京都大学人文科学研究所	2010.09.01 ~ 2011.08.31	冷戦後の日本におけるナショナリズムの研究
13	FANG, Yongnan	吉林大学 博士課程	中国	学習院大学	2010.10.03 ~ 2011.09.30	中国における成年監護(後見)制度の将来像
14	FENG, Hui	南京大学 博士	中国	早稲田大学文学芸術院	2010.08.29 ~ 2011.08.28	正倉院宝物を中心とした東西文化交流の研究

アジア・大洋州交流事業費

	氏名	現職	所属国・地域	受入機関	期間	研究テーマ
15	HUANG, Junliang	コーネル大学 大学院博士課程	中国	東京大学	2012.01.07 ~ 2013.01.06	戦間期の文学・映画における東アジアのモダニズム—日本と中国の比較研究
16	LI, Li Wei	中山大学中国非物質文化遺産研究センター 博士課程	中国	早稲田大学文学学術院	2012.02.01 ~ 2012.09.30	20世紀中日演劇の相互研究及び交流—京劇と歌舞伎を例として
17	LU, Tan	中国社会科学院大学院 博士課程	中国	大阪大学大学院国際公共政策研究科	2011.07.27 ~ 2012.02.29	明治社会主義についての研究
18	LU, Xu	ペンシルバニア大学 博士課程	中国	同志社大学	2010.07.15 ~ 2011.06.30	帝国の「特使」：日本プロテスタント海外伝道者と太平洋兩岸の日本移民社会（1890～1941）
19	SUN, Shaohong	精華大学国際関係学部 博士課程	中国	早稲田大学	2010.11.11 ~ 2011.11.10	北東アジア安全協力に対する日本の発想、政策及び役割について
20	WANG, Jing	トロント大学 博士課程	中国	東京大学大学院総合文化研究科	2010.08.26 ~ 2011.08.25	植民地近代性(コロニアル・モダニティ)をめぐる都市空間と日本近代文学
21	WANG, Laite	東北師範大学歴史文化学院 博士課程	中国	国際日本文化研究センター	2011.09.01 ~ 2012.08.31	17世紀後期～18世紀中期 日中貿易における政治、文化交渉—商人と地方官僚の役割を中心に
22	WU, Meng	清華大学 博士課程在籍	中国	一橋大学大学院社会科学部研究科	2011.07.19 ~ 2012.07.18	戦後、日本の経済発展に対する政局変動の影響—社会の格差構造の要素から
23	WU, Shuang	四川大学 博士課程	中国	早稲田大学文学学術院	2011.09.17 ~ 2012.09.16	侠文化と武士道—中日近代文学新解釈
24	XIE, Zhihai	北京大学国際関係学院 博士課程	中国	日本大学国際関係学部	2010.08.01 ~ 2011.07.31	GHQの対日宣教政策と占領期日本におけるクリスチャンブーム（1945～1951）
25	YANG, Xiangfeng	南カリフォルニア大学政治国際関係研究科 博士課程	中国	早稲田大学政治経済学部	2010.07.01 ~ 2011.06.30	政治思想、国家の実力と日本の価値外交
26	ZHANG, Lijun	北京大学 博士課程	中国	中央大学法学部	2011.11.01 ~ 2012.10.31	日本におけるインターネット上での政治参加及び中国への示唆
27	PUREVSUREN, Naranbayar	モンゴル国家発展イノベーション委員会 職員	モンゴル	東京外国語大学	2011.09.14 ~ 2012.11.13	東アジア共同体思想の歴史的背景と現代—モンゴルと東アジア
28	SUNG, I-Te, Rita	ニューヨーク州立大学ストーニー・ブルック校 博士課程	台湾	早稲田大学	2012.01.20 ~ 2013.01.19	現代日本と対話のポピュラー文化での「世界観」：グローカリゼーションの実行
29	SEOW, Victor, Kian Giap	ハーバード大学 博士課程	シンガポール	一橋大学大学院経済学研究科	2011.08.26 ~ 2012.08.25	「エネルギー」の帝国：中国東北における日本炭鉱、1906～1952

アジア・大洋州交流事業費

	氏名	現職	所属国・地域	受入機関	期間	研究テーマ
30	CHUSRI, Asadayuth	チュラロンコン大学 専任講師	タイ	早稲田大学大学院 日本語教育研究科	2010.05.10 ~ 2011.07.09	タイ人日本語学習者の独話における助詞「ネ」の機能の研究
31	JAMORNSURIYA, Winai	ナコーンラーチャ シーマー ラーチャ パット大学 講師	タイ	野上記念法政大学 能楽研究所	2010.06.01 ~ 2011.05.31	謡曲における恋の苦しみ
32	NGO, Lan Huong	ベトナム国家社会 科学院附属東北ア ジア研究所 博士 課程/日本研究セン ター副所長	ベトナム	国際日本文化研究 センター	2011.09.30 ~ 2012.05.29	日本人のコミュニケーション文化の特徴：ベトナムの断わりの言語行為と比較
33	A.KEENI, Gita	ビシュア・バラ ティ大学 講師	インド	国際日本文化研究 センター	2011.06.30 ~ 2012.06.27	女性に関する日本とベンガルのことわざの比較研究
34	BASU, Titli	ジャワハルラル・ネ ルー大学 博士課 程	インド	東京大学大学院	2010.11.01 ~ 2011.10.31	気候変動に対する企業の反応：日本の展望
35	R.PANNEERSELVAM, Prakash	ジャワハルラル・ネ ルー大学 博士 課程	インド	岡崎研究所	2011.10.25 ~ 2012.10.24	日本の海上安全保障：南アジア諸国との連携(1999~2009)
36	TENNETI, Vijay Suryakant	国立英語外国語大 学 准教授	インド	国際日本文化研究 センター	2011.01.15 ~ 2012.01.14	社会文化的理解と異文化交渉
37	KUDO, Mitsuru	オーストラリア国 立大学 博士課程	オーストラリア	早稲田大学	2011.06.01 ~ 2012.01.31	日本における大衆向け科学書の消費についての文化研究
38	LEARY, Danton John	オーストラリア国 立大学 博士課程	オーストラリア	東京大学	2011.12.01 ~ 2012.11.30	国際連盟の委任統治制度における文化人類学の役割：日豪の事例研究
39	LOVELL, Stefan James	ラ・トロープ大学 社会学部 博士課 程	オーストラリア	神戸大学	2010.08.01 ~ 2011.07.30	日本におけるマイノリティ共同体：多言語ラジオFMわいわい
40	SAITO, Kaori	オーストラリア国 立大学 博士課程 在籍	オーストラリア	早稲田大学大学院 アジア太平洋研究 科	2010.12.20 ~ 2011.08.19	日本の開発援助政策決定におけるアイデアとインスティテューションの役割
41	WANG, Yuanchong	コーネル大学 博 士課程	中国	東京大学大学院総 合文化研究科	2011.08.22 ~ 2012.08.21	主権と宗藩のあいだで：朝鮮問題に関係する日清交渉 1873~1895



アジア・大洋州交流事業費

2. 人物交流事業費 / (4) 日本研究フェローシップ(学者・研究者 短期) [アジア・大洋州]

諸外国の優れた日本研究者に日本で研究・調査活動を行う機会を提供する。

合計額 21,030,640 円

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ
1	HAHN, Kyungdong	韓国外国語大学校教授	韓国	早稲田大学アジア太平洋研究科	2011.05.10 ~ 2011.07.07	日本と韓国の金融経済リテラシーを中心として
2	HWANG, Jin	仁済大学校 非常勤講師	韓国	—	2011.07.19 ~ 2011.08.24	フランス象徴主義詩の日本内受容の問題及び象徴詩と口語自由詩の関連性研究
3	HYUN, Jung Hwan	ソウル神学大学校教授	韓国	広島大学	2012.01.06 ~ 2012.03.04	日本の保育所における外国籍子どもの保育への支援現況に関する研究
4	PARK, Bok Won	韓国国際大学校教授	韓国	—	2011.07.01 ~ 2011.08.27	芭蕉と孤山の自然観研究
5	CHEN, Ruiying	浙江大学城市学院准教授	中国	—	2011.07.03 ~ 2011.08.30	日中蚕糸文化の比較研究—その変遷と継承を中心に
6	CHEUNG, Wai Chun	香港浸会大学(香港バプティスト大学)准教授	中国	—	2011.11.22 ~ 2011.12.31	カリキュラムと教科書の公文書による研究：日本占領期の香港における日本の教育政策を再考する
7	FENG, Tong	北京師範大学博士課程修了	中国	島根県立大学	2011.07.15 ~ 2011.09.11	伝統文化を生かした地域づくり—無形の文化財を保護する角度から
8	HUANG, Aihua	浙江省杭州師範大学 教授	中国	早稲田大学演劇博物館	2011.09.21 ~ 2011.11.16	20世紀初頭日中演劇比較研究—新派劇、新劇及び文明新戯、歌舞伎と京劇の間の影響交流関係を中心として
9	QIN, Ying	大連民族学院日本語文化学部学部長	中国	法政大学国際日本学研究所	2011.07.18 ~ 2011.09.14	異文化理解・多文化共生としての日本研究—日本生活文化の変遷を中心に
10	WU, Chunyan	広東工業大学外国語学院 講師	中国	—	2011.07.16 ~ 2011.09.12	日本中世禅林における老荘思想の受容
11	OCHIRKHUU, Jargalsaikhan	モンゴル国大統領府 教育、科学、技術、宗教担当補佐官	モンゴル	—	2011.05.21 ~ 2011.07.18	紫式部源氏物語モンゴル語訳
12	DJOHAN, Eniarti	インドネシア科学院人口研究所 上級研究員	インドネシア	鹿児島大学	2011.06.21 ~ 2011.08.18	日本のお盆期間の「里帰り」：社会人類学的アプローチ
13	KRUTWAYSHO, Oratai	プーケットラーチャパット大学観光学部長	タイ	千葉大学	2011.10.05 ~ 2011.12.02	日本とタイにおけるグリーンツーリズムポリシーとその実践の比較研究：起業的視点

アジア・大洋州交流事業費

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ
14	MI MI GYI	マンダレー大学 准教授	ミャンマー	—	2011.06.16 ~ 2011.08.13	環境保護についての比較研究：ミャンマーと日本
15	ZIN NWE MYINT	ヤンゴン大学 講師	ミャンマー	—	2011.06.16 ~ 2011.08.13	日本の都市の危険削減におけるアーバンプランニングの役割
16	GHOSH, Madhuchanda	コルカタ大学パン チュールカレッジ 准教授	インド	—	2011.09.30 ~ 2011.10.26	インドと日本：アジア太平洋地域における経済的利益の集中
17	MANGI, Lutfullah	シンド大学 教授	パキスタン	—	2012.01.13 ~ 2012.03.11	ポスト冷戦時代における日本の北東アジア政策
18	BARCLAY, Kathryn May (Kate)	シドニー工科大学 シニアレクチャ ラー	オーストラリア	東京海洋大学 海 洋科学部 海洋政 策文化学科	2011.09.01 ~ 2011.09.30	グリーン刺身・社会的に埋め込まれたサプライチェーンにおける 鮪資源の保存
19	KARLSSON, Mats Arne	シドニー大学 講師	オーストラリア	—	2011.11.01 ~ 2011.12.20	日本のプロレタリア文化運動再訪
20	JOHNSTON, Charles	オークランド工科 大学 上級講師	ニュージーランド	早稲田大学大学院 アジア太平洋研究 科	2011.11.20 ~ 2011.12.24	日本人観光客をプロファイリングする：失われた日本からの声
21	WARD, Vanessa Buffy	オタゴ大学 講師	ニュージーランド	—	2011.08.30 ~ 2011.10.27	長(武田)清子とアジアにおけるピープル・トゥ・ピープルネット ワーク

アジア・大洋州交流事業費

2. 人物交流事業費 / (5) 日本研究フェローシップ(高砂熱学工業)

インドネシア、フィリピン、マレーシア、ベトナムの日本研究専攻の学生に奨学金を供与する。

合計額 1,757,000 円

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ
1	NGO, Lan Huong	ベトナム国家社会科学院附属東北アジア研究所 博士課程/日本研究センター副所長	ベトナム	国際日本文化研究センター	2011.09.30 ~ 2012.05.29	日本人のコミュニケーション文化の特徴：ベトナムの断わりの言語行為と比較

アジア・大洋州交流事業費

2. 人物交流事業費 / (6) 知的リーダー交流(招へい) [アジア・大洋州]

諸外国の政治、経済、労働、メディア、教育等の各分野で影響力を有する人材を招へいし、日本側関係者との意見交換、当該分野での状況視察等の機会を提供する。

合計額 17,101,607 円

	事業名	氏名	現職	所属国	期間	事業内容
1	アジア・リーダーシップ・フェロー・プログラム	YALI, Zhang	国際連合本部 助手	中国	2011.04.01 ~ 2012.03.31	アジア諸国において社会的影響力を有する知識人7名が、2011年9月12日から同11月12日までの2カ月間日本に滞在。2011年度の共通テーマ「対話するアジア：思いやりある社会の創造をめざして」のもと、知的共同作業や個々の研究活動を通してネットワーク形成を図ることにより、地域が直面する様々な課題に対する共通の問題意識を醸成。更に、課題の解決に取り組むための知的基盤作りを促進
		NAINGGOLAN, Miryam S.V.	パリフ財団 理事	インドネシア		
		SAYRE, Elmer Velasco	水、農林、栄養と 開発に関する財団 アドバイザー	フィリピン		
		VUONG, Huong Thanh	ベトナム教育訓練 省教育科学院 (VNIES) 教育情報 センター長	ベトナム		
		PERERA, Jehan	国家平和協議会 理事	スリランカ		
		GUL, Imtiaz	パキスタン安全保 障研究センター 理事	パキスタン		
		今井 千尋	元 アフガニスタ ン大使館一等書記 官	日本		

アジア・大洋州交流事業費

3. 催し等事業費 / (1) 知的交流会議(助成) [アジア・大洋州]

日本と諸外国の相互理解の促進とより緊密な関係の構築、世界の知的交流の推進を目的とした、国際的な知的共同事業（国際会議等）に対し、経費の一部を助成する。

合計額 124,572,896 円

	事業名	対象国・地域	助成対象機関	期間	事業内容
1	学術会議及びシンポジウム「東アジア文化と『古事記』・『日本書紀』」	韓国	東アジア日本学会	2011.04.01 ~ 2011.05.15	韓国における日本古代史研究の活性化をはかるため、日本から神野志隆光（東京大学名誉教授）等を招へいし、歴史、思想、人類学など個別分野を超えた学際的な観点から『古事記』・『日本書紀』を検討するシンポジウムを開催
2	セミナー「植民地期における浅川兄弟の朝鮮工芸に関する研究」	韓国	ソウル国際親善協会	2011.04.01 ~ 2011.06.30	朝鮮の伝統工芸を高く評価し、その研究を進め、「朝鮮民族美術館」を開くなど、韓国民俗・美術史研究に大きな足跡を残した浅川伯教・巧兄弟の人となりと業績をたどり、その功績を広く今に伝えようとするシンポジウムを実施
3	第4回アジア映像政策フォーラム	韓国	釜山フィルムコミッション	2011.04.01 ~ 2011.10.31	アジアフィルムコミッションネットワークに加わるアジア・太平洋地域の映像政策責任者、映画製作者、フィルムコミッショナーが一同に会し、アジアの映像産業と映像政策のあり方について意見交換を行い、相互交流と相互理解を進展させるため、国際会議を開催
4	新自由主義革命以後、日本の第三の道：格差社会の是正のための日本国家改造計画の行方	韓国	現代日本学会	2011.04.01 ~ 2011.11.30	小泉政権下の新自由主義的諸改革の推進から民主党政権の誕生に至る現代日本政治の変転を、効率的なガバナンス構造の構築と社会の均衡発展という国家改造の方向性をめぐるせめぎあいという観点からどうとらえるかをテーマにシンポジウムを開催
5	第11回日韓中制作者フォーラム IN 札幌	韓国 中国	放送人の会	2011.04.01 ~ 2011.12.01	日中韓3カ国のテレビ番組制作者約110名が参加し、作品上映、意見交換、シンポジウムなどの交流を通じて、異なる国家の歴史や背景を超え、放送が世論や文化へ影響を与え始めている今のテレビの在り方を考える国際会議。2011年9月22日～25日に北海道大学にて開催
6	東アジア気候フォーラム2011	韓国 中国	東アジア環境情報発信所	2011.04.01 ~ 2012.01.31	日中韓で検討・準備が進められている気候政策の現状について比較・検証し、「低炭素東アジア」を実現するために必要な政策と実践について議論を深め、提言の取りまとめを実施
7	東アジアの平和と民主主義—北朝鮮問題への地域協力体制：課題と展望	韓国 米国	聖学院大学総合研究所	2011.04.01 ~ 2012.03.31	地域の主要国の安全保障や領土、資源をめぐる摩擦を踏まえ、日本、韓国、米国の朝鮮半島問題専門家が政治、経済、軍事分野などから多角的に北朝鮮を分析し、問題解決と地域安定への望ましい協力体制を探る国際会議を開催。2012年2月24日～25日に東京で実施
8	日韓次世代学術フォーラム 第9回国際学術大会(東京大会)	韓国	東西大学校	2011.04.01 ~ 2012.03.31	次世代を担う、大学院生を中心とする人文社会科学系の若手の日本人研究者と韓国人研究者が、相互の研鑽と理解を目指し、論文発表と討論を行う学術発表大会を開催
9	東アジア生命平和会議～古くて新しいエコロジー思想	韓国 インド	ナマケモノ倶楽部	2011.04.01 ~ 2012.03.31	日本、韓国、インドの環境・平和問題を専門とするゲストとともに、「東アジアにおけるエコロジー思想」を検証・再評価し、次世代を担う若い世代を中心に、環境に負荷をかけないライフスタイル構築の一助となるようなシンポジウムを各地で開催

アジア・大洋州交流事業費

	事業名	対象国・地域	助成対象機関	期間	事業内容
10	日本国際文化学会 創立10周年記念特別 シンポジウム 「戦略としての文化 と国際文化学」	韓国 中国 台湾 米国	日本国際文化学会	2011. 04. 01 ~ 2012. 03. 31	国と国との関係を超えた、人と人との関係を直視する国際文化学の役割を問い直すことを目的に、2011年7月1日から3日間に亘り、「東アジア共同体と国際文化学」、「グローバル化する若者文化と国際文化学」と題した国際公開シンポジウムを開催
11	アジア創造経済 ワークショップ	韓国 シンガポール オーストラリア	文化経済学会 〈日本〉	2011. 04. 01 ~ 2012. 03. 31	先進国経済において創造的な文化活動やアート活動の重要性が増していることを鑑み、創造経済論、創造都市論など、アジアにおける文化経済学への関心喚起や研究促進を目的として実施する国際会議。豪州、シンガポール、韓国からの講師のほか、論文公募による発表を実施。2011年11月27日～28日に京都にて開催
12	国際文化経済学会 京都大会	韓国 中国 シンガポール オーストラリア	文化経済学会 〈日本〉	2011. 04. 01 ~ 2012. 03. 31	創造的な文化活動、アート活動こそが、特に先進国経済において重要な産業になっているという認識の元、創造経済論、文化経済学に関する多様な研究報告と議論を重ねる国際研究大会。過去32年間、16回に亘り欧米で開催されてきたが、17回目の本年はアジアで初開催
13	「児童・青少年演 劇の可能性」につ いての国際交流プ ロジェクト—国際 シンポジウム& ショートレジデ ンス—	韓国 中国 フィリピン マレーシア バングラデシュ メキシコ イタリア ドイツ	沖縄県芸術文化振 興協会	2011. 05. 01 ~ 2011. 10. 31	沖縄市で開催されるキジムナーフェスタの中で、各国のアーティストと教育関係者を招へいし、児童・青少年をめぐる問題や平和構築に対する児童・青少年演劇の役割や可能性などについて意見交換等を実施
14	韓国外語大学校 日本語大学創立50 周年記念 国際学 術シンポジウム	韓国	韓国外語大学校 日本研究所	2011. 05. 13	韓国で初めて日本関係学科として創設された韓国外語大学校日本語大学の創立50周年を記念し、日韓の言語、文学、政治、経済などに関するシンポジウムを開催
15	日韓両国における 社会的企業の比較 と東アジアネット ワークの探索	韓国	韓日未来フォーラ ム	2011. 05. 27	現在日韓両国で注目を浴びつつある社会貢献や市民活動を行う社会的企業について、日韓双方から社会的企業の研究者、実務者を招へいし、それぞれの国における現状や課題について、現状報告や意見交換を行う会議を開催

アジア・大洋州交流事業費

	事業名	対象国・地域	助成対象機関	期間	事業内容
16	国際シンポジウム「江戸学研究の国際比較」	韓国	漢陽大学 日本学国際比較研究所	2011.08.01 ~ 2011.10.31	日本、中国、アメリカ、ニュージーランドから研究者を招へいし、韓国の研究者と「江戸時代の思想と文化」をテーマに対話の場を設け、既存の学問体系や研究手法にとらわれない新たな日本研究の地平を目指すためのシンポジウムを開催
17	第12回東アジア国際シンポジウム	韓国 中国 モンゴル ロシア	東アジア総合研究所	2011.08.23 ~ 2011.08.27	日本、中国、韓国、ロシア、モンゴルなどから学者、研究者、企業家、言論人など十数名が一堂に会し、90年代以降再度活性化している豆満江地域の開発をテーマに議論する国際会議。環境・エネルギー、物流を中心に多角的に議論し、国際関係や利害関係のからむ当該地域の開発促進のための協力課題を追求。2011年8月24日～25日に中国吉林長春市で実施
18	文化的創造性を生かしたコミュニティビジネス活性化のための日韓コミュニティ知的交流事業	韓国	希望製作所	2011.09.01 ~ 2011.10.31	コミュニティビジネスによる、文化芸術を通じた地域の活性化の方策について、日韓双方の事例に基づいて、意見交換を行う会議を開催
19	高齢者の災害及び危機予防と対応プログラム開発のための日韓交流	韓国	韓国老人総合福祉館協会	2011.11.24 ~ 2012.03.31	日本と韓国の社会が共に直面している高齢化社会における福祉サービスのあり方について、災害時の対応や自殺予防策の観点から、相互の事例をもとに検討するプロジェクトを実施
20	東日本大震災後日本研究の課題—日台会議—	台湾	早稲田大学台湾研究所	2011.12.05 ~ 2011.12.06	円卓会議とシンポジウム。2009年以降台湾の主要大学で次々と新設あるいは設置準備中の日本研究センター等の日本研究チームの代表者を招へい。非公開の円卓会議では台湾における日本研究の現状、動向の報告と意見交換が主として行われ、公開シンポジウムでは「原発震災後の日本—この国のかたち」と題し、東日本大震災以降の日本に対する現状認識と日台学術交流の課題を討論
21	韓国日本学会第84回学術大会「転換期の日本研究」—3.11以後の日本とアジア	韓国	韓国日本学会	2012.02.04	定期学術大会。韓国で最も活動歴の長い日本研究学会である韓国日本学会が年2回実施する定期学術大会のうちのひとつ。84回目となる本大会では、東日本大震災をテーマに採り上げ、転換期にある日本と韓国の日本研究の現在を確認するとともに、今後の日本の変化予想を基に新たな研究アジェンダを模索
22	東日本大震災以後の日本社会のパラダイム転換と日韓関係	韓国	日本政経社会学会	2012.02.16	2012年2月に、韓国ソウルにおいて、日韓の研究者が東日本大震災後の社会変化と日韓関係について話し合うシンポジウム
23	震災後のいま問いかけ—なぜ、『雨ニモ負ケズ』が読まれるのか	韓国 中国 米国	法政大学サステイナビリティ研究教育機構	2012.03.20	震災から一年目の節目を迎える2012年3月20日に、日本、米国、中国をはじめとする各国の研究者を招へいし、震災後注目されている宮沢賢治の『雨ニモ負ケズ』をひとつの題材として、人間が自然と向き合いながらどのように自然との関わり方を考えてきたかという精神遍歴や、アジアに広く共通する「哲学」や「思想」としての自然との融合という普遍的な価値について議論

アジア・大洋州交流事業費

	事業名	対象国・地域	助成対象機関	期間	事業内容
24	第6回沖縄研究国際シンポジウム	全世界区分困難	沖縄文化協会	2012.03.29 ~ 2012.03.31	沖縄が近代国家が抱える諸問題を根源的に問い直す起点として重要な役割を果たしている現実に鑑み、沖縄学と隣接領域の連携を広げ、新たな沖縄学の研究領域を切り開き、沖縄学と他の地域研究との間に共有される重要な諸課題について、地域の枠組みを超えた研究者間の対話を通して明らかにする事業。米国、韓国、ロシアから専門家が参加し、2012年3月に早稲田大学にて3日間実施
25	映像から見た戦後日本セミナー—研究者と学生との対話—	中国	清華大学日本研究センター	2011.04.01 ~ 2012.03.31	戦後から現在に至るまでの日本の歴史、社会、文化を様々な角度から検討し、日本認識を更に深めることを目的とするセミナー。映像(映画)作品を教材にすることで、聴講者たちに知的刺激を与え、日本を研究の対象とする意欲を引き出し、若手日本研究者の拡充・育成も狙いの一つとする。2011年9月19日～9月23日に清華大学にて開催
26	学問分野としての日本哲学：教育と研究の現場	中国	香港中文大学	2011.04.01 ~ 2012.03.31	日本哲学の国際性、多様性への関心が高まっているものの研究者交流が確立していないことを背景に、日本、中国、台湾、香港、欧米の哲学研究者約20名が、日本哲学の研究と教育の現場におけるノウハウや課題について共有、議論する事業。2011年12月10日～11日に香港中文大学にて実施
27	「辛亥革命と東アジア」講演会とシンポジウム	中国	「辛亥革命と東アジア」実行委員会	2011.04.01 ~ 2012.03.31	中国近代化の出発点となった辛亥革命が当時の東アジア世界に与えた影響や現代に与える影響等について、国際関係、経済、文化など多様な側面から討議し、辛亥革命の東アジアにおける意義や今後のアジアと日本の関係を、辛亥革命と関連の深い福岡から展望する。市民向けの講演会(1日)、テーマ別分科会(2日間)、学術シンポジウム(1日)を2011年10月29日～30日に福岡で実施
28	世界史から見た中国社会の変革と日本—辛亥革命百年記念国際学術会議—	中国	清華大学日本研究センター	2011.04.01 ~ 2012.03.31	辛亥革命百年を記念する国際学術会議。日清戦争から21世紀にいたるまでの中国社会の変革に焦点を絞り、そこにある日本要素の辛亥革命百年を契機に、日本、台湾、韓国及び中国大陸の専門家が一同に会し、21世紀の中国の国家としてのあり方と日中関係の行方を探る。2011年9月9日～9月10日、清華大学にて開催
29	第8回 東京-北京フォーラム	中国	言論NPO	2011.04.01 ~ 2012.03.31	アジアや日中の共通課題の解決に向けて、両国の有識者や国民が広く共に考え、政府関係の悪化に左右されない本音で真剣に議論ができる民間対話の場を実現することをめざす継続対話事業。2012年7月に東京で実施
30	東アジアの平和の見通し：日中韓の映画像から	中国	香港理工大学	2011.04.01 ~ 2012.03.31	第二次世界大戦以降に日本、中国、韓国で制作された映画・ドキュメンタリーにおける、戦争や平和の描かれ方について、学際的なアプローチで分析、議論する国際会議。アジア、米国、欧州から専門家が参加し、2011年12月16日に実施
31	米国のアジア太平洋戦略の調整と中日関係	中国	上海交通大学日本研究センター	2011.04.01 ~ 2012.03.31	2010年以降の、米国によるアジア太平洋地域に対する戦略の変化とその影響、また、新たな世界情勢における日米中間の協調と協力の道と方法を探る会議。日本、中国、米国の外交専門家や学者が参加し、2011年10月15日～17日に上海にて実施
32	「東アジアの新秩序構造と日中米関係」と題する国際シンポジウムの開催	中国	中国社会科学院日本研究所	2011.04.01 ~ 2011.05.30	中国の台頭、日本政治の変化、米国の東アジア戦略、日米中の政治・安全保障・経済関係、パブリックディプロマシーなどに焦点をあてながら、3カ国の著名な学者や有識者が、21世紀に入ってからの、とりわけ世界金融危機以来の日中米関係や東アジアの新秩序構造の形成を検討する事業。2011年5月17日～18日に北京にて実施



アジア・大洋州交流事業費

	事業名	対象国・地域	助成対象機関	期間	事業内容
33	第1回東アジア共同体国際フォーラム 一国境を越える協 力と紛争の平和的 な解決	中国	中山大学亚太研究 院韓国研究所	2011.04.30 ~ 2011.10.31	日本、中国、韓国、東南アジア諸国の研究者、官僚、マスコミ、企業家などが参加し、東アジア共同体構築を構想するうえでの制約や障壁について、関係国間に存在する領土所有権の問題等に照らしながら検討し、平和的な解決への道を模索する国際会議。2011年7月15日～17日に実施
34	中国の戦略的意図 と重大な戦略的変 更：東アジア安全 への影響	中国	香港嶺南大学	2011.05.01 ~ 2012.03.01	中国の外交戦略の転換およびそれが東アジア情勢に与える影響について、日本、米国を中心とした諸外国がとるべき対応について議論する事業。日本、中国、米国、英国から外交や対中国政策の専門家等が参加し、2011年11月4日に実施
35	第1回「中国・ベト ナム知識人の対話 と日本」	中国 ベトナム	早稲田大学中越知 識人対話	2011.05.17 ~ 2011.05.20	民間対話のチャンネルが弱い中越において、日本のリーダーシップにより多国間の知識人対話の場を設けることにより、地域的な信頼関係の醸成を目指す。将来的に開発や文化を取り扱うことを前提に、まずはしばしば摩擦の原因となる歴史問題について総合的な対話を行い、各国政府への提言をまとめる
36	中国中日関係史学 会とのシンポジウ ム開催	中国	中日関係史学会  日本日中関係学会	2011.06.01 ~ 2011.08.31	国際学術シンポジウム。長年に亘る交流相手である中日関係史学会(中国)との共催事業として、「ピンポン外交40周年記念シンポジウム～新たな日中両国の交流を目指して」(名古屋)及び「日中の戦略的互惠関係～信頼確立には何をすべきか」(東京)を開催。日米中関係、東アジア共同体、今後の日中経済交流のあり方、日中環境協力など地球規模の諸問題の他、両国文化の相互理解と共生、観光、留学生等の人的交流がテーマ
37	中国戦略互惠関係 の推進に関する方 法論の模索	中国	同済大学アジア太 平洋研究センター	2011.04.01 ~ 2012.03.31	中日戦略互惠関係の枠組みの中で、中日協力による東アジア地域の発展や繁栄などにおいて、社会的発展の視点から研究、討論。2011年11月11日、2011年11月12日に同済大学で開催
38	東日本大震災の教 訓―日中災害強力 ネットワークの構 築―	中国	京都大学・清華大 学・中国人民大学 北京シンポジウム 実行委員会	2011.09.28 ~ 2011.10.27	2011年10月19日に、中国北京において、清華大学、人民大学、京都大学の共催により、「日中災害協力ネットワーク構築」をテーマに、日中両国の地震・防災・都市計画の研究者が一堂に集まり、東日本大震災から学んだ教訓を生かし、両国の災害協力ネットワーク作りを行う
39	東アジア協力 フォーラム2011: 東北アジア安保シ ステムの構築	中国	中国人民大学東ア ジア研究センター	2011.11.05 ~ 2011.11.06	中国、日本、アメリカ、韓国、ロシア、モンゴル、アセアン諸国などからの有識者が参加、東北アジア安保の現状と問題、秩序の構造、東北アジア地域の海上紛争、地域紛争と安保システムの理論などをテーマに検討
40	世界防災研究所サ ミット―巨大災害 の教訓から自然災 害研究の新しいパ ラダイムを探る	中国 インドネシア マレーシア インド カナダ 米国 イタリア 英国	特定非営利活動法 人 国際総合防災 学会	2011.11.24 ~ 2011.11.25	京都大学防災研究所との共催により、国内外の防災研究機関の研究者が一同に会して、想定を超える自然災害となった東日本大震災や、その他の世界の大規模災害によってもたらされた研究課題や自然災害からの教訓を共有する防災研究サミットを開催。自然科学、人文・社会科学、工学等の英知を結集して取り組むべき自然災害研究の新たなパラダイムを探求

アジア・大洋州交流事業費

	事業名	対象国・地域	助成対象機関	期間	事業内容
41	東北アジアにおける多文化共生の実態研究とその可能性—他者的視野とネットワーク構築—	中国	内蒙古大学日本学 研究センター	2010.12.01 ~ 2011.11.30	内蒙古大学日本学研究センターの設立記念にあたり、中国、日本、モンゴル、韓国から専門家、研究者、NPO関係者を招へいし、東北アジアを他者的視点から考察し、同地域における多文化共生の実態研究の展開と発展をめざす事業。2011年8月8日～10日、内蒙古自治区にて実施
42	日中災害管理・震災復興市民交流プログラム	中国	日中市民社会ネットワーク	2011.12.09 ~ 2011.12.15	中国の震災復興関係NPO・財団関係者を日本へ招へいし、東京・仙台・登米など各地を訪問。東日本大震災の復興に取り組んでいる日本の市民社会を見学し、防災・復興関係者と意見交換を通じて、問題意識の共有、長期的な協力関係の構築のきっかけを提供
43	日本の復興と未来：震災復興における多元文化の共生と政治経済の展望	東アジア区分困難	京都産業大学 世界問題研究所	2012.01.06 ~ 2012.01.09	台湾・東海大学学際的日本地域研究センターと京都産業大学世界問題研究所の共催により、「防災・復興」を柱に、「多元文化の共生」「自治体と住民のコミュニケーション」「経済・金融システム」「政治的リーダーシップ等の関わり」をテーマとしたワークショップ及びセッションを開催。中国、韓国、台湾、日本から30名以上の専門家が研究報告や討議を実施
44	退職者災害ボランティアシンポジウム～日本と中国の経験から～	中国	地方公務員等ライ フプラン協会	2012.02.09 ~ 2012.02.11	「退職者による災害ボランティア」をテーマに、日本及び中国のボランティア、行政関係者、住民等が参加し、両国での体験の紹介、課題の指摘、今後のボランティア活動の展開、ネットワークの構築について意見交換を実施
45	震災と価値観の創出	中国	香港教育学院	2012.03.09 ~ 2012.03.10	仙台的東北大学において、「震災と価値観の創出」をテーマとする国際シンポジウムを開催。日中のみならず、欧州や他のアジア地域からの参加者も一堂に会し、震災後の価値観の変化などについて討論。研究者同士の議論だけでなく、地元市民との対話の場も提供
46	第4回東アジアウランバートルフォーラム	モンゴル	モンゴル開発研究 センター	2011.04.01 ~ 2011.12.01	北東アジアの安全保障問題を議論する場として各国の研究者を招へいし、鉱物資源開発とその環境整備について議論するフォーラム会合の4回目。参加国は日本、中国、韓国、ロシア、カナダ、スウェーデン。2011年8月24日、25日にウランバートルで実施
47	異文化受容(モンゴルにおける日本理解を中心に)シンポジウムの開催	モンゴル	北東アジア輸送回 廊ネットワーク	2011.04.01 ~ 2012.03.31	オルホン大学(私立)に日本書籍約1万冊から成る「現代日本文庫」が創設されることを記念し、「モンゴルにおける現代日本文化の受容」及び「日本語学習と日本語図書役割と広がり」等をテーマに国際シンポジウムを開催。同文庫の周知とともに、日本文化への理解促進を企図
48	エルデニゾー寺院—過去・未来・現在	モンゴル	モンゴル国立国際 遊牧民文明研究所	2011.06.01 ~ 2012.01.31	「世界遺産エルデニゾー寺院日本・モンゴル共同学術調査プロジェクト」の3年間の成果を総括する国際会議。同寺院の過去の復元、未来への保存方法、現在の使用状況の面から討議。日モ両国の他にロシア、ポーランドからも研究者が参加。2010年11月に日本の資金協力により同地に開館した「カラコルム博物館」の今後の運営についても議論するとともに、持続可能な文化遺産の保存活用について地域住民とともに検討
49	第1回日台アジア未来フォーラム「国際日本学研究所の最前線に向けて」	東アジア地域区分 困難	関ログローバル研 究会(SGRA)  台湾大学	2011.04.01 ~ 2012.02.28	日本、中国、台湾、韓国、米国、イタリアの研究者が、正統的な日本学をめぐる斬新な方法論の実践状況を視野に入れながら、流行文化(ポップカルチャー)に焦点を当てた議論を展開する国際会議。台湾では未だ学問として成立していない日本の流行文化の受容研究に多角的な視野を提供するもの。台湾大学文学院及び同大日本語文学系・日本語文学研究所との共同事業で、2011年5月27日に台北市で実施

アジア・大洋州交流事業費

	事業名	対象国・地域	助成対象機関	期間	事業内容
50	東アジアにおけるローカル・ガバナンスの現状と行方	東アジア地域区分 困難	山梨学院大学	2011.04.01 ~ 2012.03.31	日中韓、モンゴル、台湾などから学者、政府職員、研究者等12名が参加し、東アジア諸国の地方自治の動向と課題、地方の首長と議会との関係、住民管理と住民参加、地方財政と公共サービスなどをテーマに、東アジア諸国におけるローカル・ガバナンスの現状と行方に関するシンポジウムを実施
51	日・ASEAN対話「変化する世界・地域と日ASEAN協力」	インドネシア シンガポール フィリピン ベトナム	グローバル・フォーラム	2011.04.01 ~ 2011.12.31	近年の東アジアを取り巻く国際環境の大きな変化を背景に、日本とASEAN諸国との密接な協力関係を構築し、地域の平和と安定にいかに関与するかについて、ASEAN諸国の戦略問題研究所の関係者と日本の研究者や政策担当者間の対話の場を設けることを目的に国際会議を実施
52	インドネシア-日本ワークショップ：「インドネシアと日本の島しょにおけるトランスナショナリズムと社会変化：問題と課題」	インドネシア	インドネシア科学院人口研究所	2011.06.22 ~ 2011.06.23	インドネシアと日本の島しょにおけるトランスナショナリズムの影響と課題を取り上げる日本、インドネシア間の国際会議。両国の島しょ部の年齢別に見た人口問題や過疎化の問題、自治や地域開発の問題など、双方の状況を人類学的・法的・開発学的な観点等から比較
53	国際会議「アジア固有の視点を探る：共通点と相違点」	インドネシア	サナタ・ダルマ大学心理学部	2011.07.27 ~ 2011.07.30	アジアの視点から見た様々な分野におけるアジア研究を議論する国際会議。アジアの国々固有の概念や方法を用いた学問的スタンスを模索し、アジア共通のテーマに挑む取り組み
54	第4回「日本から学ぶ」国際シンポジウム：都市社会の脆弱性と減災への予防策 日本とインドネシアの事例から	インドネシア	インドネシア大学心理学部危機センター	2012.02.21	災害における都市部の脆弱性をいかに克服し、防災・減災に対する備えを強化するかについて、日本とインドネシアの事例を交えて意見交換を実施
55	日本文化を解析する：シンガポール社会への応用	シンガポール	シンガポール国立大学インタラクティブデジタルメディア研究所	2011.04.01 ~ 2012.03.31	日本とシンガポールの研究者が、「カルチュラル・コンピューティング」という手法を用いて日本文化のエッセンスを抽出・解析し、シンガポールをはじめとする他文化への応用の可能性や課題について検討する国際シンポジウム。併せて、ワークショップ、展示会、パネルディスカッションなどを実施
56	国際会議「所有再考～幸福な社会への道筋」	タイ	チュラロンコン大学政治学部幸福学研究所	2011.05.01 ~ 2011.08.31	アジアに適した新しい幸福な社会のモデルを探ることを目的に、所有に関する概念の再検討や有機農業の可能性、情報技術の地域格差等をテーマに、日本、アジア、欧州、米国から約60名の有識者、政策決定者が、グローバル化時代における新たな生活価値観や社会セーフティネットのあり方について議論する。2011年8月25日～27日にバンコクにて実施
57	国際会議「近代化の現場～貿易、植民地主義、民族主義とアジア諸都市の変遷	タイ	チュラロンコン大学東アジア研究所／文学部歴史学科	2011.08.01 ~ 2011.12.31	アジアの主要な港町・都市に焦点をあて、貿易、植民地主義、ナショナリズムの観点から、18世紀から現代までのアジアの近代化について、アジア独自の視点で問い直す国際会議。アジア大洋州地域から12名の専門家が参加し、2011年7月21日～22日にバンコクにて実施

アジア・大洋州交流事業費

	事業名	対象国・地域	助成対象機関	期間	事業内容
58	環境・コミュニティの防災・復興ワークショップ	フィリピン	フィリピン地域開発協会	2011.04.01 ~ 2012.02.28	地域単位で災害対策のあり方を考え、「防災文化」を地域に根付かせることを目的に、日本、インドネシア、ネパールの専門家を招へいし、フィリピンのソーシャル・ワーカー等を対象に防災教育に関する指導者育成ワークショップと、成果を地域に還元する地域ワークショップを実施。2011年7月から11月にかけて、ビサヤと南ルソン地域で実施
59	第2回アジア児童博物館会議：環境保護と気候変動を考える	フィリピン	ミュゼオ・パンバダ財団	2011.05.01 ~ 2011.11.01	子供の啓発や教育活動に携わっているアジア、米国、ヨーロッパの専門家や児童博物館のキュレーターが一堂に会し、環境保護や気候変動等のグローバルな課題について、どのように子供の能力開発を行うべきかについて、国際会議や視察を通して考える。2011年9月から11月にかけての4日間、マニラで実施
60	よみがえる場所：文脈を越えて伝えること(アート教育を学び、考える)	フィリピン	パナナウ・ナンシニン・ナン・パヤン	2011.06.01 ~ 2012.03.31	アジア各国及び英米から芸術教育に関する専門家を招へいし、まだ研究の進んでいないアジアにおける現代美術の教育理論や手法、現代美術の扱える様々な社会課題について議論する国際会議。2012年2月23日～25日に、ケゾン市ならびに周辺の芸術施設で実施
61	KAPWA(先住民会議)3:教育における地域固有の知恵の活用―「近代知」と土着の「民間知」をつなぐ	フィリピン	フィリピン芸術と遺産学会	2011.10.01 ~ 2012.03.31	環境破壊、貧困、自然災害などの全人类的課題を前に、アジアで受け継がれてきた伝統知や民間知を再評価し、新しい時代の共存のあり方を探る。国内外の伝統文化継承者間のネットワークの構築や強化、伝統文化の継承を目的としたシンポジウムやワークショップ、一般への啓発を目的とした映画上映や展示事業を含む複合的事業
62	災害からの回復力、社会的包摂と持続可能性：日本、インドネシア、フィリピンの大地震に学ぶ	フィリピン インドネシア	シカイ・キロス開発協会	2012.02.23 ~ 2012.02.24	日本、インドネシア、フィリピンから減災や災害危機管理の関係者約100名が一堂に会し、3カ国における災害状況の情報交換、災害への備えや復興への取り組みに関する経験の共有、災害という視点から開発事業が直面する諸課題について議論。フィリピン大学にて実施
63	東南アジアにおける教育技術の社会価値：カンボジア、日本、ラオス、ベトナムとの知的交流会議	ベトナム	東南アジア教育大臣機構地域訓練センター	2011.05.01 ~ 2011.11.30	2011年10月26日～10月28日、ホーチミンにて開催される国際会議。日本、カンボジア、ラオス、ベトナムの4カ国の専門家が一堂に会し、K-12(幼稚園から高校卒業までの教育期間)における教育技術の採用に対する社会的な規制や課題について討論。「教育テクノロジー」を率先して採用している日本の知見を発信し、それらがいかに東南アジア諸国の教育システムに融合し得るのか、その課題とプロセスを探り、共有し合う
64	「フィールドワークの知と人間科学」国際ワークショップ	ベトナム	ベトナム社会科学院北東アジア研究所日本研究センター	2011.05.01 ~ 2011.12.30	伊藤哲司(筑波大学教授)を講師として招へいし、人間科学の概念やフィールドワークを通じた研究方法論等を集中的に紹介する10日間のワークショップ。日本研究も含めて、参加者の人間科学への理解、研究レベルの底上げを図る。2011年9月6日～17日に実施
65	第25回アジア太平洋ラウンドテーブル	マレーシア	マレーシア戦略国際問題研究所(ISIS)	2011.04.01 ~ 2011.09.01	アジア太平洋地域における安全協力の強化をテーマに、経済危機や人間のwell-beingに開発が果たす役割などに焦点をあてて議論を実施
66	第26回アジア太平洋ラウンドテーブル	マレーシア	マレーシア戦略国際問題研究所(ISIS)	2011.04.01 ~ 2012.03.31	アジア太平洋地域における安全協力の強化をテーマに、経済危機や人間のwell-beingに開発が果たす役割などに焦点をあてて議論を実施

アジア・大洋州交流事業費

	事業名	対象国・地域	助成対象機関	期間	事業内容
67	アジア共生学会国際シンポジウム	インド スリランカ	アジア共生学会	2011.04.01 ~ 2011.11.30	インド、スリランカより、パネリストを招へいし、日本、韓国、インド、スリランカの事例をもとに、他民族共生社会の形成に関するシンポジウムを開催
68	山岳地帯におけるグローバリゼーションと文化について	インド	シッキム大学	2011.04.01 ~ 2012.03.31	ヒマラヤに焦点を当て、中国、バングラデシュ、ネパール、ミャンマー、ブータン及び日本から専門家を招へいし、グローバリゼーションが山岳地帯の伝統文化に与える影響や、共存の可能性について議論する国際会議。2011年10月12日～14日にシッキム大学にて実施
69	野口米次郎、石川啄木、ラビンドラナート・タゴール、S・V・アッゲー：日印交流における先駆者たちの知られざる世界	インド	インド日本文学文化協会	2011.04.01 ~ 2012.03.31	インドが誇る詩聖ラビンドラナート・タゴールの生誕150周年、100周年祝賀にちなんで、日本の詩人等との知的交流の足跡をたどり、両国の文学交流の可能性を探る会議を実施
70	2011国際啄木学会盛岡大会	インド	国際啄木学会	2011.11.03 ~ 2011.11.08	被災地である岩手県で、石川啄木の言葉「新しき明日」にならい、講演やパネルディスカッションを通じて震災復興を支援する事業
71	21世紀の南アジアにおける平和と安全の展望：日本の役割	バングラデシュ	バングラデシュ国際戦略研究所(BIISS)	2011.04.01 ~ 2012.03.31	南アジアの安全保障を担う機関の発展に関し、議論を実施
72	東洋演劇研究に向けて	バングラデシュ	ジャハンギルナガル大学	2011.07.01 ~ 2012.03.31	バングラデシュ、インド、日本の伝統舞台芸術ワークショップ、シンポジウムにおける基調講演、舞台伝統に関するビデオ放映、東洋演劇研究に関する討論、バングラデシュ伝統舞台芸術公演を実施
73	第10回国際家族看護学会における、アジア各国の家族看護専門家の招へい及びセッションの開催	アジア地域区分困難	日本家族看護学会	2011.04.01 ~ 2011.06.30	世界各国から家族看護実践者、教育者、研究者が集まり、各国における家族看護の経験や課題を共有する国際会議「家族看護の可視化」を実施する。アジアからはタイ、中国、韓国、香港、インドシナ諸国から6名が参加し、2011年6月24日～27日に京都国際会議場にて実施
74	アジア子どもの権利フォーラム2011	アジア地域区分困難	特定非営利活動法人子どもの権利条約総合研究所	2011.04.01 ~ 2012.03.31	アジア全ての国が批准・加入している国連子どもの権利条約を共通の理念及びツールとして、子供の貧困対策や暴力防止、あるいは参加促進等今日的な課題に対応するため、アジア各国の研究者・専門家の参加のもと、「アジア子どもの権利フォーラム2011」を開催。2011年11月20日～21日に東京で実施
75	日本の経済と科学技術の将来	オーストラリア	モナシュ大学	2011.04.01 ~ 2011.05.31	日本の経済と科学技術の現状と課題について、日本、中国、マレーシア、インドネシアより研究者を招へいするとともに、オーストラリアの研究者、ビジネス関係者を交えたセミナーを開催。日本からは、高橋豊治(中央大学教授)、永野博(総合政策大学院大学教授)を招へい

アジア・大洋州交流事業費

	事業名	対象国・地域	助成対象機関	期間	事業内容
76	敗戦前後：占領国/被占領国としての日本1945年を超えて	オーストラリア	ウーロンゴン大学	2011.04.01 ~ 2012.03.31	1945年で戦前・戦後に区分されがちな歴史を見直し、占領者としての日本と非占領者としての日本を一体的に捉え直すことを試みる研究会議。発表者等は日豪の研究者を中心に17名程度、ワークショップ形式で実施。成果はRoutledgeから出版
77	日豪対話とワークショップ：日豪関係における相互理解のために	オーストラリア	グリフィス大学	2011.06.01 ~ 2012.10.31	日豪関係の将来や共通の課題について、学者、政治家、官僚等が集まって討議を行うレクチャーとワークショップ。各国より20~25名の専門家が参加
78	第28回豪・NZ建築史協会年次総会	オーストラリア	クイーンズランド大学	2011.07.06 ~ 2011.07.09	クイーンズランド大学が主催する「第28回豪・NZ建築史協会年次総会」において、戦後日本の建築文化をテーマとして日本からゲストスピーカー2名を招へいして、基調講演及びパブリックレクチャーを開催
79	女性たちの戦い：雑誌『女人芸術』(1928~1932)	オーストラリア	シドニー大学	2011.07.08	昭和初期に刊行された『青鞥』の流れを汲む雑誌『女人芸術』の果たした役割につき検証するプロジェクト。豪州日本研究学会(JSAA)でのパネル開催、シンポジウム、及び展覧会を実施。成果は英国の学術ジャーナル『Japan Forum』に掲載
80	東南アジアにおけるオーストラリアと日本の戦争とその和解	オーストラリア	シドニー大学	2011.09.30	第2次大戦期の東南アジア地域における日本とオーストラリアの戦争と、戦後占領期、その後の和解をテーマに、一次資料と文学作品の収集・分析を通じて、戦争当事者の「個人的経験」の視点から、戦争が与える心の傷と戦後の和解・平和構築の可能性について分析する事業。3カ年計画プロジェクトの1年目
81	太平洋地域における平和構築のモデルとしての民族文化産業の育成—日本・バヌアツ外交関係30周年を記念して	オーストラリア	サザンクロス大学	2011.11.04 ~ 2011.11.12	人類学的な観点からの文化保存と、経済的な観点からの産業の育成の両立をどう実現していくかを検討するプロジェクト。特にバヌアツの音楽を取り上げ、日本、豪州、フランス、ニュージーランドの専門家によるシンポジウムを開催
82	日本の歴史ワークショップ2011	オーストラリア	マードック大学	2011.11.30 ~ 2011.12.02	13大学から26名の歴史研究者が参加して、日本史に関する3日間のワークショップを開催。豪州、ニュージーランド、香港、シンガポールの研究者に加えて、米、英、日本からゲストスピーカーを招へいし、研究発表を行うと共に、研究者間のネットワーク化を図る。博士課程の大学院生の研究発表も実施
83	日本の躍動期：1960年代の文化芸術に関する国際会議	オーストラリア	メルボルン大学	2012.01.25 ~ 2012.01.28	1960年代を学際的に見直し、現代の「クールジャパン」につながる日本文化の革新的な側面の基礎を築いた時代として考察する国際会議。日豪米独から7名の研究者を招へいして会議を行うと共に、研究者が講師となって大学院生を対象としたゼミを実施
84	災害防止及び災害管理に関する日本法社会規範：アジア・大洋州と学際的な観点から	オーストラリア	シドニー大学法学部	2012.03.01 ~ 2012.03.02	2011年3月に発生した大地震・津波(自然災害)と原発事故(人口災害)に焦点を当て、防災と災害マネジメントについて、社会、経済、及び政治的な文脈を踏まえた上で、法社会規範の観点から検証を行うプロジェクト。2日間の国際会議でアジア・大洋州地域及び米国から様々な分野の専門家を招へい
85	辛亥革命百周年記念日本会議	全世界区分困難	辛亥革命百周年記念日本会議組織委員会	2011.04.01 ~ 2012.03.31	辛亥革命百周年にあたり、これまでの日本における辛亥革命及び関連研究の蓄積や動向を回顧しつつ、あらためて同革命の歴史的な位置づけや日本への影響を、内外の研究者を広く招へいして検討する会議を開催

アジア・大洋州交流事業費

	事業名	対象国・地域	助成対象機関	期間	事業内容
86	辛亥革命100周年記念国際シンポジウムーアジア主義・近代ナショナリズム	全世界区分困難	特定非営利活動法人日中学術交流センター	2011.04.01 ~ 2012.03.31	辛亥革命百周年を記念して、中国、台湾、アメリカ、フランスから研究者を招へいし、シンポジウムを開催

アジア・大洋州交流事業費

3. 催し等事業費 / (2) 知的交流会議(企画参画助成) [アジア・大洋州]

日本と諸外国の相互理解の促進とより緊密な関係の構築、世界の知的交流の推進を目的とした、国際的な知的共同事業（国際会議等）に対し、経費の一部を助成する。

合計額 37,768,533 円

	事業名	対象国	助成対象機関	期間	事業内容
1	東アジアの平和・ガバナンス・発展についてのEAIフェローシッププログラム(2011～2012)	韓国	東アジア研究院	2011.12.01 ～ 2012.03.31	フェローシップ型知的交流事業。米国をはじめとする非東アジア諸国の研究機関に所属する専門家5名に対しフェローシップを供与。対象者は東京、ソウル、北京、上海、台北の5都市のうち2都市以上に3週間以上滞在して研究を進めるとともに、受入機関において講演会やワークショップ等を実施。最終的な成果として論文を提出し、審査を受けて公刊
2	国際共同研究：アジア地域における「人間の安全保障」への新しいアプローチ	中国 オーストラリア	オーストラリア国立大学	2011.04.01 ～ 2012.03.31	アジア・大洋州地域において、「人間の安全保障」政策に対する「狭義」及び「広義」のアプローチがいかに調整され、地域的な特性をもって実施されているかを検討する国際共同研究・会議の3年目。ワークショップ形式で、豪州、日本、中国、韓国、英国、フィリピンから計19名が出席。9月20日～21日、上海の復旦大学にて実施
3	第7回 北京－東京フォーラム	中国	言論NPO	2011.04.01 ～ 2012.03.31	アジアや日中の共通課題の解決に向けて、両国の有識者や国民が広く共に考え、政府関係の悪化に左右されない本音で真剣に議論ができる民間対話の場を実現することを目指す継続対話事業。今回は、尖閣諸島問題を契機に高まっている両国の対立関係、人口減少や高齢化、外交・安全保障等について議論。2011年8月下旬に北京で実施
4	東日本震災後の日本政治・外交の行方と中日関係	中国	中央党校国際戦略研究所	2011.09.01 ～ 2012.02.29	日中の研究者・知識人を北京に招へいし、「東日本大震災後の日本政治・外交の行方と中日関係」をテーマに討論。成果は機関誌『学習時報』や新華社通信ニュース(インターネット)などで公表
5	国際円卓会議シリーズ「東日本大震災とその後」	中国	日中社会学会	2011.09.01 ～ 2012.03.31	日中社会学会と北京日本学研究中心が共催する一般公開型の円卓会議。阪神大震災(1995年)、四川大地震(2008年)、東日本大震災(2011年)における災害・復興・防災の日中比較、両国社会のさまざまな担い手に着目しながら、特に社会関係資本(信頼・規範・ネットワーク)の役割や、国際化社会での危機管理について新たな知見を提供
6	第8回東京－北京フォーラム事前協議	中国	言論NPO	2012.03.01 ～ 2012.03.31	平成24年度に日中国交正常化40周年を記念して開催する「第8回東京－北京フォーラム」にて、両国民の真の相互理解に支えられた日中関係を築くための対話実現に向け、「東京コンセンサス」を発表するにあたり、提言の発信に向けた事前協議のため、北京にて準備会議を実施
7	リークアンユール公共政策大学院院生訪日研修	シンガポール	シンガポール国立大学リークアンユール公共政策大学院	2011.04.01 ～ 2012.03.31	シンガポールのみならず、アジア各地から次世代を担う学生や実務家が集まるリークアンユール公共政策大学院在学生の内、国際関係論等を専攻する15名程度を10日間程度招へいし、対日理解を喚起・促進するとともに、日本の院生・若手研究者など次世代の知的リーダーとのネットワークを形成
8	第3回イスラム女性指導者会議	フィリピン	フィリピン民主化のためのフィリピン評議会	2011.11.01 ～ 2012.01.31	ミンダナオの平和と復興を目指し、アジアを中心とする国内外のイスラム女性知識人のネットワーク形成と平和活動に向けた能力開発のための国際会議を実施。2011年12月5日～8日に、ダバオで実施



アジア・大洋州交流事業費

	事業名	対象国	助成対象機関	期間	事業内容
9	現代における中国人の移住：東南アジアと日本のケース	フィリピン	東南アジア研究地域交流プログラム	2011. 11. 01 ～ 2012. 10. 31	今後の東南アジアの経済発展及び人の移住の観点から、マレーシア、ベトナム、日本における華僑に関する事例研究を実施するとともに、シンガポール、フィリピン、ミャンマー、ラオス、韓国についても文献研究を実施
10	タゴール生誕150周年記念事業	インド	タゴール生誕150周年記念会	2011. 04. 01 ～ 2012. 03. 31	タゴール生誕150周年にあたり、タゴールの設立した学園都市「ジャンティニケタン」より有識者を招へいし、タゴールが文化・芸術活動を通じて主張してきた「自然との共生」「東西の融合」「平和」等の精神哲学について振り返るとともに、タゴールの現代的意義—精神文化と現代の物質主義—について再考する国際会議
11	アジアの文化的創造的産業：共同調査プロジェクト、交流プログラム	インド	文化社会研究センター	2011. 04. 01 ～ 2012. 03. 31	アジアの文化産業について、日本、韓国、台湾の共催者ととともに、文化創造的産業が経済にもたらす効果に関して協同研究をするとともに、インターアジア文化学会(ダッカ)における発表、学生及び教員の交換留学、インターネット上における博士課程講義の実施などを総合的に行う事業
12	地球の環境変化に関するオープン・サイエンス国際会議	インド	マドラス大学応用地質学部	2011. 04. 01 ～ 2012. 03. 31	世界的に関心の高い地球環境変化に着目し、インド内外から分野横断的に200名近い科学者、学術研究者、政府関係者、市民団体等が参加する国際会議。今回は3月の東日本大震災に関する特別セッションが設けられる。日本からは京都大学、神戸大学、東京工芸大学等から専門家や学生が参加し、東北の経験や復興の取り組みを共有
13	パキスタン部族地域安定のための政策提言研究	パキスタン	NPO法人現代イスラム研究センター 部族地域研究センター(FATA Resresearch Center)	2011. 04. 01 ～ 2012. 03. 31	過激派の活動を生んできた部族地域が抱える社会・経済的な構造問題、あるいは社会・経済的矛盾の改善のために日本など国際社会ができる貢献等について、パキスタン・イスラマバードにある部族地域研究センター(FATA Research Center)とNPO法人現代イスラム研究センターが共同研究を行い、日本、パキスタン政府、国際社会に向けて政策提言を実施
14	ABU(アジア太平洋放送連合)メディア関係者による津波ワークショップ	大洋州地域区分困難	NHKインターナショナル	2011. 08. 20 ～ 2011. 08. 21	2009年の南太平洋津波の被災国であるトンガ王国と協力し、今回の東日本大震災で甚大な被害をもたらした大津波災害の体験と復興の過程をアジア・大洋州諸国と共有し、災害時の緊急報道や防災活動に果たすメディアの役割について議論するワークショップを、8月20日～21日、パプアニューギニアにて実施

アジア・大洋州交流事業費

3. 催し等事業費 / (3) 知的交流会議(主催) [アジア・大洋州]

日本と諸外国の相互理解の促進とより緊密な関係の構築、世界の知的交流の推進を目的とした、国際的な知的共同事業（国際会議、セミナー、ワークショップ等）を開催する。

合計額 41,458,338 円

	事業名	対象国	共催・協力機関	期間	事業内容
1	日韓多文化共生セミナー	韓国	韓国多文化共生学会	2011.04.01 ~ 2011.08.31	日本や韓国では、外国人住民の多い自治体を中心に、国籍や民族等の異なる住民が共に生きていく地域づくりを進めるために「多民族共生」や「多文化社会」という観点から様々な政策が進められているが、欧州では、新しい都市政策として「インターカルチュラル・シティ」の考え方が注目されている。本セミナーは、特に地域住民の多文化理解、住民と外国人との間の異文化交流への努力をどのように維持していくのかについて、欧州の「インターカルチュラル・シティ」に基づく取組みを参考に、日本や韓国の都市のあるべき姿を探ることを目的としたもの。当初2011年3月に実施予定であったが、東日本大震災の発生により延期。内容を一部拡大した上、平成23年度に「日韓欧多文化共生都市セミナー」として2011年8月19日にソウルにて開催
2	日中韓文化交流フォーラム	韓国 中国	韓日文化交流会議 中日友好協会	2011.09.20 ~ 2011.09.23	東北アジア地域における民間主導の文化交流を積極的に支援・展開し、同地域の共同繁栄と発展に寄与することを目的に、2005年から毎年日中韓3カ国持ち回りで開催されているフォーラム。第7回となる2011年は、韓国の慶州において「災害と文化」等をテーマにフォーラム開催を行い、関連文化イベントとして3カ国の若手芸術家が参加する公演も実施
3	日中韓次世代リーダーフォーラム 10周年記念フォーラム	韓国 中国	韓国国際交流財団 中華全国青年連合会	2012.03.27 ~ 2012.03.29	毎年、日中韓3カ国の次世代リーダーとして選ばれた各国6名(政治家・官僚・財界人・学者・メディア・NPO)が集まり、10日間で3カ国を回りつつ勉強・討論・意見交換などを通じて相互理解とネットワークを築くプログラム。 本年は本事業の10周年を記念し、3カ国の過去8回の参加者により、今後の日中韓関係を議論するフォーラムを実施
4	日中知的交流強化事業(個人招へい)	中国	東京大学 他	2011.04.01 ~ 2012.03.31	日本に滞在した経験の少ない中国の若手・中堅の知識人及び研究者を日本に招へいし、日本社会・文化などに触れる機会を提供することで、日本についての理解を促進する。また、日本人研究者、専門家等との交流・対話などを通じて個人的な関係を築くことにより、将来的な日中間の知的ネットワークの構築を目指す
5	日中知的交流強化事業(グループ招へい)	中国		2011.04.01 ~ 2012.03.31	これまで日本と接点がなかったが、対日理解・関心を促すことに長期的な効果が期待される知識人を中国から招へいし、同分野の日本人研究者・専門機関とのネットワーク形成をはかることで、日本に関する正確な情報の発信、持続的な知的ネットワーク構築及び知的交流の進展への貢献を目指す
6	震災復興に関するセミナー	インドネシア	ルジャック都市研究センター	2012.02.01 ~ 2012.02.04	日本より専門家1名を派遣し、ジャカルタにて震災復興に関するセミナーを実施

アジア・大洋州交流事業費

	事業名	対象国	共催・協力機関	期間	事業内容
7	東南アジア文化と紛争シンポジウム	インドネシア  カンボジア  シンガポール  タイ  フィリピン  ベトナム  マレーシア  ミャンマー  ラオス  ドイツ	ゲーテ・インスティトゥート・バンコク  バンコク芸術文化センター(BACC)	2011.07.17 ~ 2011.07.20	2011年7月18日及び19日にかけて、「文化イニシアティブを通じた紛争の考察：東南アジアの視点から(Reflecting Conflicts through Cultural Initiatives: Perspectives from Southeast Asia)」と題した国際シンポジウムを開催
8	東南アジア若手イスラム知識人グループ招へい	インドネシア  シンガポール  タイ  フィリピン  マレーシア		2011.11.24 ~ 2011.12.03	東南アジア諸国の若手イスラム知識人を日本に招へいし、日本が歩んだ近代化の過程を紹介しながら意見交換を行い、ネットワーク構築をはかる事業
9	地震ITSUMO	タイ		2011.04.01 ~ 2012.03.31	阪神淡路大震災の経験や教訓を元に展開されてきた日本の防災への創造的な取組みのひとつである「地震ITSUMO」プロジェクトをタイ・バンコクにおいて紹介
10	震災復興に関するセミナー(ベトナム)	ベトナム	ホーチミン市人文社会科学大学	2012.03.08 ~ 2012.03.13	日本より専門家を2名派遣し、ハノイ、ホーチミンにて震災復興セミナーを実施
11	震災復興に関するセミナー(マレーシア)	マレーシア	Malaysian Association of Japanese Studies (MAJAS)  マラヤ大学  Universiti Sains Malaysia	2012.03.12 ~ 2012.03.15	日本より専門家1名を派遣し、クアラルンプール、ペナンにて巡回型の震災復興セミナーを実施

アジア・大洋州交流事業費

	事業名	対象国	共催・協力機関	期間	事業内容
12	日印文明対話	インド	国際文化会館	2011. 11. 01 ~ 2012. 03. 31	日印平和条約の締結から60周年を迎える平成24年を好機ととらえ、日印の知的交流の強化および再構築をめざし、従来、交流や対話の場が限られてきた両国の有識者を対象とした交流事業を、23年度から複数年計画で実施し、継続的な対話の場を創出。平成23年12月5日・6日に日印の専門家による企画会議及び公開シンポジウムを東京で実施
13	震災復興に関するセミナー	インド	ジャワハルラル・ネルー大学	2012. 03. 14 ~ 2012. 03. 18	日本より専門家1名を派遣し、インド・ネルー大学の「キズナ強化プロジェクト」の一環として震災復興に関するセミナーを実施
14	スリランカ文化と平和構築事業	スリランカ		2011. 04. 01 ~ 2012. 03. 31	「文化と平和構築事業」の一環として、LTTE(タミル)の壊滅、政府軍(シンハラ)による勝利宣言により内戦が終結したスリランカにおいて、両派の和解と信頼醸成のための事業を実施。日本への招へいという文化交流を媒介としてシンハラ・タミル両者の対話チャンネルを形成することを目的に、第3国である日本に芸術家・知識人などを招へい
15	東日本大震災に関する映像作成	全世界区分困難		2012. 01. 01 ~ 2012. 03. 31	東日本大震災に関する良質なドキュメンタリーやニュース映像を素材とした映像資料(DVD)を制作し、海外の日本研究機関等に寄贈。教材等として活用してもらうことで、日本と諸外国の相互理解の更なる促進につなげる

アジア・大洋州交流事業費

3. 催し等事業費 / (4) 人材育成グラント [アジア・大洋州]

日本と海外の市民青少年の相互理解を促進するため、日本の団体が実施または参加する事業に対し、旅費の一部を助成する。

合計額 14,268,350 円

	事業名	対象国	助成対象機関	期間	事業内容
1	城下町金沢における国際建築都市デザインワークショップ	韓国 中国 ベトナム イタリア フランス	城下町金沢国際ワークショップ実行委員会	2011.06.08 ~ 2011.06.18	本事業は、歴史的建造物が点在して残りつつ、文化的資源が活用されていない地域(金沢市・下新町周辺)を対象にし、城下町としての都市文化を持つ金沢の国際的な位置づけを明確にするワークショップを行う。参加校はイタリア、ベトナム、中国、韓国、フランス、日本。各校から教員と学生が金沢を訪れ、地元金沢周辺の大学の学生と共同で都市文化の価値を理解・分析し、空間提案と多様な主体が議論する場づくりの仕組みの提案を実施
2	LEAFフォーラム2011韓国セッション	韓国 中国	LEAF日本実行委員会	2011.07.31 ~ 2011.08.07	日本、中国、韓国の大学・大学院から選抜された参加者が、韓国における7日間の共同生活とフィールドワークを通じてリーダーシップを学び、将来にわたる絆を深化させるとともに、東アジア地域の課題に対する解決策を提示
3	2011年アジア法学生協会フォーラム	韓国 中国 インドネシア シンガポール タイ フィリピン ブルネイ マレーシア バングラデシュ	アジア法学生協会 ジャパン	2011.08.04 ~ 2011.08.10	アジアの更なる地域的協調と発展の促進という共通の目的意識を持ち、アジア法学生協会全加盟国・地域の学生が一堂に会し、政治や国家の枠組みにとらわれないという学生の強みを生かした学術・文化交流、全体総会などを行う。この事業を通じて参加者はアジアの多様性に触れ、議論を通じ繊細な事情をはらんだアジアの諸問題解決への道を探るとともに、国境を越えた交友関係を結び、今後、世界で活躍する上で必要な素養を実践的に学習
4	日韓友好交流ボランティアワークキャンプ	韓国	特定非営利活動法人グッド	2011.08.18 ~ 2011.08.30	韓国・江原道原州市の農村にて、日本人と韓国人の若者が協力して農作業などの村の仕事の補助作業を体験。更に、韓国の伝統音楽プンムルを地域住民から教わるなどの文化体験プログラムも行うキャンプ。村での共同生活、共同作業を通じて日韓の若者の成長と相互理解を目指すと共に、日韓の若者と地域の人々との交流を図る事業

アジア・大洋州交流事業費

	事業名	対象国	助成対象機関	期間	事業内容
5	アジア獣医学生交流プログラム	韓国 インドネシア シンガポール タイ マレーシア	日本獣医学生協会	2011.08.22 ~ 2011.08.26	アジア地域の獣医学生が交流を通じて相互理解と広い知見の獲得を目的とするプログラム。文化交流や震災に関するワークショップなども取り入れ、国際ネットワーク形成に向けて連携を深化
6	第2回日中韓ユース・フォーラム	韓国 中国	財団法人日本国際連合協会	2011.09.15 ~ 2011.09.21	日中韓のユースで模擬国連会議を実施。また、文化施設訪問を通じた国際交流や意見交換の実施などにより、相互理解に努める。昨年日本で開催された第1回に引き続き、本年は中国において開催
7	日中相互訪問プロジェクト2011—現地語でつなぐ絆—	中国	日中交流学生団体 京英会 東京	2011.08.08 ~ 2011.08.22	東京外国語大学の中国語科と北京外国語大学の日本語科の学生達が相互に訪問し、各国に一週間ずつ共同生活をしながら地方見学、ディスカッション、語劇発表などを実施。また、互いの夢を語り合うなど幅広い交流を目指す相互訪問プロジェクト
8	スタディトリップ2011インジャパン	中国	アジア法学生協会 ジャパン	2011.08.30 ~ 2011.09.05	日中の学生が参加して、政治や国の枠組みに捉われない学生の強みを活かした学術・文化交流を行い、日中間の諸問題解決への道を探るとともに、強い友好関係を構築
9	京論壇2011	中国	京論壇東京大学実行委員会	2011.09.16 ~ 2011.10.09	東京大学、北京大学の学部生・院生による討論・交流プログラム。2週間寝食を共にしながら日中間における課題を話し合い、相互理解及び信頼醸成を目指すとともに、報告会等を通じて社会に発信
10	壁を越える：万里の長城での日中大学院生対話	中国	「壁を越える」：日中大学院生対話実行委員会	2011.10.08 ~ 2011.10.11	政治問題の域を越え、日中の「壁を越える」とはいかなることかを、東京大学及び清華大学の大学院生が、万里の長城に隣接する清華大施設に合宿して、文化、歴史、コミュニケーション等あらゆる側面から集中討議。両国の未来を担う次世代からのメッセージとして発信
11	地球家族のきずなを求めて—異文化・社会を考える日・モ学生対話集会	モンゴル	いっくら国際文化交流会	2011.04.01 ~ 2012.03.31	日モ国交樹立40周年と「いっくら国際文化交流会」の創立30周年を記念し、モンゴル人文大学日本語学科の学生や、同交流会が実施したモンゴル研修事業の関係者を招へい。日本の大学生を交え、異文化理解、日本社会理解、日本の環境問題への取り組みなどを通じて各種対話事業を宇都宮と東京で実施
12	日本とモンゴルの親善の会	モンゴル	日本モンゴル親善協会	2011.08.20 ~ 2011.08.29	日本、モンゴル両国の青少年の交流を通じ、両国間における次世代の絆の構築を図る事業。モンゴルの中学生から日本に贈られた絵画(東日本大震災からの復興を応援する内容)の展示も併せて実施
13	地球家族のきずなを求めて—日・蒙学生対話集会	モンゴル	いっくら国際文化交流会	2011.09.21 ~ 2011.09.28	モンゴルにおいて日本の学生のインターンシップを実施するとともに、日本、モンゴル両国の学生が相互の文化などについて議論する対話集会を通じ、相互交流・理解の深化を図る。対話集会では、参加学生が各自の専門を活かし、自然災害やエネルギー政策といった多様なテーマについてディスカッションを実施
14	日本タイ青少年空手道交流相互理解促進事業	タイ	特定非営利活動法人 一橋空手道一空会	2011.04.15 ~ 2011.09.15	日本、タイ両国の青少年が相互訪問し、日本の伝統的武道たる空手道の共同練習を通じ、心技体にわたる人格形成と礼節を重んじる精神の涵養を図ると共に、両国産業経済文化への理解と異文化交流をテーマとするワークショップ開催や語学学習指導を行う。両国の立場を踏まえ、相互理解を深耕できる国際的な知的交流の担い手を育成

アジア・大洋州交流事業費

	事業名	対象国	助成対象機関	期間	事業内容
15	第5回日本ベトナム学生会議	ベトナム	日本ベトナム学生会議	2010. 11. 01 ~ 2011. 11. 01	日本、ベトナム両国の学生間で、両国に関わる様々なテーマを元に意見交換を行い、文化的な背景を含め、互いの類似点や相違点等について理解を深めるとともに、両国の文化を紹介する「文化交流会」を実施
16	アイセック アジア太平洋地域国際会議	アジア地域区分困難	特定非営利活動法人アイセック・ジャパン	2012. 03. 15 ~ 2012. 03. 22	アジア各国の学生200名を日本に集め、日本人の一般学生等と共同で、日本の復興に向けて、またアジアの連携について議論する企画を実施
17	国際森林学生連盟 第二回アジア地域会議	全世界区分困難	IFSA(国際森林学生連盟)京都大学委員会	2011. 05. 16 ~ 2011. 05. 21	国際森林学生連盟(IFSA)の加盟団体間の交流及び知識の向上を目的とした会議を開催。IFSAは、世界約50カ国の森林科学専攻の学生が、世界の森林や環境問題に関する知識の向上と国際的な視野を広げることを目的とする非営利団体である。主な対象は地理・自然環境や文化の近いアジア地域の学生
18	2011年希望と平和日本語サミット	全世界区分困難	特定非営利活動法人ジャパン・リターン・プログラム	2011. 06. 29 ~ 2011. 08. 02	日本と各国の架け橋となりうる、日本語での発信力の優れた青年を日本に招へいし、日本語サミットを開催。期間中には東京、大阪、広島、宮崎を訪問し、日本の学生とのディスカッション、ホームステイ、伝統文化体験等を通じて、国際融和、平和共存について深い考察をはかり、世界にメッセージを発信

# 日本研究・知的交流事業に必要な経費

## 欧州・中東・アフリカ交流事業費

### 1. 日本研究事業費

- (1) 日本研究ネットワーク強化（主催）〔欧州・中東・アフリカ〕
- (2) 日本研究ネットワーク強化（助成）〔欧州・中東・アフリカ〕
- (3) 日本研究機関支援〔欧州・中東・アフリカ〕

### 2. 人物交流事業費

- (1) 日本研究フェローシップ（学者・研究者 長期）〔欧州・中東・アフリカ〕
- (2) 日本研究フェローシップ（論文執筆）〔欧州・中東・アフリカ〕
- (3) 日本研究フェローシップ（学者・研究者 短期）〔欧州・中東・アフリカ〕
- (4) 知的リーダー交流（招へい）〔欧州・中東・アフリカ〕

### 3. 催し等事業費

- (1) 知的交流会議（主催）〔欧州・中東・アフリカ〕
- (2) 知的交流会議（助成）〔欧州・中東・アフリカ〕
- (3) 人材育成グラント〔欧州・中東・アフリカ〕



欧州・中東・アフリカ交流事業費

1. 日本研究事業費 / (1) 日本研究ネットワーク強化(主催)[欧州・中東・アフリカ]

学問分野を越えた日本研究者・研究機関相互の連携と協力を推し進め、各国・地域における中核的な知日層とわが国の長期的な関係を維持発展させるため、海外の日本関連学会や元日本人留学生の組織化・活動を支援する。

合計額 73,311 円

	事業名	対象国	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
1	ヨーロッパ日本研究協会(EAJS)総会 基金セッション	欧州地域区分困難	タリン(エストニア)	タリン大学	ヨーロッパ日本研究学会(EAJS)	2011.08.24 ~ 2011.08.27	3年に一度開催されるヨーロッパ日本研究者協会(EAJS)の定期総会に合わせ、国際交流基金の主催で非公式の討論セッションを開催。東日本大震災後の地域研究としての日本研究のあり方をさぐる

欧州・中東・アフリカ交流事業費

1. 日本研究事業費 / (2) 日本研究ネットワーク強化(助成) [欧州・中東・アフリカ]

国境・学問分野を越えた日本研究者・研究機関間の連携、相互協力を推し進めるべく、学会の横断的な組織化を支援する。

合計額 22,933,164 円

	助成対象機関	対象国	期間	事業内容
1	伊日研究学会	イタリア	2011.04.01 ~ 2011.12.31	1973年に設立されたイタリアで唯一の全国横断的な日本学会である伊日研究学会がボローニャにて開催する年次総会を支援
2	英国日本研究協会	英国	2011.04.01 ~ 2011.11.30	オックスフォード大学にて開催される英国日本研究協会年次総会の開催を支援
3	NIAS Linc	デンマーク	2011.09.01 ~ 2011.11.30	ニアスリンク(NIAS Linc: 北欧5カ国の大学・研究機関連合の図書館部門)の日本関連データベース購入を支援
4	日本資料専門家欧州協会	ベルギー	2011.04.01 ~ 2012.03.31	日本関連資料に携わる司書・学芸員・研究者のネットワーク化を図るための第22回日本資料専門家欧州協会集会を支援
5	ロシア日本研究者協会	ロシア	2011.04.01 ~ 2012.03.31	論文コンクールの実施や高齢化社会をテーマとした国際会議の開催、WEBジャーナル等の出版、運営費用の一部を支援
6	ヨーロッパ日本研究協会(EAJS)	欧州地域区分困難	2011.04.01 ~ 2012.03.31	欧州随一の日本研究協会の事務局運営、2011年タリン総会開催、第7回PhDワークショップ開催、及びウェブサイト運営を支援
7	ヘブライ大学	イスラエル	2011.04.01 ~ 2011.08.31	第10回アジア研究年次学会の開催を支援。同地における人文・社会科学系学会では最大の学会で、イスラエルのみならず海外からの参加者(日本人含む)も招へいし、24のパネル(分科会)と総会を実施

欧州・中東・アフリカ交流事業費

1. 日本研究事業費 / (3) 日本研究機関支援〔欧州・中東・アフリカ〕

各国において日本研究の中核的役割を担うべき単一・少数の機関に対し、日本研究事業の拡充・発展に必要な様々な支援を、包括的、集中的且つ中長期的に行い、該当国の日本研究基盤となる拠点機関の整備を進める。

合計額 50,441,239 円

	対象機関	対象国	期間	事業内容
1	国立アイスランド大学	アイスランド	2011.04.01 ~ 2012.03.31	日本研究関連書籍の寄贈、及び日本関連の集中講義を担当する客員教授の派遣経費助成
2	ヴェネチア大学	イタリア	2011.04.01 ~ 2012.03.31	「日本語」「日本文学」のコースを受け持つ教員の雇用助成、現代日本における文学批評に関する客員教授派遣(経費助成)、国際会議「『現代日本』一過渡期における世界経済大国の挑戦」への経費助成、及び日本関連図書寄贈
3	ミラノ国立大学	イタリア	2011.04.01 ~ 2012.03.31	「日本語」「日本文学」のコースを受け持つ教員の雇用助成
4	イーストアングリア大学	英国	2011.04.01 ~ 2012.03.31	「日本の文化遺産入門」「日本の文化遺産活用方法」担当教員の雇用経費助成
5	エジンバラ大学	英国	2011.04.01 ~ 2012.03.31	「現代日本社会」「日本語」担当教員の雇用経費助成
6	ニューカッスル大学	英国	2011.04.01 ~ 2012.03.31	「言語・言語習得学(日本語)」「映画学」講義担当の教員雇用経費助成
7	ロンドン大学東洋アフリカ研究学院	英国	2011.04.01 ~ 2012.03.31	「日本経済」専任教員の雇用経費助成
8	バジャドリッド大学	スペイン	2011.04.01 ~ 2012.03.31	第10回スペイン日本研究学会の開催を支援。初の国際学会として外国からのスピーカーも招へいし、建築・文学・経済を中心に、文化、映画、観光、交通、エンジニアリングなど分野横断的な構成で実施
9	バルセロナ自治大学	スペイン	2011.04.01 ~ 2012.03.31	「日本語」「日本文学」「日本のポップカルチャー」等の講義を担当する教員の雇用経費助成
10	ハイデルベルク大学	ドイツ	2011.04.01 ~ 2012.03.31	日独及び独日同時通訳実践、逐次通訳実践に関する教員の雇用助成
11	ボン大学	ドイツ	2011.04.01 ~ 2012.03.31	馬場章(東京大学大学院学際情報学府教授)を客員教授として派遣。更に、会議「日本コンテンツ学の基盤整備—トラウツ・コレクションの学術資源化」の開催を助成。図書寄贈、訪日研修の実施も支援
12	オスロ大学	ノルウェー	2011.04.01 ~ 2012.03.31	岩淵功一(早稲田大学国際教養学術院教授)による集中講義「日本のポップカルチャー」「文化・国家・グローバル化」及び国際会議「東西文明論：東西調和をもたらす日本」の実施費用助成
13	国立政治学財団	フランス	2011.04.01 ~ 2012.03.31	日本講座(ジャパン・チェア)への客員教授派遣を支援
14	ルーヴァン・カトリック大学	ベルギー	2011.04.01 ~ 2012.03.31	日本関連図書の寄贈

欧州・中東・アフリカ交流事業費

	対象機関	対象国	期間	事業内容
15	タシケント国立東洋学大学	ウズベキスタン	2011. 04. 01 ~ 2012. 03. 31	沼田善子（筑波大学教授）による、タシケント国立東洋学大学日本語学科における客員教授としての日本語学講義
16	ザグレブ大学	クロアチア	2011. 04. 01 ~ 2012. 03. 31	日本研究関連書籍の寄贈、及び日本関連の講義を担当する教員の雇用経費助成
17	エオトヴェシ・ロラーンド大学	ハンガリー	2011. 04. 01 ~ 2012. 03. 31	「日文学」「日本語読解」「日本語文法」「日本文学」「民族と社会」講義担当教員の雇用経費助成
18	ヴィタウス・マグヌス大学	リトアニア	2011. 04. 01 ~ 2012. 03. 31	国際共同研究プロジェクト「西洋における『日本』の展開に関する比較研究」とその成果出版
19	ブカレスト大学	ルーマニア	2011. 04. 01 ~ 2012. 03. 31	日本研究関連書籍の寄贈、国際会議「日本における自己と他者—その相互イメージ」開催経費の助成、『Topics in Japanese Culture』の出版経費助成
20	極東国立総合大学	ロシア	2011. 04. 01 ~ 2012. 03. 31	環日本海地域間の人的・経済的交流の発展と言語・文化の役割に関する総合研究、「モダリティの意味を表す現代日本語の安定的文法表現」に対する出版助成、「現代日本女性文学と有吉佐和子の作品」をテーマとした訪日研修
21	テヘラン大学外国語・外国文学部	イラン	2011. 04. 01 ~ 2012. 03. 31	近藤正憲（愛媛女子短期大学国際ビジネスコミュニケーションコース常勤講師）を客員教授として派遣したほか、日本関連図書を寄贈
22	テヘラン大学外国語・外国文学部	イラン	2011. 04. 01 ~ 2012. 03. 31	2010年度に派遣した客員教授の携行図書購入経費
23	ダマスカス大学	シリア	2011. 04. 01 ~ 2012. 03. 31	2010年度に客員教授として派遣した松尾 昌樹（宇都宮大学国際学部准教授）の追加関連経費
24	アインシャムス大学	エジプト	2011. 04. 01 ~ 2012. 03. 31	今井雅晴（筑波大学名誉教授）を客員教授として派遣したほか、「専門演習」「論文指導」担当の教員雇用助成
25	カイロ大学政治経済学部	エジプト	2011. 04. 01 ~ 2012. 03. 31	日本研究集中講義の実施

欧州・中東・アフリカ交流事業費

2. 人物交流事業費 / (1) 日本研究フェローシップ(学者・研究者 長期) [欧州・中東・アフリカ]

諸外国の優れた日本研究者に日本で研究・調査活動を行う機会を提供する。

合計額 98,679,710 円

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ
1	McELWAIN, Kenneth, Mori	ミシガン大学政治学部 准教授	アイルランド	中央大学	2011.06.01 ~ 2012.05.31	政党の民主化
2	ALBERIZZI, Valerio Luigi		イタリア	東京大学大学院人文社会系研究科	2011.10.01 ~ 2012.03.31	和漢混淆文の研究—古典日本語の諸文体における位置—
3	FAILLA, Donatella	キョッソーネ美術館 館長	イタリア	立命館大学	2012.01.31 ~ 2013.01.30	エドアルド・キョッソーネ(1833~1898)と日本美術コレクション：明治期の文化的・歴史的背景
4	GALLIANO, Luciana	ヴェネチア大学 助教授	イタリア	国立音楽大学	2011.08.30 ~ 2011.11.27	フルクサス運動と日本人アーティスト—その関わりと重要性。フルクサス及びその美学に関する日本文化を通しての再考
5	WHITTLE, Keith	セントラルセントマーティンズカレッジ 国際プロジェクト研究員	英国	P3芸術と環境	2011.05.10 ~ 2011.09.09	アート、コミュニティ、エンゲージメント：日本のアートプロジェクトの近況
6	STEGEWERNS, Dick	オスロ大学文化研究 東洋言語学部 准教授	オランダ	京都大学人文科学研究所	2010.01.17 ~ 2011.12.16	戦争の再演：戦後日本映画における自己と他者の表現
7	KAVALLARIS, Faidros	作曲家	キプロス	東京芸術大学	2010.12.01 ~ 2011.11.30	松風とオイディプス王・能と古代ギリシャ劇の歌詞、音楽及び構成
8	CAMPAGNOLA, Francesco	イタリア東方学研究所 共同研究者	スイス	京都大学大学院人間・環境学研究科	2012.02.01 ~ 2013.01.15	近代性の周縁へ—日本におけるイタリア近代思想受容の歴史
9	HAGSTRÖM, Linus Petter	スウェーデン国際問題研究所 上級研究フェロー	スウェーデン	京都大学	2012.01.05 ~ 2012.07.04	国家アイデンティティと日本の外交・安全政策の変化
10	BORGGREEN, Gunhild	コペンハーゲン大学 助教授	デンマーク	東京芸術大学	2011.02.01 ~ 2011.07.31	芸術と技術：日本のロボットの視覚文化
11	DONATH, Diana	ヤギェウオ大学 教授	ドイツ	お茶の水女子大学	2011.09.30 ~ 2012.09.29	日本の高度娯楽文学の潮流：1990年代の各賞受賞の女性作家
12	LISCUTIN, Nicola	ロンドン大学バークベックカレッジ 研究者	ドイツ	東京大学	2011.05.15 ~ 2012.02.14	1950年代から60年代初頭の日本映画におけるトラウマ、記憶、ジェンダー
13	MIDFORD, Paul	ノルウェー科学技術大学 助教授	ノルウェー	同志社大学法学部	2010.07.20 ~ 2011.07.19	東アジアにおける多国間の安全保障協力—安心感を高める論理と日本のリーダーシップ

欧州・中東・アフリカ交流事業費

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ
14	TOIVONEN, Tuukka Hannu	オックスフォード大学グリーンテンブルトンカレッジジュニア・リサーチ・フェロー	フィンランド	慶應義塾大学	2011.05.26 ~ 2012.05.25	「社会企業家」になるということー若い大人のモチベーションや変貌する「社会的貢献」について
15	GARDE, Renée	翻訳家	フランス	立教大学文学部	2011.10.01 ~ 2012.09.30	『仁勢物語』の伝語全訳・注・解説のフランスにおける出版
16	ZOUGHARI, Kacem	フランス国立東洋言語文化学院 (INALCO) 研究員	フランス	国際日本文化研究センター	2011.06.14 ~ 2012.03.14	日本古武道の「動き」の人間工学的分析研究
17	JALILOV, Aktam	ウズベキスタン共和国大統領付属国家・社会建設アカデミー 国際学部長	ウズベキスタン	法政大学	2011.08.12 ~ 2012.08.11	新たな超大国が出現するユーラシアにおけるパワーバランスとしての日本の役割
18	PYANOVA, Elena	タシケント国立東洋学大学 歴史学部講師	ウズベキスタン	早稲田大学	2010.10.01 ~ 2011.07.30	近代日本研究：久米邦武の経験に学ぶ宗教、教育と進歩について
19	SALIKHOV, Jasur Shavkatovich	世界経済外交大学 准教授	ウズベキスタン	東京大学	2011.08.24 ~ 2012.08.23	戦後日本における金融・産業システムの統合：経営と成長
20	TUYCHIEV, Muchiddin	タシケント国立東洋学大学 研究員	ウズベキスタン	法政大学	2010.06.10 ~ 2011.05.31	日本と上海協力機構から考える、アフガニスタンの安全保障と安定への道
21	KELIYAN, Maya Bedros	ブルガリア科学アカデミー 准教授	ブルガリア	京都大学	2012.03.01 ~ 2013.02.28	アーバンライフスタイルの多様性：日本とブルガリアの比較研究
22	BATOR-LUKASIEWICZ, Joanna	ポーランド科学アカデミー 上級准教授	ポーランド	東京工業大学大学院社会理工学研究科	2010.10.01 ~ 2011.09.30	おたく文化とそのジレンマ
23	MAJEWICZ, Alfred Franciszek	アダム・ミックェヴィチ大学 正教授	ポーランド	埼玉大学教養学部	2011.01.10 ~ 2011.11.09	B. ビウスツキとW. シェロシェフスキの観た明治期の日本(百年後遠景)
24	CVETKOVIK, Andrijana	日本大学大学院芸術学研究科 客員研究員	マケドニア旧ユーゴスラビア共和国	国際日本文化研究センター	2011.11.25 ~ 2012.11.24	映画表現を通じた文化的イメージと日本の潜在意識の形
25	BAKSHEEV, Evgeny Sergeevich	ロシア連邦文化省国立ロシア文化研究所 主任研究員	ロシア	沖縄国際大学	2011.05.24 ~ 2012.05.23	ネフスキーによる宮古島方言研究の足跡をたどる、「ニコライ・ネフスキー『宮古島方言研究のための資料』(『宮古方言ノート』)の解説・翻訳・整理・研究、ネフスキー『宮古方言辞典』の編纂
26	BOTOEV, Igor	ブリヤート国立大学 准教授	ロシア	北海道大学	2011.07.03 ~ 2012.07.02	日本文学の翻訳における異文化コミュニケーションの諸問題

欧州・中東・アフリカ交流事業費

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ
27	KUTAFYEVA, Natalia Vitalievna	ノボシビルスク国立総合大学 准教授	ロシア	早稲田大学大学院 日本語教育研究科	2011.06.01 ~ 2012.02.29	数量という概念を中心に日本語とロシア語世界の言語上の知覚の比較
28	KUZMINKOV, Victor	ロシア科学アカデミー 上級研究員	ロシア	法政大学	2011.06.05 ~ 2012.04.04	ソ連崩壊後の日ロ関係-エリツィン時代1991-2000年
29	GUCHINOVA, Elza- Bair Matsakovna	ロシア科学アカデミー民俗学・人類学研究所上級研究者	ロシア	北海道大学スラブ研究センター	2011.06.15 ~ 2012.04.14	捕虜の記憶のイメージ：強制収容所における戦争捕虜の視覚記録
30	POTAPOVA, Natalia Vladimirovna	サハリン国立総合大学 世界史学部長	ロシア	小樽商科大学	2011.09.07 ~ 2012.09.06	サハリンアイヌ、北方先住民のキリスト教ミッション
31	SHAGLANOVA, Olga	トランスバイカル地域民族・民族学博物館 次長	ロシア	東北大学	2012.03.14 ~ 2013.03.13	北東アジアにおけるモンゴル系移民間の民族的統合
32	BEJARANO, Shalmit	ピッツバーグ大学 博士課程	イスラエル	神奈川大学	2010.09.28 ~ 2011.09.27	伝承とカノン：近代画譜における耕作モチーフの検討
33	IBRAHIM, Walid Farouk	カイロ大学文学部 准教授	エジプト	学習院大学	2011.09.01 ~ 2012.08.31	副詞と文末表現の統語的特徴と意味分析—日本語・アラビア語の対照研究
34	SALEH, Adel Amin	カイロ大学文学部 日本語・日本文学 専任講師	エジプト	早稲田大学	2010.09.01 ~ 2011.08.31	世界における日本型の国語形成の位置づけ—欧米諸言語とアラビア語の対比において—

欧州・中東・アフリカ交流事業費

2. 人物交流事業費 / (2) 日本研究フェローシップ(論文執筆) [欧州・中東・アフリカ]

人文・社会学の研究者で博士論文作成のため来日する必要があるものを招へいする。

合計額 101,233,772 円

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ
1	WALSH, Dermott	ライデン大学 博士課程	アイルランド	京都大学	2011.01.19 ~ 2012.03.18	「空」の問題と近代日本哲学の倫理
2	CARDI, Luciana	ナポリ東洋大学 博士課程	イタリア	大阪大学日本語日本文化教育センター	2011.10.01 ~ 2012.01.31	現代日本文学におけるギリシア神話
3	CLOSE, Natalie, Frances	オーストラリア国立大学 博士課程	英国	上智大学	2010.07.25 ~ 2011.09.24	日本の都市の共同体による祭のアイデンティティと役割
4	DOBSON, Jill	シェフィールド大学博士課程	英国	早稲田大学	2011.09.01 ~ 2012.08.31	宮本百合子、1927年から30年のソビエト滞在
5	JONES, Gordon Wyn	ロンドン大学キングス・カレッジ 博士課程	英国	政策研究大学院大学	2011.08.01 ~ 2012.02.29	日本の核政策の基軸：依存の力学とディレンマ
6	LEE, Joyman	イェール大学 博士課程	英国	東京大学	2011.12.01 ~ 2012.08.31	日本の経済の思想と中国の経済の経済発展政策、1920~1940年
7	WALSH, Mark James Paul	ロンドン大学 博士課程	英国	早稲田大学	2011.06.01 ~ 2011.09.30	近代日本における英語カリキュラムとナショナルアイデンティティの確立：1947年から2006年の中学校英語教科書の歴史研究
8	KOCH, Angelika	ケンブリッジ大学 博士課程	オーストリア	立命館大学	2011.09.16 ~ 2012.03.12	江戸の指南書に見る近世のセクシャリティと身体
9	DOGLIA, Arnaud	ジュネーブ大学 教員助手/博士課程	スイス	東京外国語大学	2010.09.01 ~ 2011.08.31	現代日本における過去の構築と脱構築：日本の戦争残虐の集会的記憶の形成
10	HUTTER, Roland Ryu	チューリッヒ大学 博士課程	スイス	国立歴史民俗博物館	2010.09.24 ~ 2011.09.20	輪島漆器が「日本一」と呼ばれる理由について
11	WIESER BENEDETTI, Ursula Verena	国立高等社会科学研究院 博士課程	スイス	京都市芸繊維大学	2011.06.19 ~ 2011.10.18	京都の都市空間に現れた歴史—江戸時代と明治時代が混在する空間構造の研究
12	ARMENDARIZ HERNANDEZ, Alejandra	レイ・ファン・カルロス大学 博士課程	スペイン	明治学院大学文学部	2011.09.22 ~ 2012.11.21	日本映画における女性監督。作者、映画表現と受容行為の問題
13	MORENO, Nieves	マドリード自治大学 博士課程	スペイン	早稲田大学	2010.09.01 ~ 2011.08.31	日本映画における活弁の思考と定着(1908~1915)
14	MELZER, Juergen	プリンストン大学 博士課程	ドイツ	東京大学	2010.09.22 ~ 2011.08.07	戦間期における日本の航空開発と、ドイツ
15	POCH, Daniel Taro	コロンビア大学 博士課程	ドイツ	早稲田大学	2011.10.01 ~ 2012.09.30	近代日本に於ける「文学」の再検討：19世紀から20世紀初頭にかけてのジャンルと感情性



欧州・中東・アフリカ交流事業費

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ
16	ROTH, Martin Erwin	ライプツィヒ大学 博士課程/助手	ドイツ	東京大学	2011.04.30 ~ 2012.04.29	共同体ゲーム：日本に於けるメディア文化の発展とその意味
17	CASTEL, Coralie Yolande	ナンテル大学 博士課程	フランス	多摩美術大学	2010.09.22 ~ 2011.09.23	日本における自己表現：社会的な視点からの「プリクラ」研究
18	TAJAN, Nicolas	トゥルーズ第二大学 博士課程	フランス	京都大学	2011.04.15 ~ 2011.06.14	日仏ひきこもり比較研究
19	MOSKALYOV, Dmitriy Petrovich	ウクライナ国立科学アカデミー 博士課程	ウクライナ	北海道大学スラブ研究センター	2010.06.21 ~ 2011.07.20	現代日本語におけるモダリティの文末の複合表現
20	NAGORNA, Valentyna	交通・経済・工業国立大学 ウクライナ語・外国語学部 助手	ウクライナ	天理大学国際文化学部	2010.06.01 ~ 2011.05.31	多義語・同音異義語・オノマトペ語から見た日本語の構造と特性(対照的な分析視点から)
21	CULIBERG, Luka	リュブリャナ大学 アシスタント	スロベニア	一橋大学	2011.10.01 ~ 2012.08.30	言語思想史と国民国家の形成：「日本人」のアイデンティティにおける「国語」という概念
22	MATOSEC, Matjaz	ユトレヒト大学 博士課程	スロベニア	立命館大学	2011.01.20 ~ 2011.07.19	オペラのカストラートと歌舞伎の女形の比較：声に着目して
23	JELESIJEVIC, Dunja	イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校 博士課程	セルビア	名古屋大学	2011.09.01 ~ 2012.07.31	宗教魔力、宗教啓発：中世日本における能楽堂と宗教
24	LOCHMAN, Daniel	チャールズ大学 博士課程	チェコ	東京国際大学	2012.01.31 ~ 2013.03.30	チェコスロバキアと日本戦間期外交関係
25	PLSEK, Ivo	カリフォルニア大学 博士候補	チェコ	東京大学	2010.11.18 ~ 2011.11.17	日本のエリートと戦後和解：1920年代から80年代にかけての政治の連続性
26	TODOROVA, Albena Hristova	ソフィア大学 非常勤講師	ブルガリア	東京大学大学院人文 社会系研究科・文学部現代文芸論研究室	2010.08.01 ~ 2011.09.30	『アンナ・カレーニナ』と『或る女』における女性像の比較研究
27	CITKO, Malgorzata Karolina	ハワイ大学マノア校 博士課程	ポーランド	国文学研究資料館	2012.01.01 ~ 2013.02.28	式子内親王の和歌、間テクスト性、知覚と評価
28	DRZEWIŃSKI, Kamil	ワルシャワ工科大学 博士課程	ポーランド	立命館大学	2011.08.01 ~ 2012.09.30	日本における建築学的オブジェクトの構造形成の論理
29	GLUCH, Dariusz	ワルシャワ大学東洋学研究所 博士課程	ポーランド	東京大学大学院人文社会系研究科	2010.11.01 ~ 2011.12.31	テキストによる言語間的コミュニケーションの実用論：日本語に於ける和文と対照した漢文の問題
30	MILUTIN, Otilia Clara	ブリティッシュ・コロンビア大学 博士課程	ルーマニア	上智大学	2011.09.01 ~ 2012.10.31	平安の「ものがたり」文学にみる問題含みの求愛における性差表現

欧州・中東・アフリカ交流事業費

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ
31	DOGADINA, Anastasia	ロシア科学アカデミー東洋学研究所 博士課程	ロシア	法政大学	2011.07.01 ~ 2012.06.29	日本政治エリートの進化 (1869~2010)
32	ERSHOVA, Nina	国立大学高等経済学校 博士課程	ロシア	京都大学経済研究所	2011.10.08 ~ 2012.04.07	ロシアへの投資に関する日本企業アプローチ
33	GINZBURG, Polina Alexandrovna	チュービンゲン大学 博士課程	ロシア	早稲田大学	2011.10.25 ~ 2012.08.24	ヨーロッパの日本研究の文脈におけるアダム・ラクスマンと初期露日関係
34	KLOBUKOVA, Natalia	モスクワ国立音楽院 主席研究員	ロシア	京都市立芸術大学	2012.01.16 ~ 2012.12.15	明治期の伝統音楽文化の保存
35	LEBEDEVA, Ekaterina	ロシア極東国立人文大学 専任講師	ロシア	大阪大学	2010.06.28 ~ 2011.08.27	日本語における慣用表現の発生と発達(通時的研究): 6~8世紀の歴史的記録と文学作品を焦点に
36	MOSTOVAYA, Anna Sergeevna	ロシア科学アカデミー極東支部 博士課程	ロシア	東京理科大学	2011.05.26 ~ 2012.07.31	日本企業海外投資の地理的構造の分析
37	MURASHKIN, Nikolay	ケンブリッジ大学 博士課程	ロシア	早稲田大学	2011.11.07 ~ 2012.04.06	1991年~2010年日本の「シルクロード」外交: 対中央アジア地域ポスト冷戦戦略アプローチ
38	TARAKANOVA, Ekaterina Borisovna	モスクワ州スラブ文化大学 博士課程	ロシア	日本女子大学	2011.06.02 ~ 2012.07.01	現代の異文化間の対話における日本とロシアの若者のサブカルチャー
39	BEN NUN, Yael	パリ第8大学 博士課程	イスラエル	慶應義塾大学	2011.09.01 ~ 2012.08.31	今敏のアニメーション・フィルムに見るリアリズムとファンタジーの混合における美学への挑戦
40	JOSKOVICH, Erez	テルアビブ大学 博士課程	イスラエル	東京大学	2011.07.20 ~ 2012.09.19	「在家禅」: 現代日本における民衆的な禅
41	SAHIN, Esra-Gokce	ハーバード大学 博士課程	トルコ	東京大学	2010.09.01 ~ 2011.10.31	ユーモアの観点から見る社会事情
42	NOUR, Safaa, Mahmoud Mohamed	カイロ大学文学部日本語・日本文学科 助講師	エジプト	東京大学	2010.10.01 ~ 2011.11.30	日本とエジプトにおけるフェミニズム
43	SSEBAGALA, Ralph	ケープタウン大学 博士課程	ウガンダ	早稲田大学大学院公共経営研究科	2011.05.10 ~ 2012.04.09	日本における消費者破産保護と日本の家計における借金・債務不履行の決定要素の背後にある要因

欧州・中東・アフリカ交流事業費

2. 人物交流事業費 / (3) 日本研究フェローシップ(学者・研究者 短期) [欧州・中東・アフリカ]

諸外国の優れた日本研究者に日本で研究・調査活動を行う機会を提供する。

合計額 16,888,100 円

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ
1	NORDEBORG, Martin	ヨーテボリ大学 准教授	スウェーデン	関西大学	2011.10.01 ~ 2011.11.27	日本の若者間の男性らしさの構造
2	HAUPTMANN, Mark	エアフルト大学 講師	ドイツ	—	2011.11.15 ~ 2012.01.14	1945年以降の日米政策の歴史的变化
3	SCHULZ, Evelyn	ミュンヘン大学日本センター 教授	ドイツ		2011.03.01 ~ 2011.04.27	現代日本における都市論—スローシティとコンパクトシティの発想を中心に
4	SPIELMANN, Yvonne Ingeborg	西スコットランド大学 研究教授	ドイツ	—	2011.10.01 ~ 2011.11.28	デジタルな対話：近年の日本のメディア芸術における文化、美学とテクノロジー相互作用
5	JALAGIN, Seija	オウル大学 講師	フィンランド	慶応義塾大学	2011.06.23 ~ 2011.08.24	翻訳的架け橋：第二次世界大戦後日本における異文化能力と外来宗教組織の再文化化
6	OSADCHA, Iuliia	ウクライナ国立科学アカデミー/タラス・シェフチェンコ文学研究所 研究者	ウクライナ	—	2011.06.06 ~ 2011.08.01	近代日本文芸批評における坪内逍遙の小説論
7	VISOCNIK, Natasa	リュブリャナ大学 助手	スロベニア	京都大学	2012.01.10 ~ 2012.02.20	日本とスロベニアにおけるマイノリティーのアイデンティティー表現方法の研究と比較。
8	MAKSIMOVIC, Aleksandar	中央・東ヨーロッパに関する地域環境センタープロジェクトオフィサー	セルビア	京都大学	2011.06.07 ~ 2011.07.16	日本の経験から持続可能的発展の教訓を学ぶ
9	HLASNY, Vladimir	国際経済研究センター/梨花女子大 准教授	チェコ	政策研究大学院	2011.12.24 ~ 2012.01.30	労働市場における疑念：企業の実践、北東アジアの労働法
10	PETRANYI, Zsolt	ミュンヘン美術館 館長	ハンガリー	—	2011.07.11 ~ 2011.08.10	日本の現代美術と建築をめぐる短期研究旅行
11	TAMAS, Csaba Gergely	パーズマーニ・ペーテル大学 非常勤講師	ハンガリー	国際日本文化研究センター	2011.07.09 ~ 2011.08.13	「日本の議会制度」歴史と現代の課題
12	PETKOVA, Gergana Rumenova	ソフィア大学 准教授	ブルガリア	—	2011.07.11 ~ 2011.09.08	埋め込まれた文化的実態を掘り起こす：日本のおとぎ話
13	KOSTOV, Zoran	聖キリル・メトディウス州立大学 准教授	マケドニア旧ユーゴスラビア共和国	—	2011.07.06 ~ 2011.08.25	日本のe-inclusion政策、メカニズムと実践、及び第三セクターの役割
14	BITINAS, Audrius	ミコラスロメリス大学 准教授	リトアニア	神奈川大学	2012.01.17 ~ 2012.02.27	日本におけるソーシャルセキュリティモデル：問題と改革

欧州・中東・アフリカ交流事業費

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ
15	DYAKONOVA, Elena Mikhailovna	ロシア国立人文大学 教授	ロシア	—	2011.10.01 ~ 2011.11.28	明治期における俳句の理論
16	GNATOVSKAYA, Yulia Sergeevna	ハバロフスク国立経済法律アカデミー 上級講師	ロシア		2011.06.27 ~ 2011.08.23	日本の社会福祉発展の要因とその日本の経験をロシア社会政策へ適用の可能性
17	ZOHAR, Ayelet	ハイファ大学 講師	イスラエル	北海道大学スラブ研究センター	2011.06.22 ~ 2011.08.19	信伊奈亮正(1868~1933) : 暗黒と夜間の撮影
18	ADIROLE, Emmanuell	ナサワラ州立大学 客員上級講師	ナイジェリア	—	2011.05.10 ~ 2011.07.05	日本のエネルギー安全保障と東アジアの国際関係

欧州・中東・アフリカ交流事業費

2. 人物交流事業費 / (4) 知的リーダー交流(招へい) [欧州・中東・アフリカ]

諸外国の政治、経済、労働、メディア、教育等の各分野で影響力を有する人材を招へいし、日本側関係者との意見交換、当該分野での状況視察等の機会を提供する。

合計額 40,871,743 円

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ (事業内容)
1	MAHMUDLU, Jeyhun	カフカス大学ヨーロッパ研究学科 学科長	アゼルバイジャン	北海道大学スラブ 研究センター	2011.09.01 ~ 2011.10.01	エネルギー分野でのアゼルバイジャンと日本の協力と将来の展望
2	ARIPDJANOV, Otabek	ウズベキスタン国立歴史博物館 副館長	ウズベキスタン	独立行政法人 奈良 文化財研究所	2011.10.15 ~ 2011.12.13	骨角器の保存修復に関する基礎的技術の研究
3	NOGOIBAeva, Elmira	シンクタンク ポ リスアジア 所長	キルギス	北海道大学スラブ 研究センター	2012.01.15 ~ 2012.03.14	キルギスと日本の政治エリートの比較分析
4	BOZINA BEROS, Marta	プーラ大学 助手	クロアチア	早稲田大学大学院 ファイナンス研究 科	2012.03.01 ~ 2012.03.31	日本の金融規制と監督制度：クロアチアは学べるのか？
5	TELAKU, MIMOZA	FISNIKETユースセ ンター コンサル タント	コソボ	ピースボート	2011.01.04 ~ 2012.02.19	市民社会・平和教育と暴力紛争の予防
6	BLEHA, Branislav	コメニウス大学 准教授/学科長	スロバキア	岐阜大学 流域環 境研究センター	2011.09.01 ~ 2011.10.01	人口の高齢化：世界的現象のうちの局所的状況(日本とスロバキ アの比較)
7	LUBYOVA, Martina	スロバキア科学ア カデミー 研究者	スロバキア	富山大学	2011.07.20 ~ 2011.08.18	技術変革と知的経済における労働市場
8	POLACKOVA, Zuzana	スロバキア労働・ 社会福祉・家族省 局長	スロバキア	明治大学	2011.10.01 ~ 2011.11.15	社会開発における多様な利害関係のアプローチ
9	ACCETTO, Matej	リュブリアナ大学 准教授	スロベニア	早稲田大学	2011.06.28 ~ 2011.07.09	日本とEU法での裁判所の役割について比較分析
10	HVALC, Luka	ラジオ・スロベニ ア ジャーナリス ト	スロベニア	名古屋産業科学研 究所	2011.10.12 ~ 2011.11.15	世界における日本の技術的かつ科学的な社会現象について
11	KASL KOLLMANNOVA, Denisa	カレル大学 助教 授	チェコ	東京外国語大学	2011.07.19 ~ 2011.09.06	メディア、企業と社会：企業関連の情報、CSRをいかに伝達する か
12	CSEPPENTO, Istvan	ブタペスト大学 准教授	ハンガリー	京都大学大学院文 学研究科	2011.10.01 ~ 2011.10.31	近代初期の日本及びフランスのフィクションに関する比較研究
13	NEMES, Gyula	プラハ芸術アカデ ミー 博士課程	ハンガリー	日本大学大学院芸 術学研究科	2011.05.20 ~ 2011.07.18	日本の実験映画

欧州・中東・アフリカ交流事業費

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ（事業内容）
14	KANDILAROV, Evgeniy	ソフィア大学 非常勤准教授	ブルガリア	青山学院大学国際政治経済学科	2011.05.23 ~ 2011.06.30	日本の技術・産業発展：中東欧諸国のモデルとして
15	PARVANOV, Yonka	ソフィア大学 准教授	ブルガリア	龍谷大学文学部	2012.01.10 ~ 2012.02.10	学校評価制度のアプローチと全体像
16	GRABOWSKI, Marcin Andrzej	ワルシャワ経済学院 准教授	ポーランド	早稲田大学大学院アジア太平洋研究科	2012.01.18 ~ 2012.03.14	地域協力の核としての日中協力と仏独協力
17	GAVRAN, Igor	海外貿易評議会プロジェクト・マネージャー	ボスニア・ヘルツェゴビナ	東京大学	2011.07.16 ~ 2011.09.16	日本のFTA・EPA政策：ボスニアへの課題
18	PISKER, Lidija	ユナイテッド・ワールド・カレッジ ボスニア・ヘルツェゴヴィナ ディベロップメント・ディレクター	ボスニア・ヘルツェゴビナ	埼玉医科大学	2011.06.30 ~ 2011.08.30	現職教師研修プログラム：日本とボスニアの比較
19	PUTNINA, Aivita	ラトビア大学人文学科人類学 主任	ラトビア	静岡大学人文学部	2012.01.10 ~ 2012.02.20	政治における女性：その軌跡、キャリアそして認知度の日本ラトビア比較
20	REINHOLDE, Iveta	ラトビア大学 助教授	ラトビア	昭和女子大学人間社会学部	2011.11.01 ~ 2011.12.05	日本の行政：その課題と展望
21	AELENEI, Ana-Maria	ドイツマーシャル基金 プログラムアシスタント	ルーマニア	静岡県立大学	2011.09.01 ~ 2011.10.01	弓と矢：黒海地域における日本の影響力
22	PANZARU, Ioan	ブカレスト大学 学長	ルーマニア	—	2011.04.06 ~ 2011.05.06	日本の文化・教育機関の訪問、関係者との意見交換
23	KLEVALINA, Natalya Andreyevna	ソルジェニーツィン記念亡命ロシア研究所 編集者	ロシア	青山学院大学国際政治経済学科	2011.10.19 ~ 2011.12.16	日本におけるロシア人移民：統合と適応、相互文化交流に関して
24	ZAHID, Hidayatullah	大統領府官房長組織 大統領府官房長顧問	アフガニスタン	(財)日本エネルギー経済研究所 中東研究センター	2011.04.06 ~ 2011.05.06	日本の議会と行政システムの研究
25	SAMINI, Naghmeh	テヘラン大学 講師	イラン	筑波大学	2011.07.20 ~ 2011.09.17	日本の現代ドラマにおけるシェイクスピア作品の影響
26	ZAKERI, Ghodratollah	テヘラン大学世界研究学部 助手	イラン	明治学院大学	2011.07.10 ~ 2011.09.07	現代日本映画についての予備調査
27	AL JAHDHAMI, Abdulaziz Ahmed	オマーンオブザーバー紙 副編集者	オマーン	香川大学	2011.05.20 ~ 2011.07.18	ロボットと日本の文化

欧州・中東・アフリカ交流事業費

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ（事業内容）
28	EID, Fatima Hasan Ahmed	バーレーン教育省 科学研究局高等教育 評議会 研究開発 部長	バーレーン	早稲田大学教育総合 科学学術院	2011.06.20 ~ 2011.08.18	日本の研究開発と教育改革：教員教育プログラムとアクションリ サーチの包括的研究
29	HARDAN, Tareq	アルクッズ大学 学術指導員	パレスチナ	神戸大学大学院国際 公共政策研究科	2011.06.02 ~ 2011.07.31	ボランティアに対する社会的・文化的動機：日本とパレスチナの 比較
30	CHOUIKHA, Mustapha	LEAD チュニジア 支部長	チュニジア	バリュー・フロン ティア	2011.06.25 ~ 2011.08.20	日本のエコ・ツーリズム：チュニジアへの教訓
31	TESFAYE, Ermias	エチオピア公務員 大学 講師	エチオピア	放送大学ICT活用・ 遠隔教育センター	2011.06.01 ~ 2011.07.10	日本の遠隔教育導入
32	NGOM, Mbagnick	ワルファジリ新聞 社 編集長補	セネガル	明治学院大学国際 学部	2011.05.20 ~ 2011.07.18	主要な社会問題に対する日本の連帯
33	LOADA, Augustin Marie-Gervais	ワガドゥグ大学 教授	ブルキナファソ	法政大学文学部	2012.02.01 ~ 2012.03.15	日本及びアフリカにおける民主的発展状態：比較的アプローチ
34	中東・北アフリカ グループ招へい		エジプト  ヨルダン  チュニジア	—	2011.10.07 ~ 2012.03.31	エジプトから6名、ヨルダンから6名、チュニジアから4名の若手 リーダーを招へいし、リーダーシップのあり方、社会秩序のなり たちについて視察・意見交換を実施

欧州・中東・アフリカ交流事業費

3. 催し等事業費 / (1) 知的交流会議(主催) [欧州・中東・アフリカ]

日本と諸外国の相互理解の促進とより緊密な関係の構築、世界の知的交流の推進を目的とした、国際的な知的共同事業（国際会議、セミナー、ワークショップ等）を開催する。

合計額 33,226,685 円

	事業名	対象国	共催・協力機関	期間	事業内容
1	インターカルチュラル・シティ	韓国 イタリア 英国 スウェーデン フランス ポルトガル	欧州評議会	2011.04.01 ~ 2012.03.31	日本・韓国・欧州多文化共生都市国際シンポジウム—語り、協働し、作りあげる：明日のコミュニティー 及び関連事業を実施
2	EUNIC共催「日欧絆プロジェクト」	アイルランド イタリア 英国 スペイン ドイツ ポルトガル ブルガリア	EUNIC ジャパン	2011.07.03	欧州の域内多様性とコミュニティの連帯、震災後の日本のコミュニティ再建を取り上げ、「絆」をテーマにしたシンポジウム兼演奏会
3	震災映像上映及び講演会講師派遣	イタリア スペイン		2012.02.01 ~ 2012.03.31	東日本大震災後、被災地に寄せられた世界からの支援に対する感謝を示すドキュメンタリー映像をマドリード及びローマで開催。併せて、講演会を実施
4	ブリティッシュ・カOUNシルとの社会起業に関する共同事業	英国	ブリティッシュ・カOUNシル	2011.04.01 ~ 2012.03.31	国際シンポジウム「社会イノベーションのためのエコシステムをデザインする—アジアからのメッセージ」の開催
5	ブリティッシュ・カOUNシルとのカルチュラル・リーダーシップに関する共同事業	英国	ブリティッシュ・カOUNシル	2012.02.01 ~ 2012.03.31	日英の関係者が集い、文化セクターにおけるリーダーについて考えるシンポジウム



欧州・中東・アフリカ交流事業費

	事業名	対象国	共催・協力機関	期間	事業内容
6	震災とメディアの役割	ドイツ	ベルリン日独センター	2011.07.07	2011年3月11日に発生した東日本大震災を受け、新聞、テレビ、ラジオなどの既存メディアに加え、ツイッターやフェイスブックなどのインターネットメディアも含めた各種メディアが災害時に果たしている役割を検証。更に、日本と海外での報道の差異を社会論・比較文化論の視点から議論し、日欧における災害とメディアの現状と課題を日欧の実務家、専門家が考察
7	日独交流150周年北斎展シンポジウム	ドイツ	ベルリン日独センター	2011.10.01 ~ 2011.12.31	日独交流150周年記念「北斎展」に合わせたシンポジウムを開催。北斎という希代の芸術家を生み出した江戸後期の文化と社会背景、出版文化等を、同時代のヨーロッパ文化・芸術とも比較しながら検証。浮世絵を広い観点から考察
8	ソーシャルファーム	西欧地域区分困難		2011.04.01 ~ 2012.03.31	2011年1月に実施したシンポジウム「ソーシャル・ファームを中心とした日本と欧州の連携」の報告書作成
9	ロシア若手日本研究者短期グループ招へい	ロシア		2012.03.01 ~ 2012.03.10	ロシア国内の20~30代の日本研究者を招へいし、日本でキャリアを積むロシア人研究者、日本人の若手研究者との研究交流を目的に訪日研修を実施。日本研究者を志すロシアの若手を支援
10	日欧知的交流会議(アルザス)	欧州地域区分困難	アルザス・欧州日本学研究所(CEEJA)	2011.04.01 ~ 2012.03.31	欧州域内若手日本研究者による合宿形式のセミナー。アルザス欧州日本学研究所(CEEJA)との共催。欧州内の若手日本研究者のネットワーク構築と、今年度のテーマ「大正／戦前」における汎領域的研究の深化を目指す事業

欧州・中東・アフリカ交流事業費

3. 催し等事業費 / (2) 知的交流会議(助成) [欧州・中東・アフリカ]

日本と諸外国の相互理解の促進とより緊密な関係の構築、世界の知的交流の推進を目的とした、国際的な知的共同事業（国際会議等）に対し、経費の一部を助成する。

合計額 75,823,536 円

	事業名	対象国	助成対象機関	期間	事業内容
1	連続講演会「アショカ・フェロー・スピーカーズ・シリーズ」	インドネシア 米国	アショカ・ジャパン	2011.11.01 ~ 2012.03.31	世界各地で活躍する社会起業家「アショカ・フェロー」をスピーカーに迎えたセミナーシリーズ
2	国際シンポジウム「メディアアートによる文化産業創造と市民参画への挑戦」	オーストラリア 英国 ドイツ フランス	創造都市さっぽろ市民会議	2011.04.01 ~ 2012.03.31	「メディアアートと創造都市」をテーマに、メディアアートを活用した新たな都市文化・経済の創造、ソーシャルメディアを活用した市民の創造的活動の活性化等を取り上げた国際シンポジウム
3	国際シンポジウム「アートシアター：文化を仲介する映画のための場」	英国	ロンドン大学パークベックカレッジ	2011.04.01 ~ 2011.10.08	文化を生み、普及させるプラットフォームとしての「アートシアター」の役割や可能性について議論する国際シンポジウム
4	国際会議「日本文学と世界文学（フォローアップ会議）」	英国	ウォーリック大学 成城大学	2011.09.17 ~ 2011.09.18	「日本文学と世界文学」をテーマに、2009年にウォーリック大学で開催された国際会議のフォローアップとして日本で開催される国際会議
5	シンポジウム「考古学と文化：3.11が文化遺産に与えた影響」	英国	セインズベリー日本芸術文化研究所	2011.10.01 ~ 2011.12.31	東日本大震災と津波が文化遺産に与えた影響についてのシンポジウム
6	シンポジウム「フクシマ以降の人文科学－危機的/批判的結節点をもたらすポスト核の時代におけるカルチュラル・スタディーズと哲学の対話」	英国	ロンドン大学メディア・カルチュラル・スタディーズ学科	2011.10.27 ~ 2011.12.31	東日本大震災によって起きた原発事故の危機に直面した今、存続の危機に直面した社会における人文科学や知識人の役割について、講演・討論を行うシンポジウム
7	シンポジウム「窮境への対処：津波と原発の被害を受けた東北における民俗学研究」	米国 英国 オーストリア	明治学院大学	2011.11.01 ~ 2012.03.31	東日本大震災の被災地で実地調査を行った各国の民俗学研究者が発表を行う会議。宗教、マスコミ、女性、若者と多岐に渡るテーマにて実施

欧州・中東・アフリカ交流事業費

	事業名	対象国	助成対象機関	期間	事業内容
8	シンポジウム 「4/12から3/11、 タイタニックから 東日本大震災：災 害の記録」	英国	グラスゴー大学	2011. 11. 22 ～ 2012. 03. 31	1912年タイタニック号事故と2011年東日本大震災を取り上げ、カメラやビデオ等のデジタル技術の発達を経て、災害の記録がどう変化したかを比較検討するシンポジウム
9	国際会議「3. 11： 一年を機に」	英国	オックスフォード 大学日産日本問題 研究所	2012. 01. 01 ～ 2012. 03. 31	東日本大震災から1年を機に、日英の専門家が経済・政治・歴史・社会学等の各方面から、震災が日本に与えた影響、震災の教訓などを討論するシンポジウム
10	講演会「3月11日以 降の日本の復興に 向けて」	英国 ベルギー	JIA宮城地域震災復 興委員会	2012. 03. 15 ～ 2012. 09. 30	「3月11日以降の日本の復興に向けて」をテーマに、建築家と被災地のまちづくりを実施する専門家がベルギー、英国にて講演会及びディスカッションを実施
11	国際シンポジウム 「社会イノベー ションのためのエ コシステムをデザ インするーアジア からのメッセー ジ」	英国	ブリティッシュ・ カウンシル	2012. 03. 26 ～ 2012. 03. 31	社会起業分野で次世代のリーダーに成長することが見込まれる中間支援組織の若手2名を英国グラスゴーで開催される「Social Enterprise Exchange」「Argyll Visit Programme」に派遣し、英国の社会起業関係者とのネットワーク構築、日本の社会起業分野の取り組みの紹介、英国での視察内容の発信・報告を実施
12	第11回キネマ倶楽 部会議「日本の映 画館空間と映像環 境」	オーストリア	喫日学術交流会	2011. 07. 01 ～ 2011. 12. 31	「日本の映画館空間」や「上映環境」をテーマに取り上げた国際会議
13	ザルツブルググ ローバルセミナー 「アジアにおける 経済成長と社会保 障」	オーストリア	ザルツブルグ・グ ローバル・セミナー	2011. 11. 06 ～ 2011. 11. 11	「アジアにおける経済成長と社会保障」をテーマにしたセッションに、日本からファカルティ(講師)1名・フェロー(参加者)を派遣
14	国際シンポジウム 「紛争地帯におけ る<食>」	オランダ	ライデン大学	2011. 08. 19 ～ 2011. 12. 31	紛争地帯における食料問題をテーマに、「紛争地帯における兵士の食料」「北朝鮮と韓国の現代における食の比較」「1945年以降の東アジアにおける食」等について取り上げた国際シンポジウム
15	国際シンポジウム 「東京住宅建築か ら学ぶ」	スイス	「東京住宅建築か ら学ぶ」シンポジ ウム実行委員会	2011. 04. 01 ～ 2012. 03. 31	スイスと日本の都市や空間の文化的認識の差異、住宅と都市の関係性、タイポロジー、住宅の構造と素材等を多角的に扱った国際シンポジウム
16	国際学会「スカン ジナビアにおける 現代日本研究」	スウェーデン	ヨーテボリ大学	2011. 12. 15 ～ 2012. 03. 23	北欧諸国の日本研究者による学会をスウェーデンのヨーテボリ大学にて実施
17	国際会議「東西の 架け橋としての アート創造」	スペイン	コンプルテンセ大 学	2011. 05. 01 ～ 2012. 02. 29	特に若手研究者の育成を目的として、英国より日本美術史の専門家を招へいし、2011年10月にスペインのコンプルテンセ大学にて2日間の会議を実施

欧州・中東・アフリカ交流事業費

	事業名	対象国	助成対象機関	期間	事業内容
18	国際シンポジウム「危機管理におけるICTの社会的利用：2011年3月11日、日本」	スペイン	Casa Asia	2011.11.01 ～ 2012.04.30	「東日本大震災における危機管理と情報伝達について」をテーマに、2012年3月に学者、ジャーナリスト等が集い、国際シンポジウムを実施
19	静岡・ブレーメン国際交流アートプロジェクト「でくわ（出会）す」記念シンポジウム	ドイツ	静岡ブレーメン・アート・プロジェクト2011実行委員会	2011.04.01 ～ 2011.04.05	「日本とドイツ」「静岡とブレーメン」のアートや美術館の状況、街中でのアートプロジェクト、アートの役割、アート国際交流のあり方等を取り上げた国際シンポジウム
20	連続講演会「日本語教育と文化の翻訳：日独学術対話の150年－変転する世界における伝統的な研究社会」	ドイツ	ケルン大学	2011.04.01 ～ 2011.09.30	日・独・米の研究者が学際的な観点から、言語と文化、翻訳をテーマに取り組む国際会議
21	「倫理」に関する会議	ドイツ	現代日本社会科学学会	2011.07.01 ～ 2011.12.31	金融・医学・生命などにわたる「倫理」をキーワードにした、現代日本社会科学学会の年次総会・会議
22	日独修好150周年記念国際シンポジウム「信頼のゆくえ：発展した社会にあって信頼はいかにして構築されるか」	ドイツ	日独修好150周年記念国際シンポジウム組織委員会	2011.08.01 ～ 2011.12.31	日独修好150周年を記念し、日独の社会学研究者が一堂に会して議論を深め、これまでの研究成果を踏まえて、今後の共同研究の方向を探り、具体化するための国際シンポジウム
23	日独シンポジウム「グローバリゼーションの社会的インパクトの日独比較」	ドイツ	デュッセルドルフ・ハインリッヒ・ハイネ大学	2011.08.10 ～ 2011.10.30	金融危機、少子高齢化、ヨーロッパ或いはアジアとの相互関係などを比較文化の観点から分析し、日独の国民の価値観や行動様式にどのような変化がみられるか、将来に対してどのような社会政策を打ち出すべきか議論するシンポジウム
24	国際会議「フクシマとチェルノブイリ：原子力災害における社会的、文化的側面」	ドイツ	ゲーテ大学フランクフルト	2011.10.01 ～ 2012.03.31	福島とチェルノブイリについて、文化社会的な側面から比較、考察。社会の反応・ナラティブの残し方・トラウマとどのように向き合ってゆくか、といったさまざまな論点について、各分野の専門家が討議
25	国際会議「知的障害者への教育に対して災害が与える影響：新しい出発とその方向性」	ドイツ	ミュンヘン大学	2011.11.01 ～ 2012.03.31	日本・ドイツ・スロバキアから参加者が集い、災害や政治的混乱における聴覚障害者支援について討議する会議

欧州・中東・アフリカ交流事業費

	事業名	対象国	助成対象機関	期間	事業内容
26	シンポジウム「長期的問題と短期的惨事：震災後の社会政治政策」	ドイツ	デュイスブルグ・エッセン大学	2011.12.15 ～ 2012.03.31	東日本大震災後の日本社会を、政治・経済・社会学等の観点から討議するシンポジウム
27	シンポジウム「舞踏における老いと身体：ポストモダン・ダンスから身体障害及び老いへ」	ドイツ	ベルリン自由大学	2012.03.15 ～ 2012.09.30	日米独の舞踏研究者・舞踏家(大野慶人)等が集う国際シンポジウム
28	【企画参画型】国際シンポジウム「Asahi-SWPシンポジウム(H24)」	ドイツ	科学政治財団(SWP)	2012.03.15 ～ 2012.10.30	現在世界で起きている国家間の「パワーシフト」(米国や欧州の凋落、中国の台頭など)を根底に扱い、G20の世界と日独の関係について扱うシンポジウム
29	国際会議派遣「児童のため、児童と共にある欧州の確立」	フランス	欧州評議会	2011.01.01 ～ 2011.12.01	子どもの権利を主要テーマとする欧州評議会主催の会議に、日本の研究者、実務家を派遣。会議は2011年11月にモナコで実施
30	国際会議「道の宗教性と聖地景観が作り出す想像力の比較研究」	フランス	フランス国立極東学院	2011.04.01 ～ 2012.03.31	巡礼あるいは参詣をテーマとした日欧の民衆の自然認識についての比較研究。日仏の研究者が集まり、2011年9月にフランスからスペインの著名な巡礼地を訪問、それを受けて国際会議を実施
31	国際会議「脱工業化は宿命かー日本と韓国における産業発展からの教訓」	フランス	フランス国立社会科学高等研究院(EHESS)日仏財団	2011.04.01 ～ 2014.03.31	日・韓・ヨーロッパ諸国がたどる「脱工業化」の道筋に関し、中国の台頭を念頭におきつつ、比較研究を行う国際会議をパリで実施
32	国際会議「グローバル時代における新たな文化の生成ー文化的多様性の理解と平和の構築」	フランス	日仏社会学会	2011.05.20 ～ 2012.03.20	グローバリゼーションに伴う人の移動、共同体から個人を中心とした社会への移行とともに、表象される文化が変わりつつあることをテーマとした会議。日仏及びブラジルの研究者が集まり、2011年11月にパリにて実施
33	国際会議「グローバル化における人権をめぐる日本・フランスの対話」	フランス	「グローバル化における人権をめぐる日本・フランスの対話」実行委員会	2011.06.01 ～ 2012.03.31	グローバル・ガバナンスの視点から、人権をめぐる現代的な課題について、日仏の研究者が会議を実施、報告書も作成
34	国際会議「寺社の御札研究」	フランス	フランス国立科学研究所	2012.03.01 ～ 2012.03.02	ギメ美術館にて2011年秋に、故ベルナアール・フランクが収集したお札の展覧会が実施される機会に際し、日欧関係者による国際会議を実施

欧州・中東・アフリカ交流事業費

	事業名	対象国	助成対象機関	期間	事業内容
35	国際シンポジウム「日本の歴史と日本における歴史：継続の力と変化（1853-2012）」	フランス	ツールーズ第2大学	2012.03.15 ~ 2012.09.30	日本の政治、経済、社会、そして「近代」について歴史学的な視点から再考する国際シンポジウムを開催
36	国際会議「途上国の法制度改革における英米法と大陸法の制度的優位比較」	ベルギー	ルーヴァン・カトリック大学	2011.04.01 ~ 2012.03.31	発展途上国や開発途上国の法制度改革において、経済成長という目的のためには慣習法と制定法のいずれが制度的に優位かを検証。平成20年度に本プログラム助成を受けた会議のフォローアップ会議を2012年3月に実施
37	国際会議「発展する東アジア地域協力における日EU関係」	ベルギー	ルーヴァン・カトリック大学	2011.05.10 ~ 2011.11.30	投資から犯罪への取組みまで、EUと日本間の共通のテーマに関し意見交換を実施。学者のみならず政治家も参加し、ポリシーペーパーも作成
38	国際会議「国際的安定維持の要素としての中央アジアにおける地域安全保障」	ウズベキスタン	政治研究センター	2011.08.01 ~ 2012.01.31	中央アジアの安全保障に焦点をあて、それが地球規模の国際関係に与えるインパクトについて議論する会議
39	国際会議「グローバル時代における国境の意味：ヨーロッパと日本」	セルビア	ベオグラード大学	2011.04.10 ~ 2012.03.31	日本とセルビアの研究者が、グローバル時代における国境の意味について国際会議を実施
40	二国間会議「世界の美学：第1回ポーランド日本会合、経験の共有」	ポーランド	ポーランド美学協会	2011.04.01 ~ 2011.12.31	日本とポーランドの美学専門家による、初めての会議
41	国際会議「新たな世界秩序の挑戦に対して：日本の展望」	ポーランド	ポーランド国際問題研究所	2011.04.01 ~ 2011.12.30	日本とポーランドの国際政治専門家による、アジア-欧州協力の枠組みにおける日本の役割に関するシンポジウム
42	シンポジウム「リトアニアのアジア研究における日本学：歴史的観点と現在の状況」	リトアニア	ビタウタス・マグヌス大学	2011.05.01 ~ 2012.03.31	バルト諸国におけるアジア研究の中の日本学の位置づけを探るシンポジウム

欧州・中東・アフリカ交流事業費

	事業名	対象国	助成対象機関	期間	事業内容
43	国際シンポジウム「日本：前近代、近現代、現代、東から西への回帰－日本で、日本について、日本から学ぶ」	ルーマニア	「ディミトリエ・カンテミル」キリスト教大学	2011.04.01 ～ 2012.03.31	ルーマニアのブカレストで、日本の文学・神話・伝統と現代等をテーマに、日本及び欧州の研究者が集うシンポジウムを開催
44	国際会議「新しい国際秩序と太平洋地域 ウラジオストク・フォーラム」	ロシア	特定非営利活動法人ユーラシア21研究所	2011.04.01 ～ 2011.11.30	日本とロシア極東の各界代表者による国際会議
45	第2回「日露学術報道専門家会議」	ロシア	国際文化研究会	2011.04.01 ～ 2012.03.20	日ロ関係と台頭する中国に焦点を当て、政治学者とジャーナリストが参加する会議
46	日イスラエル修好60周年記念国際シンポジウム	イスラエル	エルサレム・ヘブライ大学	2012.03.15 ～ 2013.02.28	日本とイスラエル：地域的・相互関係的、及び文化的観点より見た両国－日イスラエル修好60周年記念国際シンポジウム
47	ワークショップ「アフリカ×日本×世界 II－暴力を平和に変える空間」	ザンビア モザンビーク	金沢工業大学	2011.05.01 ～ 2012.01.30	平和の空間と暴力の空間に関する理解を含め、暴力を平和化する空間の創造可能性を、学术界・芸術界・建築界・職人集団及び文化人との交流を通じ探求。ザンビアとモザンビークにおけるワークショップの実施後、日本にて成果発表を実施
48	国際会議「グローバルの文脈における中東と東アジア」	中東地域区分困難	日本中東学会	2011.04.01 ～ 2012.02.01	東アジア諸国の中東研究者(特に中国と韓国の中東学会会長及び事務局長)を日本の京都大学に招へいし、東アジアにおける中東イスラーム研究の現状と課題に関する問題提起及び意見交換を実施
49	国際シンポジウム「ビジネス・アーカイブ」	全世界区分困難	財団法人渋沢栄一記念財団	2011.04.01 ～ 2012.03.31	企業資料「ビジネス・アーカイブ」のもつ公共的意義や経営的価値、またその活用のある方についての会議を実施。欧州を中心に専門家を招へいし、2011年5月に公開シンポジウムを実施
50	国際招聘プログラム「FUTURE SKETCH 東京会議」	全世界区分困難	財団法人東京都歴史文化財団	2011.08.01 ～ 2011.12.31	海外から関係者を招へいし、東日本大震災後の現在の東京の文化状況を視察するとともに、文化・芸術の持つ意味と力、そして困難な中から新しい社会のありかたと未来について思索する国際シンポジウムを開催

欧州・中東・アフリカ交流事業費

3. 催し等事業費 / (3) 人材育成グラント [欧州・中東・アフリカ]

日本と海外の市民青少年の相互理解を促進するため、日本の団体が実施または参加する事業に対し、旅費の一部を助成する。

合計額 9,303,230 円

	事業名	対象国	助成対象機関	期間	事業内容
1	キンダーフィルム特集&ワークショップ 子供のための映画祭	イタリア	大阪ヨーロッパ映像文化振興会	2011.08.01 ~ 2011.12.31	大阪ヨーロッパ映画祭の一環として、イタリアからクリエイターを招へいし、キッズイベントを実施
2	UK-Japan Young Scientist Workshop at Cambridge 2011	英国	公益社団法人日本化学会	2011.07.01 ~ 2011.11.30	ケンブリッジ大学で開催されるサイエンスワークショップに、東日本大震災被災地域代表の高校生が参加
3	日英の若者参画政策に関する意見交換	英国	特定非営利活動法人Rights(ライツ)	2011.08.01 ~ 2011.12.31	英国で若者参画政策・シティズンシップ教育・ユースワークについて先進的実践を重ねている機関を訪問し、意見交換を実施
4	第二回日蘭学生会議	オランダ	日蘭学生会議	2011.08.01 ~ 2012.12.31	「生きるために働く?働くために生きる?」をテーマにオランダのグローニンゲン大学で開催した学生会議
5	スポーツ大会実施を通じたホームレス自立支援事業の担い手育成のための交流プログラム	フランス	NPO法人ビッグイシュー基金	2011.08.19 ~ 2011.08.29	スポーツ大会の実施を通じたホームレス自立支援事業の今後の担い手を育成するため、世界64カ国のホームレスと支援関係者が一堂に集まるホームレスによるストリートサッカーの世界大会「ホームレスワールドカップ・パリ大会」に日本側関係者を派遣
6	グローバル・ネクストリーダーズフォーラム2011東京国際大会	ブルガリア サウジアラビア トルコ チュニジア モロッコ ケニア タンザニア 南アフリカ	グローバル・ネクストリーダーズフォーラム	2011.07.04 ~ 2012.01.31	「国家間関係も一人ひとりの人間関係から」と考え、各国において将来を担うであろう学生と日本の学生間の人間関係を構築することを目的に開催するフォーラム。「資源」をテーマに、天然資源にとどまらず、人材・金融・観光等、さまざまな角度から資源の重要性を考え、今後の取り組み方を共に考察
7	第9回日本・イスラエル・パレスチナ合同学生会議	イスラエル パレスチナ	日本イスラエルパレスチナ学生会議	2011.08.04 ~ 2011.08.23	長引く紛争により現地では交流の機会を持つことが難しいイスラエル・パレスチナ学生を日本に招致し、合宿形式による会議を開催



欧州・中東・アフリカ交流事業費

	事業名	対象国	助成対象機関	期間	事業内容
8	第15回日本・トルコ学生会議	トルコ	日本トルコ学生会議	2011.09.20 ~ 2011.09.25	トルコ人学生を日本に招致し、日本人学生と共に政治、宗教、教育などのテーマ別分科会にてディスカッションを行い、更に全体会議を実施
9	日本ルワンダ学生会議第7回本会議	ルワンダ	日本ルワンダ学生会議	2011.12.23 ~ 2012.01.09	ルワンダの大学生を日本へ招致し、東京・大阪・長崎でフィールドワーク・学生会議・ダンスイベント・小学校訪問等を実施

# 日本研究・知的交流事業に必要な経費

## 日米センター運営管理費

### 1. ニューヨーク日米センター事業費

- (1) ニューヨーク日米センター企画開発事業（主催）
- (2) 日米協会支援プログラム（助成事業）
- (3) 知的交流小規模助成
- (4) 教育アウトリーチ支援小規模助成
- (5) 地域・草の根交流小規模助成

日米センター運営管理費

1. ニューヨーク日米センター事業費 / (1) ニューヨーク日米センター企画開発事業 (主催)

日米間の知的交流・草の根交流を促進し、米国内での関係団体とのネットワークを形成し、新たなニーズに即した事業を積極的に企画・開発していくために、ニューヨーク日米センターのイニシアティブにより各種事業を実施。

合計額 5,125,251 円

	事業名	協力団体名	期間	事業内容
1	ジャパン・ファンダーズ会合	米国法人 日本国際交流センター(JCIE-USA)、アジア・ソサエティ、国際教育研究所 (IIE)	2011.07.19 ~ 2011.07.23	東日本大震災支援のために支援基金を立ち上げた米国の日本関連団体、日本を助成対象としている財団、震災支援に関心を持つ日米両国のNPO/NGO関係者を招へいし、情報共有とネットワーキング、今後の支援のあり方やニーズとのマッチング方法等を討議する会議をニューヨークで実施

1. ニューヨーク日米センター事業費 / (2) 日米協会支援プログラム (助成事業)

日米における日米協会のネットワーク化とキャパシティ・ビルディングを図り、日米間の地域・草の根交流の担い手としての日米協会を育成するために支援を実施。

合計額 8,342,586 円

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
1	事業開発ディレクター確保を通じたキャパシティ・ビルディング (3年計画事業の3年目)	ジョージア日米協会	2012.07.01 ~ 2013.06.30	事業開発ディレクターを新規に採用することで、キャパシティ・ビルディングの強化を図るプロジェクト。同協会が位置するアトランタ市以外のジョージア州広域における会員数拡大のための活動 (ニーズ調査等)、活動資金獲得のためのキャンペーン実施、会員・一般向けプログラムの開発を実施
2	継続性実現のための3年計画	コロラド日米協会	2012.01.01 ~ 2012.12.31	コロラド日米協会が所在するデンバー以外へ活動範囲を拡大する事業。協会の会員拡大や文化・日本語プログラムの拡充を実施。3カ年事業の1年目
3	フロリダ日本サミット	北西フロリダ日米協会	2012.01.01 ~ 2012.12.31	フロリダ州内の日本関連団体の連携促進のための関係者のネットワーク会議を年1回実施する3カ年計画事業の1年目
4	メンバーシップ形成コミュニティづくり	ボストン日米協会	2012.01.01 ~ 2012.12.31	日米協会の会員拡大のための非常勤スタッフを雇用する他、さくら祭りの新規立ち上げや、米国北東部地方の日本関連イベントカレンダーの作成と共有等を実施

日米センター運営管理費

1. ニューヨーク日米センター事業費 / (3) 知的交流小規模助成

米国内の新たなニーズに対応した先駆的事业や、米国内の大学・シンクタンク・政府・財団関係のアジェンダ・セッティングやネットワーク会合などに機動的に対応し、通常の助成事業の企画開発へとつなげていくために小規模の助成を実施。

合計額 6,124,226 円

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
1	ジャパン・ライジング・カンファレンス	アジア・ソサエティ・南カリフォルニア	2011.10.01 ~ 2011.11.31	東日本大震災後、原発問題など日本のマイナス面が報道されがちであるため、特に日本の「強み」や「ポジティブな側面」の紹介を目的としてカンファレンスを実施。科学技術、食文化、ファッション、映画等の多様な切り口から日本の「今」を紹介、約300名の聴衆が参加
2	東日本大震災前後の日米関係	東西センター	2011.10.01 ~ 2011.11.31	東日本大震災前後での日米関係の変化を考察するため、久保文明（東京大学教授）を招へいし、ハワイ大学や東西センターの研究員・学生を対象としたラウンド・テーブル及び民間関係者も含めた公開の催しを2日間にわたり実施
3	南アジア・中央アジアにおける日本と米国：中国台頭の時代における機会と諸課題	ジョンズ・ホプキンス大学ライシャワーセンター東アジア研究所	2011.12.01 ~ 2012.05.31	従来あまり研究されてこなかった、南アジア及び中央アジアにおける日米協力の可能性、日米の関与が地域の安定にもたらす意味等について、中国の同地域での活動にも留意しつつ検証。2012年3月にトロントで開催されたアジア研究学会で実施されたセッション
4	日本・アジア太平洋・さらにその広域における情報ガバナンスの政治学	ミネソタ州立大学	2011.12.01 ~ 2012.05.31	情報・コミュニケーション技術の発達が社会や各国政府に与えるインパクトと、そのガバナンスのあり方についての諸課題を様々な角度から検証。2012年3月にトロントで開催されたアジア研究学会で実施されたセッション
5	フクシマ後のアジア各国の核エネルギー政策	ヴァンダービルド大学	2011.12.01 ~ 2012.05.31	福島原発事故が、アジア、特に今後経済発展との関係で動向が注目される中国、韓国、インド等の国々の長期的な核エネルギー政策に与えた影響を検証。2012年3月にトロントで開催されたアジア研究学会で実施されたセッション
6	民主党政権2年間の理論面と実践面における評価	カリフォルニア大学サンディエゴ校	2011.12.01 ~ 2012.05.31	民主党が政権の座について以降、その支持母体や所属政治家の特徴、候補者選出方法といった様々な角度から同政党を検証した学術的研究が意外に少ないことから、同政党の設立時から振り返り、その特徴を分析。2012年3月にトロントで開催されたアジア研究学会で実施されたセッション
7	気候変動、有毒物質の流出、エコロジー都市：環境危機に対する日米の対応ぶり	北アリゾナ大学	2011.12.01 ~ 2012.05.31	福島原発事故によって気候変動やエネルギー不足等の危機に対する取り組みが不十分であったことが露呈したのを機に、国境を越えて影響力を及ぼすこれらの問題について特に日本と米国における取り組みを軸に、検証。2012年3月にトロントで開催されたアジア研究学会で実施されたセッション
8	革新か現状維持か：震災後1年の日本の政治経済	コロンビア大学	2011.12.01 ~ 2012.05.31	日本の未来については、金融危機や震災をきっかけに成長すると見る楽観論と、構造的、政治的、イデオロギー的行き詰まりから悲観する声とに二分されるが、この差が生まれる原因について様々な分野の専門家を集めて検証。2012年3月にトロントで開催されたアジア研究学会で実施されたセッション

日米センター運営管理費

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
9	気候変動に対するアジアの対応：各国の議論の比較	ミネソタ大学	2011.12.01 ～ 2012.05.31	日・韓・中・台湾・インドについて、各国・地域の新聞が気候変動問題をどのように扱っているかを比較分析することで、各国・地域の温室効果ガス緩和政策の成否に影響を与えると考えられる文化的・政治社会的要素を検証。2012年3月にトロントで開催されたアジア研究学会で実施されたセッション
10	変化か死か：移民、外国人と、日本の政治経済における人的資源開発と国際関係の未来	デュポール大学	2012.01.01 ～ 2012.04.30	高齢化社会、低出生率など日本が直面する様々な課題に対処する方法の一つとして、人的資源開発のための政策転換の必要性について議論。外国人労働者の日本社会・労働市場での位置づけ、それら人材の活用が復興に取り組む日本にとって新たなオプションとなりうるか、といった観点から議論。2012年3月にトロントで開催されたアジア研究学会で実施されたセッション

日米センター運営管理費

1. ニューヨーク日米センター事業費 / (4) 教育アウトリーチ支援小規模助成

米国内で開催される日本理解に資する教育アウトリーチ事業（日本講座や教育向けセミナー等）に対し、小規模の助成を実施。

合計額 7,636,257 円

事業名	助成対象機関	期間	事業内容
1 桜祭り	ニューヨーク州立大学ストーニーブルック校	2011.05.01 ~ 2011.05.31	ニューヨークの都心で行われるフェスティバルとは別に、地域で身近に気軽に参加できる日本関連祭りとして開催。ニューヨーク州ロングアイランド地域のコミュニティと日系アメリカ人を結びつけ、日本文化や芸術への理解を深めることを目指す
2 共に歌う：2011年セントラルパークのジャパン・デイ	ジャパン・デイ	2011.04.01 ~ 2011.05.31	ニューヨークのハーレム地区の青少年が日本のプロの4人組コーラスと一緒に英語と日本語で歌を練習し、共にステージで歌う経験を通して、日本文化のみならずお互いの文化的背景を学び、相互理解を深める事業
3 芸術を通じた日本文化	国際子供美術財団	2011.06.01 ~ 2011.06.30	ワシントンDC公立学校の8歳から16歳までの生徒とその家族に、日本の芸術や文化の歴史を紹介する事業。日本をテーマにした参加型、体験型の一般公開ワークショップを開催
4 七夕：夏の星のお祭り	ボストン子供博物館	2011.08.01 ~ 2011.08.31	来館する子供や家族を対象に、8月に行われる仙台の七夕祭りに合わせて七夕特集の映像を放映するほか、仙台の伝統的な飾りの作成、伝統的な日本の遊びや夏祭りの慣習、音楽や踊り等を紹介するとともに、東日本大震災の被災地や状況について理解を深める事業
5 アメリカ議会図書館桜寄贈関連教育企画	米日カウンスル	2012.03.01 ~ 2012.08.31	アメリカ議会図書館における「東京からワシントンDCへの桜寄贈（1912）」、「日本人から見た桜の美しさとその象徴」、「アメリカ人から見た桜」の三部構成の展示に合わせて、特別ガイドツアーや学生向けの日本語や文化に関する教育プログラムを提供
6 ダンスで日本文化を学ぶ無料教育プログラム	一戸小枝子ダンスカンパニー	2011.08.01 ~ 2011.09.30	子供を対象とした日本の伝統文化に関するワークショップ。着物や扇子を用いたデモンストレーションや日本の子供の遊びや踊りを実際に体験しながら日本の文化に触れる機会を提供
7 被爆者の物語	ユース・アーツ・ニューヨーク	2011.12.03 ~ 2012.05.13	日本等から原爆被爆者4名を招へいし、ニューヨークの公立高校において、軍縮や平和教育をテーマにした授業を実施
8 グローバル教室：日本へのパスポート	ワン・ツー・ワールド	2012.02.01 ~ 2012.12.31	ニューヨークの恵まれない境遇の青少年に、日本や日本文化に接する機会を提供することで、日本を身近に感じ、世界や国際関係に心を向ける契機とする事業。日本からのフルブライト研究者や留学生を教室に招へいし、交流するワークショップを開催
9 『この空の花ー長岡花火物語』（第18回ホノルル・フェスティバル）	ホノルル・フェスティバル財団	2012.03.01 ~ 2012.03.31	新潟県長岡市がホノルルの姉妹都市となることから、第18回ホノルルフェスティバルにて、長岡花火大会と映画『この空の花ー長岡花火物語』を紹介するセミナーを開催
10 春祭り2012	ボストン日本人会	2012.03.29 ~ 2012.04.30	日本から米国への桜寄贈100周年を記念して、ボストンで初めての開催となる春祭りを実施。地域の家族や小中高校生に対し、在ボストン日本人アーティストによる日本の音楽や踊りを紹介

日米センター運営管理費

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
11	ジャパン・スーツケース	リビルディング・トゥギャザー オクラホマシティ日米協会	2011.05.01 ～ 2012.03.31	オクラホマシティ日米協会とNPOリビルディング・トゥギャザーが協力し、オクラホマ市及びその周辺地域の子供から大人まで広い対象層に対し、日本文化をテーマとするワークショップを実施
12	ジャパン・コネクション：文化シンポジウム2011	サウスカロライナ弓道連盟	2011.07.01 ～ 2011.09.30	茶道、着物、生け花、根付、建築、歴史等に関する専門家によるマルチメディア・シンポジウムをジョージア州アトランタ市及びサウスカロライナ州グリーンビル市で実施
13	『千羽鶴』	ルース・エッカード・ホール	2011.10.01 ～ 2012.02.29	地方の子供たちを対象に佐々木禎子の実話に基づく『千羽鶴』(A Thousand Cranes)の公演ツアーを実施。芝居を鑑賞後、生徒たちは出演者とともにディスカッションや質疑応答等、子供の年齢に応じたワークショップを実施
14	日本特集ウィーク	ランダー大学	2011.09.01 ～ 2011.09.30	「日本特集ウィーク」と題してサウスカロライナ州グリーンウッド市及び周辺地域を対象に、講演、映画上映、パネルディスカッション、展示、ワークショップなど、複数の切り口から日本文化を紹介するイベントを実施
15	日本文化公演：落語ワークショップ	フィンドレー大学	2011.10.01 ～ 2011.10.31	オハイオ州北西部の学校（幼稚園から大学まで）にて小規模な落語のワークショップを複数回開催。公演及び公演者との交流を直接体験することを通して日本文化理解を促進
16	日本に出会う明るい未来たち	東部ミシガン大学	2011.12.01 ～ 2012.03.31	日本文化と殆ど接点のないミシガン州イプシランティ市において、5週間の日本クラブを開催する事業。小学校3年生から高校生までの生徒達に、日本の食べ物や美術、文学、科学技術などを紹介
17	「つながる」イニシアティブ	バージニア大学	2011.12.01 ～ 2012.05.31	バージニア州の教員に日本語や日本の文学、伝統、時事問題への知識や理解を深めるための「つながるイニシアティブ」事業。幼稚園から高校までの教員向け研修やゲスト講師によるセミナー、バージニア州の学習指導基準に適合するカリキュラム作成等を実施
18	桜植樹記念教育プログラム	オハイオ州立大学	2012.02.01 ～ 2012.05.31	東京都から米国ワシントンDCへの桜贈呈100周年を記念して、日本政府からオハイオ州コロンブス市に20本の桜の木が贈呈される。コロンブス市政200周年記念事業の一環として、植樹先のフランクリン公園植物園とともに様々な教育プログラムや記念イベントを実施
19	桜寄贈友好100周年事業	広域シンシナティ日米協会	2012.03.01 ～ 2012.05.31	日本から米国への桜寄贈100周年を記念して、シンシナティの美術館、植物園、日系企業とも協力し、地元の市民、小中高校生・大学生を対象に、日本文化紹介事業を実施。日本の相撲、太鼓、着物、禪の庭園などを紹介
20	日本の凧プロジェクト：桜寄贈100周年記念イベント	インディアナ日米協会	2012.03.30 ～ 2012.04.30	日本から米国への桜寄贈100周年を記念して、仙台から伝統凧の職人を招へいし、インディアナポリスやシンシナティの周辺地域の小中高校生や大学生を対象に、凧の文化や歴史に関するレクチャーと、凧作りのワークショップを実施
21	アパラチア日本文化紹介週間	ラドフォード大学	2012.03.15 ～ 2012.04.14	ヴァージニア州ラドフォード（アパラチア地域）において、日本の文化を1週間集中的に紹介する事業。日本の古典及び現代映画を3本上映、日本の文化や経済、社会に関する学術レクチャーを3回実施。更に、地域の小学校を訪問し、紙芝居や人形劇を実施

日米センター運営管理費

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
22	合気道セミナー（成山哲郎）	トゥレーネ大学	2012.02.10 ～ 2012.04.30	NPO法人日本合気道協会から成山哲郎を招へいし、地域の小中高校生、大学生や一般熟練者を対象に、日本の精神文化に焦点を当てた合気道のレクチャーやワークショップをニューオーリンズで実施。併せて、日本の武道を研究する研究者との学術シンポジウムも開催

1. ニューヨーク日米センター事業費 / (5) 地域・草の根交流小規模助成

米国内で開催される日米間の地域・草の根レベルでの交流事業に対し、小規模の助成を実施。

合計額 3,101,452 円

	事業名	助成対象団体名	期間	事業内容
1	グアム日米協会設立に向けて	ハワイ日米協会	2012.03.01 ～ 2013.02.28	グアム日米協会設立支援を目的として、グアムのビジネス、政府、教育・研究分野、米軍等の各リーダーや関係者のネットワーキングの機会となる二度の交流イベントを実施
2	将来のための資金調達：中西部の日米協会を対象として	ペンシルベニア日米協会	2012.03.01 ～ 2012.03.31	米国中西部地域の日米協会及びその理事会を対象とする資金調達のノウハウや戦略に関する研修セミナーを開催
3	1920年代の日米友好親善人形交流	タウプマン美術館	2012.03.01 ～ 2012.06.09	1927年に行われた日米間の人形を通じた友好親善交流に焦点を当て、日米の長い市民レベルの友好を再確認する事業。3体の人形や人形にまつわる小物の展示とともに、地域の図書館との共催で、漫画、折り紙、習字、太鼓などに関する教育プログラムやワークショップを実施
4	若手中堅職業人材アウトリーチプログラム	ケンタッキー日米協会	2012.03.15 ～ 2012.12.30	ここ数年深刻な会員数の減少に直面している日米協会が、会員拡大を目的に、若手・中堅の職業人材を対象にしたネットワークイベントや、キャリアに関するレクチャー、語学クラス、スポーツ交流イベントを実施



# 日本研究・知的交流事業に必要な経費

## 日米交流推進費

### 1. 人物交流事業費

- (1) 安倍フェロークシツプ
- (2) 市民交流支援（日米草の根交流コーディネーター派遣／JOI）

### 2. 催し等事業費

- (1) 日米交流支援（助成）
- (2) 日米交流支援（主催）

日米交流推進費

1. 人物交流事業費 / (1) 安倍フェロシップ

日米間の知的交流を促進すると同時に、現代の地球規模の政策課題で、緊要の取り組みが必要とされる問題に関する学術的、国際的な調査研究を増進し、日米の専門家間の新しい協働関係とネットワーク形成を支援する。

合計額 162,383,878 円

	氏名	現職	研究テーマ
1	北尾 早霧	ニューヨーク市立大学ハンターカレッジ経済学部 准教授	米国及び日本における人口構造の変化と持続可能な公的年金制度について
2	酒井 理恵	順天堂大学医学部 助教授	小児科医師数の地域偏在に関する基礎的研究－日米比較から－
3	林 容子	尚美学園大学芸術情報学部 准教授	認知症を含む高齢者を対象とする創造性と文化的プログラムの効果とそのための人材育成に関する研究
4	福田 亘孝	青山学院大学社会情報学部 教授	社会経済政策がチャイルド・ケア・サービスに与える効果の日米比較研究
5	吉本 秀子	山口県立大学 国際文化学部准教授	アメリカの広報外交と沖縄のニュースフレーム
6	梶原 みずほ (ジャーナリスト)	『朝日新聞GLOBE』 記者	アクアポリティックスの幕開け－水の安全保障と日米の戦略－「土地争奪」の事例研究から
7	田口 恵美里 (ジャーナリスト)	フリーランス・ビデオジャーナリスト	エネルギーの値段
8	アンドリュー・ティード	シカゴ大学高齢化研究センター 研究員	日米における老年層に広がる鬱症状の社会支援効果の比較研究
9	イアン・ミラー	ハーバード大学歴史学部 准教授	大都会の中の自然：グローバル時代における日本の都市計画
10	ジャネル・ノックス・ヘイズ	ジョージア工科大学公共政策スクール 助教授	アジア・米国・欧州における環境ファイナンスの制度的発展についての比較分析
11	ジョセフ・コールマン	インディアナ大学ジャーナリズムスクール ハワード記念プロフェッショナル	老人とハンマー：将来の高齢労働者層を構築する取組み
12	トーマス・バーガー	ボストン大学 国際関係学部准教授	シャドーボクシングと同盟維持の要領：ヨーロッパとアジアにおける米国の同盟システム
13	メリッサ・メルビー	デラウェア大学文化人類学部 助教授	日米の食習慣問題と原因・解決の理解における専門家と一般市民の違いについて
14	ロン・クラシゲ	南カリフォルニア大学歴史学部 准教授	再度扉を閉じるのか？ 日米移民危機の教訓
15	エリック・ジャフ (ジャーナリスト)	ノンフィクション・ライター	大川周明の汎アジア主義と現代への遺産
16	ドナルド・カーク (ジャーナリスト)	フリーランス・ジャーナリスト	不満足の基地：日本と韓国における米軍のプレゼンス

日米交流推進費

1. 人物交流事業費 / (2) 市民交流支援(日米草の根交流コーディネーター派遣/JOI)

日本との交流の機会が比較的少ない地域における対日関心の喚起や日本理解の促進、草の根交流の担い手育成を目的に、ボランティアとして草の根交流のコーディネーターを派遣する。コーディネーターは、主に米国南部の日米協会や大学等の地域交流活動の拠点に配置され、学校やコミュニティで、日本の文化、社会、生活、日本語に関する知識や情報を提供し、また日米交流を深めるための活動を展開する。

合計額 30,290,310 円

	氏名	派遣先機関	期間
1	第8期：青木 真子	ウェイク・フォレスト大学 東アジア言語文化学部（ノースカロライナ州）	2009.08.01 ～ 2011.07.31
2	第8期：木幡 陽子	アーカンソー大学 フォートスミス校（アーカンソー州）	2009.08.01 ～ 2011.07.31
3	第8期：森下 佳南	ウェブスター大学（ミズーリ州）	2009.08.01 ～ 2011.07.31
4	第8期：吉本 道子	ウェスタンミシガン大学 曾我日本センター（ミシガン州）	2009.08.01 ～ 2011.07.31
5	第8期：米倉 夏江	フィンドレー大学（オハイオ州）	2009.08.01 ～ 2011.07.31
6	第9期：佐藤 嘉ン奈	ミネソタ日米協会（ミネソタ州）	2010.08.01 ～ 2012.07.31
7	第9期：日高 夢	アイオワ大学（アイオワ州）	2010.08.01 ～ 2012.07.31
8	第9期：光林 瑠美	バルパライソ大学（インディアナ州）	2010.08.01 ～ 2012.07.31
9	第9期：森 文彦	インターナショナル・インスティテュート・オブ・ウィスコンシン（ウィスコンシン州）	2010.07.26 ～ 2011.08.30
10	第10期：大野 麻未	グレーター・シンシナティ日米協会（オハイオ州）	2011.07.26 ～ 2013.07.25
11	第10期：熊代 智恵	テキサス大学サンアントニオ校 東アジア・インスティテュート（テキサス州）	2011.07.26 ～ 2013.07.25
12	第10期：鶴田 孝俊	ヒューストン日米協会（テキサス州）	2011.07.26 ～ 2013.07.25
13	第10期：星野 麻衣	ネブラスカ大学オマハ校 国際プログラム（ネブラスカ州）	2011.07.26 ～ 2013.07.25
14	第10期：松岡 愛美	ウォフオード・カレッジ（サウスカロライナ州）	2011.07.26 ～ 2013.07.25
15	第10期：山田 梓	マーシャル大学（ウェストバージニア州）	2011.07.26 ～ 2013.07.25

日米交流推進費

2. 催し等事業費 / (1) 日米交流支援(助成)

公募助成においては平和で安定的かつ公正な国際秩序の形成に向けた、多様な利害関係者による対話の促進、およびグローバル化が世界各地のコミュニティにもたらす様々な影響を克服するための、多様な境界を越えた連携の促進、を募集対象とする。このほか、日米間の連携・パートナーシップ構築の推進、日米間の基盤強化や知日層の育成・拡大を目的とする事業を企画参画助成にて支援する。

合計額 442,283,727 円

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
1	日本グローバルスカラー事業 (3カ年事業の2年目)	オレゴン大学	2011.08.01 ~ 2012.07.31	学部を卒業するまで一環した日本語イマージョン教育を行うコースを新設し、高度な日本語能力を有する専門家庭教育を目指す事業
2	イリノイ日本舞台芸術ネットワーク (IJAPN) (3カ年事業の2年目)	イリノイ大学	2012.01.01 ~ 2012.12.31	イリノイ大学東アジア言語文化部が中心となりNYのジャパンソサエティ、慶応大学と協力して公演事業・講演を行い舞台芸術関係者間のネットワークを図る事業
3	RIPS日米パートナーシッププログラム (2カ年事業の2年目)	一般財団法人 平和・安全保障研究所 (RIPS)	2011.08.09 ~ 2012.08.08	日本と米国との協力関係の維持・発展に学問的、実務的な面から携わり、将来的にリーダーシップを発揮することが期待される人材を集中的に育成することを目的として、通年で各種のセミナーやフィールドトリップ、論文作成のための指導を行う。2年間のプログラム終了時に、各フェローは論文を提出するとともに、プログラムの一環として公開セミナーを開催し、広く一般へ知見を普及
4	台頭する中国とインド：日米にとって 挑戦か好機か (3カ年事業の3年目)	外交問題評議会	2011.03.01 ~ 2012.02.29	グローバルな課題における中国とインドの台頭を分析し、両国が国際関係マネジメントに及ぼす影響を解明。さらに、現代の国際的なパワーシフトと、日米の政策選択のリンクを研究。日米の官民両セクター方針決定者に、協力の機会に関する政策関連指針を提供
5	日・米・韓対話：東アジアにおける軍事抑止と安全保障 (2カ年事業の2年目)	センター・フォー・ナショナル・インタレスト	2011.12.01 ~ 2013.01.31	日・米・韓3国の安全保障及び外交分野の専門家らによる対話事業。中国や北朝鮮に対する外交政策などをテーマに安保分野における3国同盟の重要性についての相互理解を深めることを目的とし、ワシントンと東京で半年ごとに対話セッションを交互に開催
6	国際教育リーダーシップ&交流プログラム (3カ年事業の2年目)	アイダホ人權教育センター	2012.01.01 ~ 2012.12.31	アイダホ、ユタ、ワイオミングの山間部の諸州と日本との交流を促進するため、米国の教育関係者の訪日研修・ワークショップ及び日米両国の学生交流を行う。教育関係者の交流にあたっては、中等教育での日本理解のためのレッスン・プランの開発を目標とする。また、学生交流では、特にリーダーシップ育成、市民教育、市民参加、文化財保護、異文化交流などのテーマについて学習
7	日本伝統芸能インフォメーション・ディレクター (2カ年事業の2年目)	ファイブ・カレッジ東アジア研究センター	2012.02.16 ~ 2012.12.31	米国在住の日本伝統芸能アーティストのディレクトリーを作成し、これをウェブサイト上で公開することにより、米国の地域・草の根レベルでの日本文化紹介活動を促進するプロジェクト。2011年にディレクトリーを作成し、2012年10月にマサチューセッツ大学アムハースト校において、ディレクトリーの紹介及び教育分野での利用方法に関する会議・ワークショップを開催し、ディレクトリーを普及

日米交流推進費

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
8	日米の市民と軍による防災イニシアチブ (2カ年事業の1年目)	ピース・ウィンズ・アメリカ	2011.04.01 ~ 2012.06.30	災害多発地域であるアジア太平洋において、災害への対応と防災についての対話を通じて、日米のみならず、最近災害対策に重要な役割を果たしつつある韓国やインドネシアとも連携を深める事業。東京とワシントンでワークショップ及びフォーラムを開催し、日本の自衛隊や米軍の果たす役割の重要性を確認すると共に、NGOなどの市民組織が果たす役割を相互に理解し、これからの防災計画に役立てる。成果として政策ペーパーを作成、普及
9	日米姉妹都市交流ネットワーク (3カ年事業の2年目)	シスター・シティーズ・インターナショナル	2012.02.01 ~ 2013.01.31	日米姉妹都市交流の再活性化を目的に、ジャパン・リサーチ・フェローを採用し、ベスト・プラクティスを調査して、ブックレットを作成。また、公募で米国内の姉妹都市交流を募り、20名(特に若手)を日本に派遣するためのコーディネートを行う。年次総会や地域大会で報告会を開催し、姉妹都市モデルを通じた持続可能性や経済的イニシアティブに関してディスカッションも実施
10	国家及び地域レベルの移民：日米における将来の経済成長と地域社会への影響	カリフォルニア大学サンディエゴ校	2011.02.25 ~ 2012.01.31	日本や米国のシビルソサエティの関係者が共同で、米国と日本で計四回の会合を開催。移民や移民政策が、どのように国家、地域レベルの政治、経済、そして社会的政策に影響を及ぼすかを検証し、国際社会に向けたより良い移民政策を作るための分析・対話を実施。事業終了後は、成果物として、ウェブサイトや報告書を通じて広く政策提言を実施
11	民間開発支援の現状とその効果・役割について：日米アジアにおける共通理解を目指して	CSOネットワーク	2011.02.01 ~ 2012.05.31	米国やアジア等海外で年々規模や影響力を増している企業、NGO、財団、大学などの民間による途上国の開発支援(PDA: Private Development Assistance)について、日米やアジアから広く情報を集め、PDAの役割と責任に関する議論・分析を推進し、今後の開発援助の方法に繋げる。海外調査、年5回の研究会を行い、成果発表の場としてシンポジウムを開催
12	国際環境ガバナンスにおける多様な行為主体の効果的参加のための制度設計 (2カ年事業の1年目)	国際環境ガバナンス制度設計研究実行委員会	2011.03.01 ~ 2013.03.31	グローバルな取組みが必要とされている国際環境ガバナンスについて、議論や知見を収斂することを通じて科学的コンセンサスの範囲を導き、効果的制度の方向性を示す2カ年計画事業。1年目は日米で計二度の国際ワークショップ開催を通じて政策担当者、NGO、企業・経済団体等の多様なステイクホルダーとの対話・議論を実施。
13	日米協会ネットワーク支援事業 (3カ年事業の2年目)	全米日米協会連合(NAJAS)	2012.03.01 ~ 2013.02.28	全米日米協会連合(NAJAS)が、特に中小規模の会員メンバーの支援を優先しつつ、日米協会全体の経営基盤の安定と活動の促進を目的として、年次総会の際にメンバー団体の事務局長を対象としたトレーニング・ワークショップを開催、更に新規に採用された事務局長へのオリエンテーションを実施。また、理事会メンバーのサポート、メンバー団体と協力して講演会をシリーズで開催、等の事業を実施

日米交流推進費

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
14	日本を身近に：教育関係者に対するオンラインを活用したリソース提供プロジェクト (3カ年事業の2年目)	プライマリー・ソース	2012.03.01 ~ 2013.02.28	米国のK-12レベル（幼稚園から高等学校まで）の教員を対象として、日本の歴史や文化に関する大学院レベルの研修や小学校教員向けの教材を開発し、オンラインで提供する事業。完成した研修や教材のアウトリーチ活動のほか、ウェブ上での日米教師交流や研修修了者に対するオンライン・セミナー（ウェビナー）等を実施。2年目は、1年目に開発したオンライン研修を実施するほか、日本の教育関係者との相互交流を目的とした訪日事業を実施
15	J-Center：中西部地域における日米関係強化事業 (3カ年事業の2年目)	米国市民外交センター	2012.03.01 ~ 2013.02.28	米国中西部地域10州と日本の市民レベルでの交流を強化するため、申請機関内に「日本センター」を設置し、日米交流に従事している市民団体やNPO/NGOのディレトリ作成及び関係団体をネットワーク化。更に、大学や初中等教育レベルでの日米交流プログラムの調査及びベスト・プラクティスの共有、日米交流促進のためのアドバイザー・カウンシルの設立、交流強化のための訪日及び日米両国における会議開催、等を実施
16	ジャパン・コネクション (2カ年事業の2年目)	全米舞台芸術ネットワーク(NPN)	2012.03.01 ~ 2013.03.14	日本コンテンポラリー・ダンス・ネットワークと共同で、日米間の幅広い舞台芸術関係者の交流促進のために、相互訪問・視察・意見交換を行うと共に、ウェブサイトやメールマガジンなどの多様な媒体を通じて日米間での情報共有を図る事業
17	ボランティア・リーダーズ・スクエア・プログラム (3カ年事業の2年目)	ユナイテッド・プラネット	2012.03.01 ~ 2013.02.28	将来のNPOリーダーや社会企業家の育成につながるよう、日本とのボランティア交流プログラムを新たに立ち上げ、米国からのボランティア派遣と日本から米国へのボランティア受入を行うプロジェクト
18	ブリュッセルフォーラム2011	ジャーマン・マーシャル・ファンド	2011.03.20 ~ 2011.06.30	ブリュッセルフォーラムは、米国及び欧州を中心としたハイレベルの政府関係者や有識者、グローバル企業経営陣、ジャーナリストが参加する「政治版ダボス会議」を目指した、国際会議。2011年3月25日から27日にブリュッセルで開催。フォーラムのテーマは「米欧関係、経済成長、雇用創出、貿易自由化競争、貿易のための日本円」等
19	東アジアにおける多角的安全保障とガバナンス一次の半世紀に向けて	2011年 5大学連合国際共同研究準備委員会	2011.03.15 ~ 2012.03.31	安全保障研究に実績を有する五大学（東京大学、プリンストン大学、北京大学国際関係学院、高麗大学、シンガポール国立大学リー・クアンユー公共政策大学院）の研究者等から構成される任意グループがアジアの安全保障と中長期的政策構想について共同研究を行い、2011年12月に東京で国際会議を実施
20	シンポジウム「日米関係の新しい枠組みを目指して」	米日カウンシル	2011.04.01 ~ 2011.07.31	日米から政策立案関係者・経営者等を招へいしてシンポジウムを開催し、政財界がリーダーシップをとった東日本大震災後の新しい日米関係のあり方について基調講演を通じて考察。また、グローバルな枠組みのなかでの日本の位置づけについてもパネル・ディスカッションを通じて討議

日米交流推進費

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
21	総合防災に関する国際会議：災害概念の再構築リスク統治能力不足の克服を目指して	特定非営利活動法人 国際総合防災学会	2011.04.01 ~ 2011.12.31	世界中から自然科学・社会科学の研究者、国際機関、政府、NPO関係者を招へいして、2011年7月14日～16日に南カリフォルニア大学でシンポジウムを開催。災害拡大の背景には貧困や統治能力不足を含めた社会の脆弱性というリスクがあることも視野に入れて、総合的な災害リスクマネジメントに関して議論を実施。成果として、会議の議事録と発表資料をウェブ上で公開し、発表論文をジャーナルに掲載
22	日米の非営利メディアの調査と日本におけるパブリック・ジャーナリズムの実践	特定非営利活動法人 NPO研修・情報センター	2011.04.01 ~ 2012.03.31	地域の課題を市民とともに解決する役割を担うべき存在としての「パブリック・ジャーナリズム」について、米国での実践例を踏まえて日本における普及・実践を図るプロジェクト。2011年8月に米国視察、同年11月23、24日に報告を兼ねた国際シンポジウムを早稲田大学で実施。また、「共働e-news」を発信し、パブリック・ジャーナリズムの実践を行うほか、フォーラムの成果を報告書にまとめ配布
23	米国、日本、中国における社会政策支出と防衛政策支出についての実証研究	同盟研究会	2011.04.01 ~ 2012.03.31	少子高齢化社会における社会政策支出と防衛政策支出に対する一般市民の考えや志向を探ることを目的として、日本、米国、中国における世論調査を通して東アジアの安全保障に対する意味合いを探求する調査研究プロジェクト。2011年秋に東アジアの外交と安全保障を考察する国際ワークショップを開催するほか、世論調査をふまえた分析結果等の報告書を作成
24	創造都市とグローバル・エコノミー—イノベーション社会の原動力はアート、デザイン、想像力—	法政大学キャリアデザイン学部	2011.04.01 ~ 2012.03.31	文化・芸術を活用した創造的な地域振興・都市再生の取り組み例（ハイテク産業関係者とアーティスト・デザイナーとの対話を通して社会的イノベーションを目指した米国サンノゼの取り組みやグッゲンハイム美術館によるイスラム圏での西洋美術館の建設プロジェクト等）を検証しながら、「創造都市」の進むべき方向や大学や文化機関、市民の果たすべき役割を議論。東京での公開シンポジウムではビジネス界、文化機関、市民団体等広範な機関に参加を呼びかけ、広くその成果を普及
25	変化を遂げる日本の人身取引対策—米国と韓国の成功と課題に学ぶ	特定非営利活動法人 ポラリスプロジェクトジャパン	2011.04.01 ~ 2012.06.30	米国や韓国の人身売買対策の成功や課題を共有することを目的として、公開シンポジウムと官民によるクロードセッションを実施する事業。公開シンポジウムの成果を報告書にまとめ、今後の政策提言に利用
26	2011ジュニア・ウィングス・プログラム	社団法人 七尾青年会議所	2011.04.01 ~ 2012.03.31	日米における人材の育成を目的として、石川県七尾市と米国カリフォルニア州モンレー市で青少年の相互訪問による交流を行う他、2011年10月に日米教育関係者による公開フォーラムを実施
27	21世紀の日米韓中関係	パシフィック・フォーラムCSIS	2011.04.01 ~ 2012.03.31	日本、米国、韓国、中国の外交、安全保障及び協調関係に関する対話とネットワークを目的として、4カ国から専門家を集めて2011年10月と11月にソウルで会合を開催。人材育成を兼ねた10月の会合では若手研究者34名が活発に議論を交わし、成果を報告書にまとめた

日米交流推進費

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
28	京都上級・古典日本語サマープログラム	京都アメリカ大学コンソーシアム (Kyoto Consortium for Japanese Studies)	2011.04.01 ~ 2012.03.31	日本に留学中の外国人学生からのニーズは高いものの開講数が少ない、上級レベルの現代日本語や古文のコースを設けるためにサマープログラムを開講。京都という立地を生かした文化活動も実施。将来の知日層育成を図る
29	日米印戦略対話 (2カ年事業の1年目)	岡崎研究所	2011.04.01 ~ 2012.03.31	グローバルコモンスの安定利用、地域多国間協力枠組みの強化、核軍縮、不拡散の促進を目的として、日米印の関係者による対話を実施。2011年ニューデリー、2012年ワシントンDCで国際会議を開催。3カ国協力に関する報告書を和英にてとりまとめ、研究者・政策決定者に配布説明
30	「スマートパワー」時代における国際公共財形成の展望と課題～「同盟」概念の深化と拡大をめぐる	公益財団法人 日本国際フォーラム	2011.04.01 ~ 2012.09.30	「スマートパワー」時代の同盟の意味と機能を明らかにした上で、それが自由で開かれた国際秩序の維持にいかなる役割を果たしうるかを検討し、日米同盟の新たなビジョンを提示することを目的として、公開シンポジウム及び非公開の専門家ワークショップを東京にて実施。研究成果は、英文論考として、CSISプレスから商業出版
31	移民と競争力：日米比較 (2カ年事業の1年目)	マイグレーション・ダイアログ	2011.04.01 ~ 2012.03.31	移民労働力が、ホスト国の労働者や主たる雇用者たる主要産業の競争力にどのような影響を与えるかについてのメカニズム理解促進を目的として、移民労働力の導入と、賃金トレンド、イノベーションや生産性向上率の相関比較、採用や研修システムなどについて分析を行う。成果は、編著としてオックスフォード出版会からの刊行
32	アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター・運営強化事業 (3カ年事業の2年目)	アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター (IUC)	2011.04.01 ~ 2012.03.31	アメリカ・カナダ大学連合日本研究センターの事業運営強化に必要な経費支援を行う3カ年事業の2年目。主に、学生奨学金の支給を支援
33	地域の気候変動適応策推進に向けた日米政策対話 (2カ年事業の1年目)	一般社団法人 イクレイ日本	2012.03.01 ~ 2013.02.28	気候変動の地域レベルでの適応対策の研究を目的に、日米でパイロット自治体を選び、適応策の導入や実施状況をテストする。2012年1～3月、4～6月、7～9月に日本でワークショップを開催し、2012年10～12月に米国でワークショップを行う。2013年6月にボンで開催される国際フォーラムで最終的な事業成果を発表。成果は日米イクレイのウェブサイトやニューズレターで情報発信するほか、政策立案のための参考資料の冊子を作成し、日本の自治体向けに配布
34	アジア太平洋越境ケア人材養成連携 (3カ年事業の1年目)	特定非営利活動法人 アジアン・エイジング・ビジネスセンター	2011.04.01 ~ 2012.03.31	高齢者介護を担う人材確保と育成が国際的に共通する課題となっている現状において、介護人材の国際化への対応に必要な共通教材や人材育成システムの開発を目的とする3カ年計画事業。日米及びインドネシア、マレーシアの参加者の協力を得てそれぞれの地でスタディツアー、ワークショップ会合を重ねた上で、国際的介護人材養成の共通教材(日本語版・英語版)を発行



日米交流推進費

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
35	グローバル紛争・協力研究所 (IGCC) による北東アジアの防衛の透明性に関するプロジェクト	カリフォルニア大学サンディエゴ校	2011.04.01 ~ 2012.03.31	各国の防衛白書や防衛に関するウェブサイトなどから情報を収集して、北東アジア地域各国の、防衛に関する情報公開(防衛プログラム、政策、予算、包括的安全保障戦略等)の度合いを調査。7つの領域から成るインデックスを作成して、ウェブサイト上で公開。また、防衛の透明性に対する日本の取り組みをケーススタディとして検証
36	日米青年政治指導者プログラム (訪米プログラム)	公益財団法人 日本国際交流センター	2011.05.01 ~ 2011.09.30	日本の超党派の若手政治家、政策秘書、政党スタッフ等の政治指導者を米国に派遣し、各界のリーダーとのネットワークを形成するプロジェクト
37	金属のライフサイクル分析：衛生、環境および生産性の向上にむけて	ハーバード大学 公衆衛生学部	2011.05.01 ~ 2012.01.31	日本、世界各国の金属リサイクル政策及び取組を研究するため、2011年10月31日から11月2日にかけて東京大学で国際会議を実施。参加者はハーバード大学及び東京大学をはじめとする多様な機関の関係者(計28名)。東日本大震災による環境と健康への影響についても議論
38	ポスト京都議定書の日米中における低炭素建築業セクターの三国間のリサーチネットワーク：革新的なビジネスモデル(ボトムアップ)と効果的な政策フレームワーク(トップダウン)(2カ年事業の1年目)	コーネル大学	2011.05.01 ~ 2012.04.30	日本、米国、中国の建築業界における、気候変動に対応した取り組みについて、文献収集、ケーススタディ、インタビューなどを通じて比較研究。低炭素型のビジネスモデルや新しい形態のステークホルダーの連携、昨今の革新的ビジネスモデル(ボトムアップ)と効果的な政策フレームワーク(トップダウン)の有効な融合、企業のCSRの一環としての環境に配慮した持続可能な開発への取り組みなどを考察。成果として2種類の報告書を作成
39	日米韓フィリピン女性リーダーによる分野横断的的交流：人口移動、人身取引、女性の人權	女性政策研究センター	2011.06.01 ~ 2012.05.31	人身取引をはじめとする女性の人口移動に関わる諸問題の政策立案に寄与することを目的として、日米及び韓国、フィリピンの地方政府、非営利セクター、研究機関のネットワーク形成を促進するプロジェクト。各国の各分野より参加者を得て2012年春にハワイで国際会合を開催し、送出国・中継国・受入国それぞれにおける現状と課題、対策や取り組み、政策に関する検証と議論を実施
40	アジアの統合化：理論・実践・政治(2カ年事業の2年目)	ワシントン大学	2011.10.01 ~ 2012.12.31	アジア地域全体を巻き込んだ制度設計を念頭に、貿易、金融、投資、安全保障、エネルギー、保健、環境、人権等の様々な分野においてアジア統合の理論的方法を明示し、成果を書籍として出版することを目指す事業
41	排出量取引が国際競争力と温暖化国際交渉に与える影響(3カ年事業の3年目)	上智大学	2011.06.01 ~ 2012.05.31	温室効果ガスのリーケージ問題(排出源を他国・地域に移動させることで地球規模での削減が進まないこと)と国境税(新興国からの輸入に課し、温暖化対策を促す税金)が日本、新興国及び国際関係に与える影響を、欧米での聞き取り調査や経済理論を用いて分析する3年間プロジェクトの3年目
42	日米次世代パブリック・インテレクチュアルネットワーク事業(第2期。3カ年事業の1年目)	モーリーン・アンド・マイク・マンズフィールド財団	2011.06.01 ~ 2012.05.31	米国の次世代の担い手の中で、多様な領域で日米関係を語る人材、及び日米が主導的役割を果たすことが期待される領域の専門家、日本にも関心を有する若手・中堅世代の人材との間に緊密なネットワークを形成し、相互啓発の機会の提供を目指す。日米パートナーシップの維持発展に貢献することを企図した事業

日米交流推進費

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
43	日米同盟の使命としての平和構築 (2カ年事業の2年目)	外交政策分析研究所(IFPA)	2011.06.01 ~ 2012.11.30	日米がアフガニスタンやソマリア地域における平和構築への貢献に向けた新たな方策を検討する時機において、平和構築分野での日米協働のアジェンダを模索する研究プロジェクト
44	日米加3極会議 (3カ年事業の3年目)	ジョンズ・ホプキンス大学ライシャワーセンター東アジア研究所(SAIS)	2011.09.01 ~ 2012.08.31	日本、米国、カナダの国際問題等の専門家が集い、地球温暖化、エネルギー問題、安全保障、アジア太平洋地域の平和構築等について三国間対話を行う3カ年事業。3年目となる今年度は、三国間協力や北極圏を巡る各種課題をテーマにワシントンDCで対話を実施
45	日米青年政治指導者プログラム(訪日プログラム)	公益財団法人 日本国際交流センター	2011.08.01 ~ 2011.11.30	米国の超党派の若手政治家、政策秘書、政党スタッフ等の政治指導者を日本に招へいし、各界のリーダーとのネットワークを形成するプロジェクト
46	JETプログラム同窓会国際会議	JETプログラム同窓会ニューヨーク支部	2011.08.01 ~ 2012.03.31	日米をはじめとする数カ国のJETプログラム(語学指導等を行う外国青年招致事業)同窓会支部の役員が日本に集まり、9月4日から6日にかけて同窓会の現状や運営方針(役員改選や約款の改訂等)に関する会議を開催。併せて、東北で現役のJETと共に復興支援活動を実施。更に、外務省、文部科学省、自治体国際化協会(CLAIR)と共同で9月8日にシンポジウムを開催し、今後のJETプログラムと同窓会のあり方について討議
47	日米復興市民対話―東日本大震災から一年、日本の声を伝えよう	一般社団法人 KIP知日派国際人育成プログラム	2011.12.01 ~ 2012.03.31	東日本大震災から1周年を迎える2012年3月に、東北の学生10名を含む大学生30名が訪米し、震災後の日本の状況を伝えるとともに、米国の大学生、日本関係専門家、日系アメリカ人、ビジネス関係者等と対談する機会をもつことによって、グローバルな人材の育成を目指す事業
48	人間の安全保障：日米ネットワークの構築 (2カ年事業の1年目)	北東イリノイ大学	2011.09.01 ~ 2012.08.31	日米両国間の安全保障研究者のネットワークを築くことを目的として、情報共有、共同調査及び成果普及を行う2カ年プロジェクト。人間の安全保障分野において、認知が不十分な日本の役割を検証して広めるとともに、米国における研究や対話の促進を目指す。1年目の今年度は2011年秋にシカゴで公開シンポジウムを実施
49	被災地復興ネットワーク・特別国際ワークキャンプ	特定非営利活動法人 NICE(日本国際ワークキャンプセンター)	2011.08.01 ~ 2012.03.31	ワークキャンプやフォーラムを通じて、東日本大震災被災地の復興を物心両面で応援し、生活基盤の再建等を進める。日米を中心にアジア太平洋地域の被災経験地が復興のノウハウを交換し、連携・協力を広げるネットワークを創出・発展させる事業
50	比較・グローバル保健医療研究への日本の融合 (3カ年事業の2年目)	ユタ大学	2011.10.01 ~ 2012.09.30	日本の保険医療政策の比較研究を扱う教員ポストを新設するとともに、調査・コース・資料拡充等の関連事業を実施
51	複合的災害から何を学べるか：自然・原子力災害に関わる法制度の日米比較研究	明治大学法と社会科学研究所	2011.10.01 ~ 2012.09.30	東日本大震災の被害について法学・政治学の社会科学的観点から分析し、被害防止のシステムと損害補填の仕組みについて、国際的な研究グループを立ち上げて政策的提言を行うため、第1回目国際ワークショップを2011年10月末にパークレーにて、第2回目ワークショップ及び国際会議を2012年3月に明治大学にて、第3回目会議を2012年6月にハワイでの法社会学国際大会にて実施し、その後参加者は論文を執筆し図書として刊行するプロジェクト

## 日米交流推進費

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
52	日本との架け橋プロジェクト (3カ年事業の1年目)	サンフランシスコ・アジア美術館	2011.10.01 ~ 2012.09.30	サンフランシスコ・アジア美術館が、カリフォルニア大学パークレー校や東京国立博物館の協力を得て、同美術館所有のデジタル情報を、K-12（幼稚園から高等学校まで）の教師が授業でより有効に活用可能となるようシステムを整備し、教師向けのオンライン研修を実施するプロジェクト
53	ナショナル・ジャパン・ボウル・ネットワーク (3カ年事業の1年目)	ワシントンDC日米協会	2011.10.01 ~ 2012.09.30	日本語を学習する高校生向けの全米クイズ大会「ジャパン・ボウル」を毎年主催するワシントンDC日米協会が、各地域レベルで新たにジャパン・ボウルを開始しようと考えている日米協会や学校への立ち上げ支援と共に、既にジャパン・ボウルを実施している団体とのネットワークを行う事業
54	ライシャワー奨学プログラム (3カ年事業の1年目)	スタンフォード大学国際異文化教育プログラム (SPICE)	2011.10.01 ~ 2014.09.30	スタンフォード大学国際異文化教育プログラムが、全米から選抜された25名の高校生を対象に、日本の政治・経済・文化・歴史等の遠隔教育を行うプロジェクト。開始から8年が経過した本事業の同窓会ネットワーク化も併せて実施
55	カート (CART: 日米両国の共通課題) プロジェクト	カートプロジェクト事務局	2011.11.01 ~ 2012.05.31	日本、米国、中国、東南アジアから第一線のジャーナリスト、メディア関係者、研究者が一堂に会し、日米関係の強化に資する重要な政策課題や問題領域に関して、トラックツアー形式で議論を実施。中国やインドの台頭を念頭にアジアを舞台にした日米共通の課題を見出し、その解決についてジャーナリスト的な視点で討議
56	教師向け日本理解促進セミナー全米同時中継プロジェクト	コロンビア大学	2011.11.01 ~ 2012.10.31	コロンビア大学が、National Consortium for Teaching about Asia (NCTA) ネットワークを活用し、アジア理解教育に関心を有する中等教育の教師を対象に、日本理解を深めるための専門家によるプレゼンテーションをサイマルキャストを通じて行うプロジェクト。全10回のプレゼンテーションを通じて、日本の歴史、社会、文化に対する総合的な理解を深めることを目的とする事業
57	テイラーアンダーソン記念プロジェクト (5カ年事業の1年目)	ランドルフ・メーコン・カレッジ	2011.12.01 ~ 2012.08.31	岩手県石巻市赴任中に東日本大震災の犠牲となった、米国JET（語学指導等を行う外国青年招致事業）参加者のテイラー・アンダーソン（バージニア州出身）の遺志を継ぎ、同氏の出身校であるランドルフ・メーコン・カレッジにおいて日本理解促進を図る5カ年事業。1年目は、日米交流の担い手となる学生の対日関心を高め、日本理解を深める機会を提供するために、教員を対象とした訪日研修やワークショップ、奨学事業、研究員ポストや記念ライブラリーの設置、公開セミナーを実施
58	日本の危機への対応力：第二次世界大戦から複合的大災害まで（学部学生招へい）	ワシントン・カレッジ	2012.01.01 ~ 2012.05.31	日本の危機への対応力を研修テーマに、ワシントン・カレッジの学生18名が8日間にわたり東京、松島を訪問し、日本人学生、教授、政府関係者、NGO関係者と交流及び被災地でのボランティア体験を通して、対日理解を深める事業
59	日本女性の神話と現実（学部学生招へい）	スペルマン大学	2012.01.01 ~ 2012.06.30	2012年春季学期の「日本社会における女性」という講座の一環として、スペルマン大学の学生および随伴教員計10名が東京、千葉、横浜、京都、奈良を訪問。日本の社会、文化、歴史に触れ、日本女性に関するレクチャーを受けることによって、授業での学びと対日理解を深める事業

## 日米交流推進費

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
60	知的伝統から構築された現代日本（学部学生招へい）	ネブラスカ大学オマハ校	2012.01.01 ～ 2012.05.31	「知的遺産、伝統から構築された現代日本」を研修テーマに、ネブラスカ大学の学生及び随伴教員計11名が約1週間にわたり東京、鎌倉、静岡、広島を訪問し、対日理解を深める事業
61	日本語・日本文化学習（学部学生招へい）	ハワイ大学リーワード・コミュニティーカレッジ	2012.01.01 ～ 2012.05.31	日本語の取得と日本の文化理解を研修テーマに、ハワイ大学リーワードコミュニティーカレッジの学生及び随伴教員計37名が約1週間にわたり名古屋と京都を訪問し、愛知大学での講義や豊橋でのホームステイを通じて日本語や日本文化に対する理解を深める事業
62	日本研究フェローシップ（3カ年事業の1年目）	東西センター	2012.01.01 ～ 2012.03.31	日本及び日米パートナーシップ(特に経済分野)を専門にする、アメリカ在住の日本人またはアメリカ人の若手研究者やアナリストに対し、3カ月または6カ月のフェローシップを提供。期間中、フェローはワシントンDCにおいて政策関係者や研究者との交流機会を持ち、東西センターの出版物に論文・研究ペーパーを発表するほか、公開のイベントでの報告を実施
63	東日本大震災デジタル・アーカイブ	ハーバード大学ライシャワー日本研究所	2012.01.01 ～ 2014.12.31	東日本大震災直後からハーバード大学がネット上で集積し続けている震災に関するあらゆる記録、資料、情報(画像、動画、政府・自治体等のウェブサイト、個人ブログや体験談などのデジタルアーカイブ)に関し、日本の協力団体とともに整備・蓄積を続け、研究者や一般市民が利用可能なリソースとして保存・公開。ワークショップやシンポジウムも併せて行う事業
64	東京のまちづくりと都市計画（学部学生招へい）	プラット・インスティテュート	2012.02.01 ～ 2012.08.31	日本の研究者、学生、建築家やプランナーとの対話を通じて、日本のまちづくりや都市デザインのアプローチを理解することを研修テーマに、プラット・インスティテュートの学生17名が東京、京都、鎌倉、筑波を訪問し、対日理解を深める事業
65	変遷するワシントン：米国の外交パートナーによる <i>Washington Idea Industry</i> を通じた米国外交政策へのアプローチ手段の考察とそれが日米関係に与える影響（3カ年事業の1年目）	ジョンズ・ホプキンス大学ライシャワーセンター東アジア研究所（SAIS）	2012.02.01 ～ 2013.02.13	日本以外の米国の友好同盟国のパブリックディプロマシー及び米国の対外政策へのアプローチ手法について、シンクタンク等の <i>Washington Idea Industry</i> を通じた分析・研究を行い、当該国への実地調査研究も実施。その上で、諸外国の動きが日米関係に与える影響及び日本がとるべき外交政策のあり方について考察を行う事業。1年目は年間21回の会合が行われ、ベトナム、韓国、日本への渡航調査と関係者訪問、ワシントンでのセミナー（14回のミニ会合）を実施
66	東日本大震災復興支援のための日米協力：シビル・ソサイエティの協力促進（3カ年事業の1年目）	米国法人 日本国際交流センター（JCIE/USA）	2012.02.01 ～ 2013.01.31	東日本大震災の復興支援に関する情報クリアリングハウスを日米共同で構築しようとする3カ年事業。支援活動のための資金調達を必要とする日本の団体と、支援先を探す米国の団体を結びつけ、米国から日本への効率的な資金供給の仕組みを確立することを目指す。主に、日本の市民団体に関する情報を英語で発信することで対日支援を促進するほか、日米の中間支援組織の強化や、災害時の支援活動・資金調達の仕組みについてケーススタディを分析
67	日米青年政治指導者プログラム（訪米プログラム）	公益財団法人 日本国際交流センター	2012.02.15 ～ 2012.07.31	日本の超党派の若手政治家、政策秘書、政党スタッフ等の政治指導者を米国に派遣し、各界のリーダーとのネットワークを形成するプロジェクト

日米交流推進費

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
68	広島平和学習（学部学生招へい）	インディアナポリス大学	2012.03.01 ～ 2012.07.31	平和学習を研修テーマに、広島・長崎に投下された原子力爆弾とその影響について学ぶことを目的として、インディアナポリス大学の学生及び随伴教員計14名が約2週間にわたり広島、長崎、京都、大阪を訪問する事業
69	現代日本とそのルーツ（学部学生招へい）	マウント・セント・ジョセフ・カレッジ	2012.03.01 ～ 2012.07.31	2012年春学期の「現代日本とそのルーツ」という講座の一環として、日本の文化芸術、社会、歴史に触れ、学び、現代日本がいかにして形成されているのか、授業で学んだことをより深く理解することを目的とした訪日研修旅行。マウント・セント・ジョセフ・カレッジの学生12名が14日間にわたり東京、箱根、多治見、犬山、京都を訪問し、対日理解を深める事業
70	大阪の伝統的な日本の演劇（学部学生招へい）	グランド・バレー州立大学	2012.03.01 ～ 2012.07.31	日本の伝統的な演劇の歴史について学習し、能・歌舞伎・文楽を実際に見て理解を深めることを目的とした事業。グランドバレー大学の学生15名と教員1名が約1か月間にわたり、大阪、京都、奈良等を訪問し、対日理解を深める
71	震災後日本のポップ・カルチャー2012（学部学生招へい）	ジョン・キャロル大学	2012.03.01 ～ 2012.08.31	2012年春学期の「日本のポップ・カルチャー」という講座の一環として、実際に訪日研修旅行をして日本の社会、文化、歴史に触れ、更に日本社会をより深く理解することを目的に、震災後の日本についてレクチャーを受け被災地でボランティア活動を行う。ジョン・キャロル大学の学生12名が21日間にわたり東京、京都、大阪、石巻を訪問
72	東京三極フォーラム：転換期における日米欧の協力	ジャーマン・マーシャル・フアンド	2012.02.20 ～ 2012.09.30	日米欧の研究者、政策担当者、ジャーナリスト等による東京での公開国際フォーラム及び東日本大震災の被災地域への視察等を通じて、日米欧3カ国(地域)の政策コミュニティ間のネットワークの強化と相互理解を目指す事業
73	自然エネルギーを利用した快適な建築物を目指して	カリフォルニア大学バークレー校	2012.03.01 ～ 2013.02.28	東日本大震災による原発事故をきっかけに従前のエネルギー利用についての見直しの動きが高まる中、効率的なエネルギー利用(具体的には省エネと自然エネルギーの利用)を可能にする技術を建築デザインに取り入れることを目的に、日米の研究者や建築家、政策担当者等によるワークショップを実施する事業
74	国際環境ガバナンスにおける多様な行為主体の効果的参加のための制度設計(2カ年事業の2年目)	国際環境ガバナンス制度設計研究実行委員会	2012.03.01 ～ 2013.03.31	グローバルな取組みが必要とされている国際環境ガバナンスについて、議論や知見を収斂することを通じて科学的コンセンサスの範囲を導き、効果的の制度の方向性を示す2カ年事業。1年目は日米で計2度の国際ワークショップ開催を通じて政策担当者、NGO、企業・経済団体等の多様なステイクホルダーとの対話・議論を実施。2年目には2012年5月の「持続可能な発展に関する国連会議(Rio+20)」に成果を反映させるための提案の形成のほか、出版物を刊行

日米交流推進費

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
75	アジア太平洋の災害対策と復興力をテーマとしたジャーナリズム・フェローシップ事業	東西センター	2012.03.01 ~ 2013.03.31	米国、日本、中国、インドネシア、フィリピン及びニュージーランドのジャーナリスト13名が2012年3月13～27日に日米両国を訪問。災害対策及び復興に携わる政府関係者、会社幹部、科学者、学者、ジャーナリスト、環境活動家、その他関係者と接見、会合を実施。各国の協力体制の構築へ寄与し、広義での災害報道のあり方について見識を深め、更に社会の認識を高めることを目指す事業
76	日米同盟マネジメント：在日米軍との自然災害対処協力（2カ年事業の1年目）	特定非営利活動法人 沖縄平和協力センター	2012.03.01 ~ 2014.02.28	沖縄での在日米軍を取り込んだ地域レベルでの災害対処ネットワークの構築と仕組作りを通して、日本と在日米軍間の災害対処協力体制の強化に寄与し、日米同盟を草の根から補完することを目指す事業。これまで政治問題として捉えがちだった在日米軍との協力体制を災害対処政策の観点から捉え直し、日米両政府や米軍基地が所在する自治体等に政策提言として発表、成果普及に努める
77	見て学ぶ日本の文化研究プログラム（学部学生招へい）	ケンタッキー大学	2012.03.09 ~ 2012.03.18	「見て学ぶ日本の文化」を研修テーマに、ケンタッキー大学の学生12名が2012年3月に7日間にわたり東京と日光を訪問し、対日理解を深める事業
78	福島原発事故の海洋への影響調査	ウッズホール海洋学研究所	2012.03.20 ~ 2013.08.31	福島原発事故の海洋へのインパクト（具体的には海洋の生態系と人間の健康に与える影響）について科学的調査を行った上で、一般市民や政策担当者に対して調査の成果発表を行う。東京での2日間のシンポジウム（招待者ベース）のほか、日本及び米国での公開コロキウムを実施することで、研究成果の情報共有を図り、紙媒体とウェブで政策提言に向けた成果普及を実施
79	MIT ジャパン3/11イニシアチブ	マサチューセッツ工科大学	2012.03.01 ~ 2013.06.30	東日本大震災復興支援の一環として、宮城県南三陸町のメモリアルコミュニティセンターの建築・都市デザイン計画をテーマに日米の学生に対する共同ワークショップを実施するとともに、長期的な災害復興計画を扱った教育カリキュラムの共同開発を行う。コミュニティセンターとカリキュラムに関する国際シンポジウムを実施し、その成果普及に努める事業
80	東日本大震災の創造的復興に向けた被災地の人々同士の直接対話を通じた経験・教訓の共有化	財団法人 都市防災研究所	2012.03.09 ~ 2013.11.30	ハリケーン・カトリーナ等の世界の過去の巨大災害からの復興の経験や教訓を東日本大震災の復興に活かすため、米国をはじめとする世界の被災地の関係者同士が直接対話を行う機会を設ける。更に、東日本大震災の復興の取り組みを今後の防災や復興に活かすために経験や教訓の情報を整理し、英訳して海外に提供
81	日本の政治変容と日米同盟（3カ年事業の1年目）	外交問題評議会	2012.03.01 ~ 2013.02.28	日本における政治の変化が、日米同盟にどのような影響を及ぼすかを分析する研究プロジェクト。ワシントンにおける比較研究のためのワークショップと、日本における実地調査を実施。1年目は、プロジェクト・ディレクターのシーラ・スミスが7月～8月にかけて来日し、民主党、自民党の政治家や防衛省、外務省の政策関係者等に聴き取り調査を行ったほか、7月と9月に研究者や実務家等を招へいしてワークショップを開催

日米交流推進費

2. 催し等事業費 / (2) 日米交流支援(主催)

日米間の知的交流を推進するために、セミナー・シンポジウム等を開催する。

合計額 36,243,284 円

	事業名	共催・協力機関	期間	事業内容
1	日米次世代パブリック・インテレクチュアル・ネットワーク事業(3カ年事業の3年目)	モーリーン・アンド・マイク・マンフィールド財団	2009.04.01 ~ 2012.03.31	次代の米国を担うパブリック・インテレクチュアル(グローバルな課題に取り組み、米国の世論形成に影響力を有す、あるいは今後有することが期待される人材)、特に多様な領域で日米関係を語る人材、日米が主導的役割を果たすことが期待される領域の専門家と日本にも関心を有する若手・中堅世代の人材との間に緊密なネットワークを形成し相互啓発の機会を提供することを目指す3カ年事業の3年目。日米パートナーシップの維持発展に貢献することを企図した事業
2	米国アジア専門家招へい	—	2011.03.01 ~ 2011.12.31	2011年11月のAPECにおける日米首脳会談で提唱された「日米同盟深化のための日米交流強化」を支える新規イニシアティブとして米国のアジア研究専門家の招へいが挙げられ、その一環として企画されたアジアそして世界における日米パートナーシップの強化を期する事業。米国におけるアジア観・日本観の形成に大きな影響を及ぼしうる日本になじみの薄い米国のアジア専門家をグループで招へいし、ネットワーク形成及び相互理解の醸成を目的に、日本のアジア政策関与者・研究者やパブリック・インテレクチュアル等との対話・交流や関係機関への訪問、日本文化体験等を実施
3	米国国際関係専攻大学院生招へいプログラム	米国国際関係大学院連合(APSIA)	2011.04.01 ~ 2011.10.31	米国の国際関係論を専攻する大学院生14名を招へい。日本の学者、研究者、政治家、財界人、NPO、文化人との懇談、関係機関への視察を通じて、日本の外交や社会政策の背景にある文化的・歴史的経緯にも触れる機会を供することで、親日家・知日家となるきっかけを提供し、より強固で多角的な日米関係の発展に寄与することを目指す
4	日系アメリカ人リーダーシップ・シンポジウム	米日カOUNシル (US-Japan Council)  せんだい・みやぎNPOセンター	2011.04.01 ~ 2012.03.31	多様な分野で活躍する日系米国人(主として3世・4世)を日本に招へいし、各界との対話、公開シンポジウム、報告書等出版を通じて、日米相互理解の深化と米国日系人コミュニティとの長期的関係を強化する事業。平成23年度は日系人10名が来日し、東京及び仙台を訪問するのに併せて、震災からの復興と市民社会の役割をテーマにしたシンポジウム「震災復興から日本再生へ：明日を拓く市民社会」を仙台市で開催
5	東日本大震災被災地と米国をつなぐ「元気メール」プロジェクト	エマーソン・カレッジ  米日カOUNシル  アジア・アフリカ環境協力センター(ACEC)	2011.06.26 ~ 2011.07.04	過去に国際交流基金日米センターの助成事業「米国ジャーナリズム大学院生招へい」で訪日した米国の若手ジャーナリスト4名(及び指導教官1名)が来日し、米国の子供たちが被災者のために作成した「元気メール」を被災地(陸前高田市、気仙沼市)に届けるとともに、NPO関係者との意見交換、ボランティア活動などを行い、震災後の日本に関する認識を深める事業